

外国語（英語）科における 言語活動中心の単元構想と評価の在り方に関する研究

生徒の英語によるコミュニケーション能力の向上を目指し、外国語（英語）科において、学習到達目標を明確にした言語活動中心の単元構想の在り方、及び生徒が言語活動を通して身に付けた能力を適切に評価するためのパフォーマンス課題及びルーブリックの作成方法について協議し、授業実践を行った。各実践により、ルーブリックを用いて明確な基準で評価することにより、生徒に次の学習への見通しをもたせ、学習意欲を高めることができることや、教師のさらなる授業改善に生かすことなどが示された。

<検索用キーワード> 英語 授業改善 学習到達目標 単元構想 言語活動
パフォーマンス評価 ルーブリック

研究協議会委員

県立昭和高等学校教諭	名和 孝（平成25年度）
県立名古屋西高等学校教諭	遠藤 啓史（平成25、26年度）
県立瀬戸北総合高等学校教諭	箕浦 麻里（平成25、26年度）
県立一宮興道高等学校教諭	武田 邦生（平成26年度）
県立横須賀高等学校教諭	小島 裕美（平成25、26年度）
県立豊田西高等学校教諭	今田 祐之（平成25、26年度）
県立松平高等学校教諭（現県立豊田東高等学校教諭）	山本 徳子（平成25年度）
県立西尾高等学校教諭	筒井 彩（平成26年度）
県立豊丘高等学校教諭	白井 敬子（平成26年度）
県立御津高等学校教諭	鈴木 稔（平成25年度）
総合教育センター研究指導主事	関 友彦（平成26年度）
総合教育センター研究指導主事	金澤 学（平成25年度）
総合教育センター研究指導主事	河野 健治（平成25、26年度）
総合教育センター教科研究室長	米津 明彦（平成25、26年度主務者）

1 はじめに

平成25年度に全面実施となった今次高等学校学習指導要領では、外国語科の目標を「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う」こととしている。この目標達成のためには、英語による言語活動を授業の中心として生徒が英語を使う機会を充実するとともに、生徒が身に付けた能力を適切に評価することにより、生徒に次の学習への見通しをもたせ、自律的な学習を促すことが求められている。

愛知県では、平成25年度から、英語をコミュニケーションの道具として高いレベルで使いこなす人材の育成を目指して「あいちスーパーイングリッシュハブスクール事業」を推進している。先進的英語教育の拠点となる高等学校を指定して指導方法等の研究を進めるとともに、地区別授業研修や授業づくりワークショップ等も実施して、本県英語科全体の授業改善と教員の力量向上を図っている。

総合教育センターでは、当面する英語教育の課題に関する調査研究のため、「教科指導の充実に関する研究（英語）」を研究協力委員とともに進めている。平成20年度には「TBLT(Task-Based Language Teaching)導入による英語授業の改善ータスク活動を通じたコミュニケーション能力の育成ー」という

主題設定の下、生徒の「コミュニケーション能力」の育成を図る英語授業の在り方について検討し、「TBLT：タスク中心の教授法」に焦点を当て、「タスク活動に関する基礎知識」、研究協力委員による「タスク活動を導入した授業実践例」、及び「授業を英語で行うための英語表現集」をまとめ、生徒のコミュニケーション能力の育成と英語の授業改善を図るための資料の提供を試みた。

平成24年度には「コミュニケーション能力を育成する外国語科指導の在り方に関する研究－単元構想の工夫と言語活動の充実－」のテーマで、今次学習指導要領の趣旨を踏まえて、学習到達目標を明確にした単元構想と、言語活動を中心とした英語で行う授業の在り方について検討した。生徒の実態を捉えた上で、英語によるコミュニケーション能力を育成するために、ペア・ワークやグループ・ワークを設定したり、Q-Aやワークシートを工夫したりして授業実践を行った。各実践により日本語訳に頼らず英問英答による内容理解ができることや、英語での自己表現活動において生徒の意欲が高まるなどの成果が得られ、言語活動を充実した単元構想により授業改善の効果が示された。

これらの先行研究を受けて、平成25年度から本年度にかけて、言語活動を中心とした単元構想及び学習指導案の作成方法について継続して検討するとともに、生徒が言語活動を通して身に付けた能力を適切に評価する方法についての協議を加え、評価を含めた授業実践を行うこととした。その成果と課題を考察し、これからの指導と評価の改善に向けた提案を目指すこととした。

2 研究の目的

高等学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、生徒の英語によるコミュニケーション能力の向上を目指した指導と評価の在り方について研究する。特に、学習到達目標を明確にした言語活動を中心とする単元構想の在り方、及び生徒が言語活動を通して身に付けた能力を適切に評価するためのパフォーマンス課題及びルーブリックの作成方法について、研究協力委員相互で協議し、授業実践を基に指導と評価の改善への指針を提案する。

3 研究の方法

平成25年度の研究協議会においては、学習到達目標を明確にした言語活動を中心とする単元構想及び学習指導案の作成方法について検討した。研究協力委員相互の模擬授業も行い、具体的な指導場面を想定してより効果的な言語活動を中心とした単元構想の在り方を探った。

平成26年度の研究協議会においては、生徒が言語活動を通して身に付けた能力を適切に評価するためのパフォーマンス課題及びルーブリックの作成方法について、実際に研究協力委員の所属校で行うそれぞれの単元構想を基に協議した。その上で評価を含む授業実践を行い、成果と課題をまとめる。特に所属校での実践に当たり、次の項目について明確になるように留意した。

(1) 実践のねらい

- ・生徒の学びの現状
- ・指導と評価における課題
- ・身に付けさせたい力

(2) 実践の計画

- ・学習指導計画（言語活動の工夫、ワークシートの工夫）
- ・評価計画（評価場面、パフォーマンス課題、ルーブリック）
- ・単元構想（単元の目標と言語活動、評価規準、指導と評価の計画）

(3) 実践の記録と考察

- ・授業における言語活動の取組状況
- ・評価の実際
- ・成果と課題

4 研究の内容

(1) 実践のねらいの明確化

授業と評価の実践に際し、平成 26 年度研究協力委員の各所属校におけるねらいを明確にするために、各研究協力委員が「生徒の学びの現状」及び「指導と評価における課題」把握し、「身に付けさせた力」を設定した。

(2) 実践の計画の具体化

実践の計画に当たっては、学習指導計画のうち、「言語活動の工夫」及び「ワークシートの工夫」に重点を置くとともに、評価計画に「ルーブリック」を導入した。その上で、単元の学習到達目標を実現するために、単元全体を見通した「単元構想」を作成した。

(3) 実践による成果と課題の把握

実際の生徒の言語活動への取組の様子及び評価結果を基に、学習到達目標を明確にした言語活動中心の単元構想及びルーブリックによる評価についての成果と課題を把握し、各研究協力委員の所属校での指導と評価の改善に生かすとともに、他校の参考となるように、実践に至る過程を含めて成果を発信する。

(4) 研究協力委員 7 名による実践概要

ア 県立名古屋西高等学校における実践（コミュニケーション英語Ⅰ）

「コミュニケーション英語Ⅰにおけるペア・ワークによる言語活動と評価ー積極性の育成に重点をおいた評価の流れー」をテーマとした。生徒の実態を、真面目で素直な気質で、音読活動には積極的であるが、自ら主体的に考え、課題に取り組むことや自己表現活動には消極的であると捉えた。自己表現活動に対する積極的な態度を育成するために、フローチャート形式で単元の要点を整理し、メモを基にした発表活動（ペア・ワーク）を通して自分自身の考えをまとめ、最終的にエッセイを書く言語活動を設定した。

評価については、「自分のことについて、発表することができる」（表現の能力）と「ペア・ワークにおいて積極的に自分の考えを伝えようとした」（関心・意欲・態度）を観点としたルーブリックを作成し、授業中の活動を観察して評価することとした。ルーブリックを事前に示したことで、評価の配点において、「関心・意欲・態度」に比重をかけたことにより、生徒の言語活動への取組はより積極的になった。

イ 県立一宮興道高等学校における実践（コミュニケーション英語Ⅱ）

「コミュニケーション英語Ⅱにおける討論の指導と評価ー「論点」と「根拠」をもたせる指導ー」をテーマとした。生徒の実態を、真面目で与えられた予習は期日までに行い、コミュニケーション活動には積極的に参加するが、自ら課題を見つけ、計画的に取り組むことや意見交換や議論の活動の質を高めることには課題があると捉えた。「論点」と「根拠」を明確にして自分の意見を発表する能力を育成するために、タスクシートを活用したペア・ワークを充実させ、単元のまとめの活動としてグループでのディスカッションを実施することとした。

評価については、単元の最後に行うディスカッションを中心に行った。授業中にディスカッションの様子を観察して「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」の観点から評価するとともに、ディスカッションをまとめたタスクシートを用いて「外国語表現の能力」と「外国語理解の能力」の観点から評価することとした。いずれもルーブリックに基づき評価した。ルーブリックを用いることで評価者によって評価がぶれることなく、客観性を保つことができた。また、評価に迷うことも少なく、時間も短縮することができた。さらに、評価した後は、評価表を生徒に返却することで、事後の学習上の課題や改善点を明確に把握させることができた。単元を通して論理的な意見交換の場としてのペア・ワークを繰り返し行い、自己評価による振り返りも継続したことにより、多くの生徒が相手の意見に対して自分の考えを建設的に伝えることができるようになった。

ウ 県立豊丘高等学校における実践（英語表現Ⅰ）

「英語表現Ⅰにおけるライティングの評価と指導ーパフォーマンス課題とその評価ー」をテーマと

した。生徒の実態を、ペア・ワーク、表現活動や音読に活発に取り組むが、即興性のある活動やクラス全体への発表には慎重になる生徒が多いと捉えた。積極的に英語を使って表現する態度や、キーワードを基に書いて説明する力を身に付けさせるために、日本や地元の伝統的なものや文化についての説明を聞き、その内容を他の生徒に伝えたり、キーワードを基に各自が選んだ話題について書いて説明したりする言語活動を設定した。

評価については、「伝統・文化の説明をキーワードを用いて書くことができる」「文法、綴りなどに気を付けて書くことができる」の2項目を評価規準として設定し、ループリックを用いて評価することとした。地元の食べ物から日本の伝統行事に至るさまざまな内容について、大半の生徒が自ら考えたキーワードを用いて、工夫を加えながら具体的に書くことができた。評価規準をあらかじめ生徒に示し、到達目標を意識させることで、生徒は書き方や内容にいつそうの注意を払って活動に臨むことができた

エ 県立豊田西高等学校における実践（英語表現Ⅱ）

「英語表現Ⅱにおける即興議論の指導と評価一言語活動の「活動の観察」による評価」をテーマとした。生徒の実態として、学びに前向きで活発な生徒が多く、積極的にペア・ワークや自己表現活動に取り組むが、英語による表現力はまだ不足していると捉えた。英語を用いて論理的に意見を主張し、議論する能力を向上させるため、家庭学習から授業中の言語活動に至るまでの一連の内容を盛り込んだワークシートを作成するとともに、単元の冒頭で行うペア・ワークにおいて即興で議論する言語活動を設定した。

評価については、「スマートフォンの功罪について、即興で議論できる」（外国語表現の能力）と「ペア・ワークにおいて互いに協力しながら会話を続けることができる」（コミュニケーションへの関心・意欲・態度）の2点について、ループリックに基づき、授業中の活動を観察して評価することとした。ループリックを用いて評価を行うことで、生徒の目標達成状況が把握できるとともに、評価結果から議論を重ねる度に上達する傾向が見られた。ループリックをうまく活用すれば、生徒自身が自分の力の向上を具体的に知ることができるため、さらなる学習の動機付けにもなることが分かった。

オ 県立西尾高等学校における実践（英語表現Ⅱ）

「英語表現Ⅱにおける発表活動とその評価－伝える力の育成を目指して－」をテーマとした。生徒の実態を、熱心に学習に取り組み、授業中の活動にも活発に参加し、楽しみながら学びを進め、家庭学習にも計画的に取り組むことができる一方で、週末課題やテスト前の勉強だけに終始する生徒もいると捉えている。4技能をバランスよく使えるコミュニケーション能力、特に、言葉として「伝える」ということを意識した英語力を身に付けられるように、本実践では、生徒が自分自身の大切なものについて相手に伝えることとして、ペア・ワークの後に学級全体での発表（Show and Tell）をする言語活動を設定した。

評価については、Show and Tellの「内容」「英語」「デリバリー」の項目で作成したループリックに基づき評価することとした。Show and Tellを単元構想の中心として、構成を意識したスクリプト作成に取り組ませた上でクラス全体での発表活動を行ったところ、生徒は時間をかけてアイデアを練り、推敲をしながら、言いたいことをうまくまとめて伝えられるようにと努力していた。発表においては、原稿を持たずに発表に臨む生徒も見られ、また、聞き手であるクラスメイトは一生懸命理解しようと発表に耳を傾け、その上でコメントを書くなど、デリバリーへの意識を根付かせることはできた。

カ 県立横須賀高等学校における実践（英語表現Ⅱ）

「英語表現Ⅱにおける表現力の育成と評価－プレゼンテーションによる発信－」をテーマとした。生徒の実態として、向上心のある生徒が多く、教師の指示に素直に従って活動をするが、英語に対しては受動的で、表現力も不足していると捉えた。学習したことを理解するだけでなく、それを使って表現していく積極性を身に付けさせるとともに、生徒が英語で発信していく力を育成するために、1分程度のプレゼンテーションをグループ及び全体の場で行う言語活動を設定した。

評価については、「日本や外国で行ってみたい場所を一つ挙げ、プレゼンテーションすることができる」（外国語表現の能力）について、ループリックに基づき、プレゼンテーションにおいて評価することとした。単元を通して、プレゼンテーションを目標に、導入から原稿作成へつながりをもって生徒は取り組むことができた。聴く態度も良好であり、この活動を行うことで生徒は積極性を高めることができた。

キ 県立瀬戸北総合高等学校における実践（ライティング）

「ライティングにおけるエッセイ・ライティングとプレゼンテーションの指導と評価ー生徒の活動中心の授業による発信力の育成を目指してー」をテーマとした。生徒の実態を、英語力は決して高くないが、元気がよく活動的であるため、活動を中心とした授業が適している。知識を事前に与えれば、使って発表しようとする意欲はあるので、まずは英語を使いたいと思わせる動機付けが重要であると捉えている。授業のどの過程においても、一人一人が英語を使う機会を多くつくり、自信をもって話す態度と発信する力を身に付けさせるようにしている。伝えたいことを論理的に書く力、プレゼンテーションにおいては、ジェスチャー、アイ・コンタクトを含めたデリバリーを考えながら効果的に話す力を身に付けさせることを普段の授業から目指している。本実践では、発信する力を育成するために、エッセイ・ライティング（今回はトラベル・ジャーナル）とプレゼンテーションの言語活動を設定した。

評価については、クラス全体の前で行うトラベル・ジャーナルのプレゼンテーションにおいて、聞き手に伝わるように話しているかというデリバリーの観点（声の大きさと抑揚、アイ・コンタクト、表情、姿勢、ジェスチャーなど）からループリックを用いて評価することとした。細かい評価基準により、どのクラスにおいても、比較的混乱なく評価できた。また、プレゼンテーションを録音することで、評価についての生徒の疑問にも答えることができるようにし、評価の信頼性を高めることができた。

5 成果と課題

(1) 言語活動及びループリックを導入した指導と評価の成果と課題

- ・ループリックを作成し、評価基準を設定したことで、評価場面で迷うことは少なかったため、信頼性は高かったと考える。しかし、複数の教員が評価に携わる際には、十分なすり合わせが必要になるだろう。（名古屋西高等学校）
- ・単元の目標を示したループリックを前もって提示することにより、生徒に学習の指針を与えることができた。また、タスクシートを用いて段階的に学習できるようにした結果、生徒たちは次に何をすべきか、最終的に何ができるようになるかをはっきり自覚した状態で授業に臨むことができた。（一宮興道高等学校）
- ・ループリックの「外国語表現の能力」についての評価規準は、生徒にとって目指すべき英語力の指標を与えるものとなり、生徒の学習意欲の向上につながったが、一方、「言語や文化についての知識・理解」については、高校2年生の段階として、誤りをどこまで許容するかについての判断基準の設定の難しさを痛感させられた。今後、生徒の英語によるコミュニケーション能力を総合的かつ統合的に高めるために、言語活動のさらなる質的向上を目指してパフォーマンス課題を工夫するとともに、生徒の達成状況に応じて評価規準とループリックを改善していく必要がある。（豊丘高等学校）
- ・本実践を通して、「活動の観察」による評価を行う際の留意点と、その評価をアドバイスとともに生徒にフィードバックすることの有用性を確認できた。また、このような「活動の観察」の評価を積み重ねながら、集大成としてのパフォーマンステストを実施することの必要性を強く感じた。各単元の活動の観察等による評価を通して、改善すべき点を教師から生徒にフィードバックする。生徒は、自分に足りない部分を認識してそれを補うために学習する。そして、パフォーマンステストでその成果を発揮し、更に改善が必要な点があるかを指摘してもらう。このようなサ

イクルが出来上がれば、生徒は英語を用いた言語活動にもっと意欲的に取り組むはずである。(豊田西高等学校)

- ・ルーブリックに挙げた構成、英語、そしてデリバリーの三つの評価項目は、本単元で身に付けさせたい外国語表現の能力を測るのに適切であったと考えている。担当教員からは、「メッセージを的確に伝えるためには、『英文の論理的な構成』『間違いの少ない英語』『声の明瞭さやアイコンタクト』が欠かせない。その意味で、今回のルーブリックでは『聞き手に分かりやすく説明することができる』という漠然とした表現である単元の目標を、分かりやすく項目化することができた」という意見や、「発表者の点数と聴衆の理解度は比例していたようであった」という声もあった。このことから、担当教員の実感として、ルーブリックの評価項目や採点基準も適切であったと考えられる。(西尾高等学校)
- ・評価はルーブリックに基づいて、生徒と教員双方で行った。発表の評価規準は明確ではあったが、しっかり練習してきた生徒の評価とそうでない生徒の評価にあまり差が表れない結果となってしまった。その結果、ほとんどの生徒が高得点であった。生徒の意欲をよりよく反映させるため、今後は、採点項目や採点基準の見直しが必要であると感じた。(横須賀高等学校)
- ・パフォーマンステストにおいて、評価項目を細かく設けて評価をした。今後、クラス間、指導の教員間において評価の差が生じることを防ぐために、録音したものを複数の教員で評価するなど、公平性を保つ方法を検討していきたい。また、生徒たちが改善点を知り、次への指針となるようなフィードバックを与えたい。定期考査の機会だけではなく、パフォーマンスに対するコメントシートをつくって、一人一人に渡せるようにすることなどを検討していきたい。(瀬戸北総合高等学校)

(2) 今後の実践の方向性

今回の実践から、生徒が言語活動によって身に付けたコミュニケーション能力を、パフォーマンス課題を設定してルーブリックを用いて明確な基準で評価することにより、生徒に適切なフィードバックを与え、次の学習への見通しをもたせることができると考える。さらに、単元構想や言語活動の修正など、指導改善に生かすこともできる。

今後は、生徒の学びの実態に応じて、自分に関わりのあることとして意欲的に取り組めるような課題設定や、ポートフォリオなどによる学習のプロセスを評価する手法についても研究を進めたい。また、アンケート調査については選択肢を偶数にしたり、質問項目を精選したりするなど基本的な検討を要する。生徒の能力向上に資する実践を重ね、その成果を各校に還元し、さらには県下の高等学校に広めることも課題としたい。

参考文献等

- 文部科学省(2009)『高等学校学習指導要領』文部科学省
- 国立教育政策研究所(2012)『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【高等学校 外国語】～新しい学習指導要領を踏まえた生徒一人一人の学習の確実な定着に向けて～』国立教育政策研究所
- 文部科学省(2012)『言語活動の充実に関する指導事例集【高等学校版】<外国語>』文部科学省
- 文部科学省(2013)『各中・高等学校の外国語教育における「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標設定のための手引き』文部科学省
- 愛知県総合教育センター(2009)『TBLT導入による英語授業の改善ータスク活動を通じたコミュニケーション能力の育成ー』愛知県総合教育センター
- 愛知県総合教育センター(2012)『コミュニケーション能力を育成する外国語科指導の在り方に関する研究ー単元構想の工夫と言語活動の充実ー』愛知県総合教育センター
- 愛知県総合教育センター(2014)『平成25年度高等学校における多様な学習成果の評価手法に関する調査研究 研究成果報告書』愛知県教育委員会

実践報告 1

コミュニケーション英語 I におけるペア・ワークによる 言語活動と評価 ―積極性の育成に重点をおいた評価の流れ―

愛知県立名古屋西高等学校 教諭 遠藤 啓史

1 実践のねらい

本校は全日制普通科の高校であり、平成27年度に創立100周年を迎える伝統校である。かつては自主自立、自由闊達の校風であったが、その伝統を大切にする一方で、数年前から、「生徒の知性を高め、心身を錬磨し、調和のとれた人格の形成に努める。質実・剛健・勤勉の精神をもってよりよい校風の樹立に努め、平和で民主的な日本の未来を切り拓く人間を育成する」を教育目標として、生徒指導の充実にも力を入れている。

(1) 生徒の学びの現状

真面目で素直な気質だが、自ら主体的に考え、課題に取り組む態度は十分とは言えない。英語の授業においては、音読活動などは積極的に行うが、自己表現活動には消極的な生徒が多い。

(2) 指導と評価における課題

英語の授業の中で言語活動を実施しているが、生徒の取組は活発であるとは言えない。そのため、言語活動において評価を実施するには難しさがある。

(3) 身に付けさせたい力

まずは自己表現活動に対する積極的な態度を身に付けさせたい。本実践では、特にどのように言語活動に積極的に参加させるかに焦点を当て、生徒が積極的に自己表現する力や態度を育成するための指導と評価の在り方を探っていく。

2 実践の計画

(1) 学習指導計画

ア 言語活動の工夫

単元の内容を学習した後、メモを基にした発表活動（ペア・ワーク）を通して自分自身の考えをまとめさせ、最終的にエッセイを書かせる。メモを作成する際には、英文を書くのではなく、必要最小限の項目を書いたメモにするように指導する。言語活動に消極的な生徒が多いことから、発表の準備をさせると台本の作成になってしまうことが多い。台本の暗唱にならないように、語数の少ないメモを用いて、自分の言葉で発表させるようにする。

また、発表が1回だけでは、十分な質のものになるとは期待できないため、自信を養うための工夫として、同じテーマで発表と修正を繰り返し、少しずつ完成度が高くなるような手順を踏む。

さらに、活動に積極的に参加させるために、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度（以下、『関心・意欲・態度』とする）」の配点を「外国語表現の能力（以下、『表現の能力』とする）」よりも高くし、配点を含めたルーブリックの内容を事前に生徒に伝える。本実践においては、メモを基にした発表活動（ペア・ワーク）とワークシートを評価対象とする。

イ ワークシートの工夫

本文の内容をフローチャート形式【資料1】でまとめた。本文をフローチャート形式でまとめることにより、要点の捉え方と整理の仕方を理解させ、生徒自身が発表のメモを作る際にも活用できるように意図した（単元全体のワークシートは【巻末資料】を参照）。

【資料1 ワークシート】

While-Reading Task 2 : Fill in the blanks of the mapping below.

Our brain

(1) The _____ brain process images.

(2) _____

↓

The _____ brain receives information from the _____ field of vision.

||

We mainly see the _____ side of someone's face.

Example : Mona Lisa = famous for _____ smile

reason : _____

↓

it gives us a strange impression

(2) 評価計画

ア 活動の観察

「自分のことについて、発表することができる」（表現の能力）と「ペア・ワークにおいて積極的に自分の考えを伝えようとした」（関心・意欲・態度）について、ルーブリック【資料2】に基づき、授業中の活動を観察して評価する。「表現の能力」についての評価は、授業の中で3回の発表機会を設定したが、1回目では多くの生徒が評価するのに十分な完成度にはならないだろうと予測されたため、3回目の活動のみを評価対象とする。「関心・意欲・態度」についての評価は、1～3回目の活動における生徒の様子やその後のペアでの修正を加える様子を評価対象とする。

【資料2 発表活動（ペア・ワーク）のルーブリック】

観点	評価規準	採点基準（ ）内は点数	Score	Total
外国語表現の能力	自分自身の脳の特徴についてまとめ、発表することができる。	A (3):自分の考えについて、常に聞き手を意識して、ほとんどメモを見ることなく発表できている。 B (2):自分の考えについて、しばしば聞き手を意識しながら発表できている。 C (1):自分の考えについて、聞き手を意識した発表になっていない。	/3	

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	ペア・ワークにおいて積極的に自分の考えを伝えようとした	A (5): 1 回目の発表の機会から積極的に自分の考えを伝えようとしている。 B (3): ペアでの修正を踏まえて、2 回目の発表の機会に積極的に自分の考えを伝えようとしている。 C (1): 3 回目の発表の機会から積極的に自分の考えを伝えようとしている。	/5	/8
---------------------	-----------------------------	--	----	----

イ ワークシート

発表で活用したメモを評価対象とした。メモについては、英文が書いてあるものは、単なる英文の読み上げになってしまうので、減点の対象とした。

(3) 単元構想

ア 使用教科書・単元名

BIG DIPPER English Communication I (数研出版)

Lesson 6 Secrets of Our Brains

イ 単元の目標と言語活動

【単元の目標】

人間の右脳と左脳の働きの違いや、人間の脳の認識の仕組みについて学び、理解する。自分自身が「右脳思考型」か「左脳思考型」かについて考え、メモを基に発表する。

【言語活動】

- ・本文の内容をフローチャート形式でまとめ、要約する。
- ・自分が「右脳思考型」か「左脳思考型」かについて、メモを基に発表する。
- ・メモを基にエッセイを作成する。

ウ 単元のCAN-DO (4技能ごとの学習到達目標の設定)

話すこと		書くこと		聞くこと		読むこと	
学習到達目標	評価方法	学習到達目標	評価方法	学習到達目標	評価方法	学習到達目標	評価方法
・簡単なメモを基に、聞き手に伝わるように話すことができる。	・活動の観察	・英文を読んでその内容を英語でまとめることができる。 ・自分自身の脳の特徴についてまとめ、発表することができる。	・ワークシート ・評価シート	・相手の発表を聞いて内容を理解し、適切に質問・評価をすることができる。	・評価シート	・脳の仕組みに関する英文を読み、大意を把握することができる。	・ワークシート

エ 単元の評価規準（4観点ごとの評価規準の設定）

評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
評価規準	①ペア・ワークにおいて、互いに協力しながら会話を続けている。	①簡単なメモを基に、聞き手に伝わるように話すことができる。 ②英文を読んでその内容を英語でまとめることができる。 ③自分自身の脳の特徴についてまとめ、発表することができる。	①脳の仕組みに関する英文を読み、大意を把握することができる。 ②相手の発表を聞いて内容を理解し、適切に質問・評価をすることができる。	①比較表現や現在完了形の基本的な使い方を理解している。
内容のまとめ	①話すこと	①話すこと ②書くこと ③話すこと	①読むこと ②聞くこと	①書くこと
評価方法	①活動の観察	①活動の観察 ②ワークシート ③活動の観察，ワークシート	①ワークシート ②活動の観察，評価シート	①定期テスト

オ 指導と評価の計画

時間	ねらい，学習活動，指導上の留意点	評価の観点	評価方法
1	<p>[ねらい]</p> <p>単元のテーマである脳の仕組みについて関心をもたせ、動機付けをする。</p> <p>[学習活動]</p> <ol style="list-style-type: none"> 他人の顔を見るときに、左右のどちら側を最初に見るか英語で答える。 モナリザについて知っていることを英語で答える。 右脳と左脳の働きを知っているか英語で答える。 <p>[指導上の留意点]</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動1では、ペアになり、パートナーの顔を見るときに左右のどちら側を先に見るかについて話し合わせ、生徒に興味をもたせる。 活動2，活動3では、最初に生徒が各個人で考え、その後、ペア・ワークで情報を共有し、最後に各ペアに発言させ、クラス全体で情報を共有する。 	<p>表現</p> <p>表現</p> <p>表現</p>	ワークシート

<p>2～ 5</p>	<p>[ねらい] 本文の新出単語や新規文法項目の確認と概要の把握を行う。Part 1と2, Part 3と4をそれぞれまとめて、一つのテキストとして扱う。</p> <p>[学習活動]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 新出単語を確認する。 2 新規文法事項を確認する。 3 本文の概要把握を行う。 (1) While-Reading Task T or F (2) While-Reading Task Questions 	<p>知・理 知・理 理解 理解</p>	<p>ワークシート 定期テスト</p>
<p>6</p>	<p>[ねらい] 本文の全体の内容を英語でフローチャート形式でまとめ、それを基に要約し、本課単元全体の概要を確認する。</p> <p>[学習活動]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 While-Reading Task 5 Mapping 2 While-Reading Task 6 Summary 	<p>理解 理解, 表現</p>	<p>ワークシート ワークシート</p>
<p>7</p>	<p>[ねらい] 自分自身が「右脳思考型」か「左脳思考型」か、メモを基に発表する。</p> <p>[学習活動]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 英語で発表のメモを作成する。 2 メモを基に発表する。(ペア・ワーク 1 回目) 3 ペアで互いの発表について修正する。 4 ペアを替えて、メモを基に発表する。(ペア・ワーク 2 回目) 5 ペアでお互いの発表について修正する。 6 ペアを替えて、メモを基に発表する。(ペア・ワーク 3 回目) 7 メモを基にエッセイを作成する。 <p>[指導上の留意点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動 1 では、長い文が書かれた台本ではなく、簡単なメモを作成するように指導する。 ・活動 3, 活動 5 ではペアで積極的に関わり合いながら修正を加え、難しい表現については教師に質問するように促す。 	<p>表現, 関・意・態 (1～6) 表現 (7)</p>	<p>ワークシート 活動の観察 ワークシート</p>

3 実践と考察

(1) 授業における言語活動の取組状況（ペア・ワークを中心とした活動）

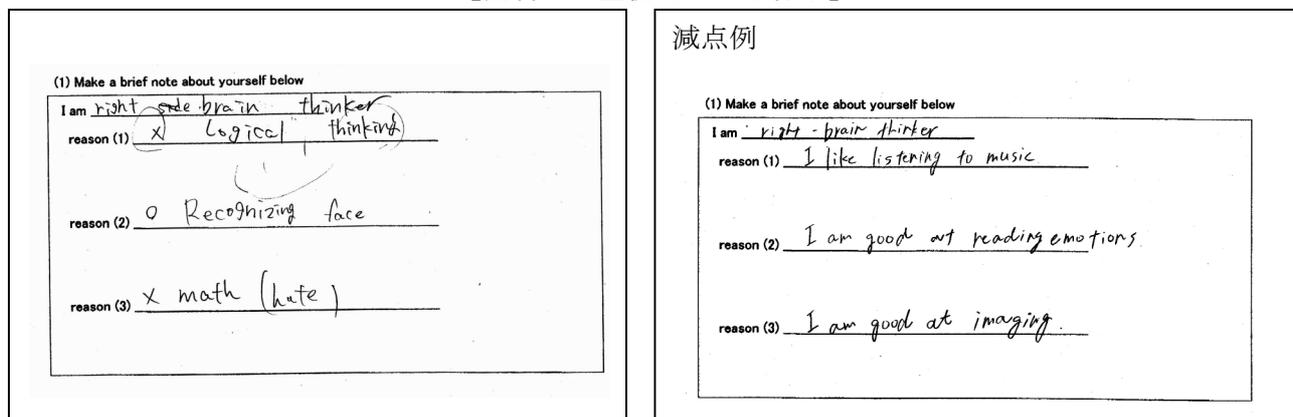
各自で作成したメモを基に3回の発表活動を行った。1回目の発表では途中で止まってしまったり、声が小さかったりする生徒が多く見られた。事前に「関心・意欲・態度」に評価の重点を置いていることを伝えていたため、たどたどしくてもなんとか伝えようとする姿は見られた。その後、1回目の修正をペアで行わせた。その際には、互いの分かりづらい表現や、うまく表現できなかった箇所についての修正に協力して取り組む様子が見られた。ペアの相手を替えて2回目の発表を行わせた。1回目より活発な言語活動が見られた。その後2回目の修正を加えた後で、再びペアを替え、3回目の発表を実施したが、多くの生徒がしっかりと発表することができていた。

(2) 評価の実際

ア パフォーマンス課題とルーブリック

14名の生徒を対象とし、「表現の能力」については3回目の活動を、「関心・意欲・態度」についてはペアでの修正を加える活動を観察し、ルーブリックに基づいて評価した。また、発表に当たって作成したメモを回収【資料3】し、授業後に評価した。メモが文になっている生徒は1点減点した。

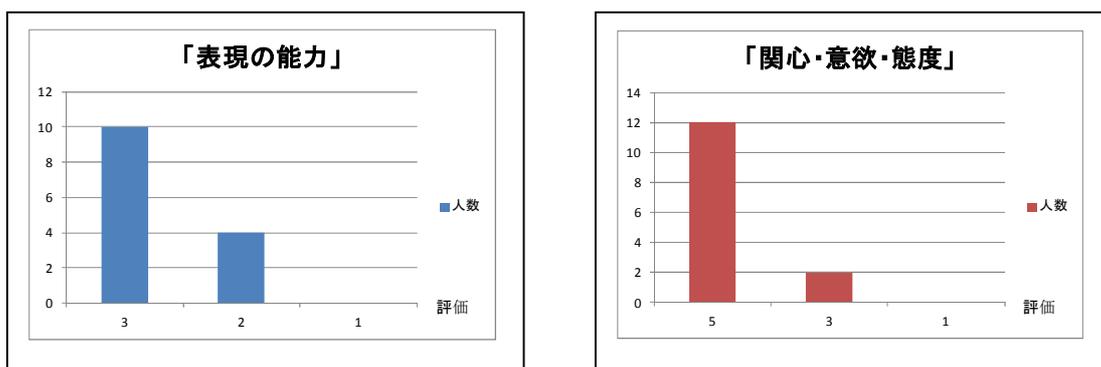
【資料3 生徒のメモの様子】



イ 評価結果の分布

評価結果の分布については分布表【資料4】に示したとおり、「表現の能力」、「関心・意欲・態度」とともに総じて高い評価であった。「表現の能力」については、3回目の発表を評価の対象としているため、多くの生徒がそこに至るまでの活動を通して、上達した結果と考えられる。また、「関心・意欲・態度」の得点が高くなったのは、事前にルーブリックを生徒に示したことにより、意識的に活動に積極的に参加したためであると考えられる。

【資料4 評価分布表】



ウ 生徒へのフィードバック

評価の項目ごとの点数とその合計点数と、生徒が発表活動後に書いたエッセイにコメントを付け、添削したものを返却した。これにより、正しい表現を身に付けさせるとともに、次回の活動への動機付けを促した。

(3) 事後アンケート

単元の活動を終えた後で、事後アンケート【資料5】を実施した。その結果【資料6】から質問2と質問3の回答を比較すると、質問2では「5 強くそう思う」と「4 ややそう思う」がほとんどいなかったが、質問3では多くの生徒が「5」と「4」と回答した。同じテーマで発表を複数回実施することで、自信をもって発表活動に取り組めたことがうかがえる。

また、質問4・5・6の回答から、ルーブリックを事前に示したことにより、その後の活動に大いに影響が表れており、ペアの相手と積極的に関わっていこうと努力したことがわかる。自由記述の回答にも、「何に気を付ければいいのか事前に分かっていたので、その点を意識しながら取り組むことができた」というようなコメントが多く見られた。ルーブリックを事前に示すことは、活動を通して身に付けてほしい力についての生徒へのメッセージになると感じた。

【資料5 アンケート質問事項】

アンケート 1～5で答える

(5:強くそう思う 4:ややそう思う 3:そう思う 2:あまりそう思わない 1:全くそう思わない)

	質問事項	回答
1	効果的に発表のメモを作ることができた	
2	発表1回目 自分の伝えたいことをうまく伝えることができた	
3	発表3回目 自分の伝えたいことをうまく伝えることができた	
4	パートナーの発言を積極的に聞くことができた	
5	パートナーと積極的に関わって発表の修正をすることができた	
6	ルーブリックを事前に示されることが活動への取り組む姿勢に影響した	

【資料6 アンケート結果】

	回答				
	5	4	3	2	1
質問1	16%	5%	53%	26%	0%
質問2	0%	11%	53%	26%	11%
質問3	11%	42%	37%	11%	0%
質問4	26%	47%	26%	0%	0%
質問5	21%	21%	37%	16%	5%
質問6	11%	37%	37%	11%	5%

(4) 考察

ア 実践のねらいの達成状況

ループリックを事前に示したことと、評価の配点において、「関心・意欲・態度」に比重をかけたことにより、生徒の言語活動への取組はより積極的になった。この点においては意図したとおりになった。

「表現の能力」については、同じテーマで発表と修正を繰り返すことで、生徒の英語の質が改善され、3回目には相手にしっかり伝わる発表をすることができていた。「関心・意欲・態度」については、発表活動の間にペアでの修正を加える時間を十分に取ったことにより、徐々に積極的に発表できるようになっており、今回の単元のねらいは達成できたと思われる。

イ 指導手順について

発表の事前準備について、メモの作成方法をより細かく指導すべきであった。理由についての言及が少なく、語数の少ない発表になる生徒が多く、その結果、それぞれのペアの発表時間が短くなってしまった。理由を複数挙げることで、具体例を提示することなど、発表を説得力のあるものにするための工夫を指導すべきであった。

ウ 評価方法について

ループリックを作成し、評価基準を設定したことで、評価場面で迷うことは少なかったため、信頼性は高かったと考える。しかし、複数の教員が評価に携わる際には、十分なすり合わせが必要になるだろう。

4 成果と課題

生徒の多くは言語活動に消極的であるので、同じテーマで発表と修正を繰り返し、その上で3回目の発表を評価した。その結果、「表現の能力」については、多くの生徒が評価Aを得ることになった。しかし、2回目の発表の段階で、評価Aになっていた生徒もいた。発表機会を複数回設けるのであれば、その各回とその完成度で評価基準を設定し、重層的にループリックを作成していくことも考えられる。

また、もう一つの課題として、生徒の努力によって3回目で目標を達成しても、今回のループリックでは評価Cとなってしまった。時間がかかったとしても、本時の目標は達成できているので、その点を高く評価できるようなループリックの工夫が必要であると思われる。

参考文献等

- 文部科学省(2009)『高等学校学習指導要領』文部科学省
- 国立教育政策研究所教育課程研究センター(2012)『評価規準の作成, 評価方法等の工夫改善のための参考資料(高等学校 外国語)～新しい学習指導要領を踏まえた生徒一人一人の学習の確実な定着に向けて～』国立教育政策研究所

【巻末資料 ワークシート】

CAN-DOs

- (1) 原形不定詞が用いられている文を理解できる。
- (2) ディスコースマーカ―を理解し、効果的に読むことができる。
- (3) 脳の仕組みについて学び、自分は右脳型か左脳型か述べることができる。

Pre-Reading Task 1 : Answer the questions below.

- (1) When you see someone's face, which side of the face do you see first?

- (2) What is Mona Lisa famous for?

- (3) What does right brain control? How about left brain?

- (4) Which side of your brain is stronger?

Text

Look at the pictures below. Do they show a man or a woman? If you have to choose, you may say that Picture 1 is a man and Picture 2 is a woman. Actually, in Picture 1, the left side (A) is a man's face and the right side (B) is a woman's. Picture 2 is just a mirror image of Picture 1.

Why do the pictures look different? Most people process images with the right brain. Also, each side of the brain controls the opposite side of the body. This means that the right brain receives information from the left field of vision. So, people mainly see the right side of the other person's face, even if they think they are looking at the whole face.

Now, look at Mona Lisa by Leonardo da Vinci. The woman in the picture is famous for her mysterious smile, but why does her smile look mysterious? It is because only the left side of the woman's face (B) is smiling. We feel someone is smiling only when his or her right side is smiling, so the painting gives us a strange impression. By using this effect, da Vinci makes us wonder.

What does this mean for you? When people look at you, they mainly see the right side of your face. Even if you do not put on your makeup properly or shave cleanly on the left side of your face, some people may not notice.

While-Reading Task 1 : Answer the following T or F questions.

- 1 Both Picture 1 and Picture 2 are half of a man's face and half of a woman's. _____
- 2 Everyone gets information from the right field of vision. _____
- 3 The woman in Mona Lisa is smiling only in the left side of her face. _____
- 4 People may not notice much about the left side of other people's faces. _____

While-Reading Task 2 : Fill in the blanks of the mapping below.

<p>Our brain</p> <p>(1) The _____ brain process images</p> <p>(2) _____</p> <p style="text-align: center;"></p> <p>The _____ brain receives information from the _____ field of vision.</p> <p style="text-align: center;"> </p> <p>We mainly see the _____ side of someone's face.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"><p>Example : Mona Lisa = famous for _____ smile</p><p style="text-align: center;">reason : _____</p><p style="text-align: center;">_____</p><p style="text-align: center;"></p><p style="text-align: center;">it gives us a strange impression</p></div>

CAN-DOs

- (1) 原形不定詞が用いられている文を理解できる。
- (2) ディスコースマーカ―を理解し、効果的に読むことができる。
- (3) 脳の仕組みについて学び、自分は右脳型か左脳型か述べることができる。

【本時の言語活動のルーブリック】

観点	評価規準	採点基準 ()内は点数	Score	Total
外国語表現の能力	自分のことについて、発表することができる。	A(3):自分の考えについて、常に聞き手を意識して、ほとんどメモを見ることなく発表できている。 B(2):自分の考えについて、しばしば聞き手を意識しながら発表できている。 C(1):自分の考えについて、聞き手を意識した発表になっていない。	/ 3	/ 8
関心・意欲・態度	ペア・ワークにおいて積極的に自分の考えを伝えようとした。	A(5):1回目の発表の機会から積極的に自分の考えを伝えようとしている。 B(3): ペアでの修正を踏まえて、2回目の発表の機会に積極的に自分の考えを伝えようとしている。 C(1):3回目の発表の機会から積極的に自分の考えを伝えようとしている。	/ 5	

Post-Reading Task

Which side of your brain is stronger? Are you a right-brain thinker, or a left-brain thinker?

Read the text and express about yourself by giving some reasons and examples.

Text

According to the left-brain, right-brain dominance theory, the right side of the brain is best at expressive and creative tasks. Some of the abilities that are popularly associated with the right side of the brain include:

- Recognizing faces
- Music
- Color
- Intuition
- Expressing emotions
- Reading emotions
- Images
- Creativity

The left-side of the brain is considered to be adept at tasks that involve logic, language and analytical thinking. The left-brain is often described as being better at:

- Language
- Critical thinking
- Reasoning
- Logic
- Numbers

(1) Make a brief note about yourself below

I am _____

reason (1) _____

reason (2) _____

reason (3) _____

(2) Give a speech to your partner, and take a note about your partner below. (first challenge)

_____ is _____
reason (1) _____
reason (2) _____
reason (3) _____

(3) Change your partner. Give a speech to your partner, and take a note about your partner below. (second challenge)

_____ is _____
reason (1) _____
reason (2) _____
reason (3) _____

(4) Change your partner. Give a speech to your partner, and take a note about your partner below. (second challenge)

_____ is _____
reason (1) _____
reason (2) _____
reason (3) _____

実践報告 2

コミュニケーション英語Ⅱにおける討論の指導と評価

－「論点」と「根拠」をもたせる指導－

愛知県立一宮興道高等学校 教諭 武田 邦生

1 実践のねらい

本校は全日制普通科の高等学校であり、生徒数は千人を超える。「活力」を校訓とし、文武両道を掲げ、知・徳・体の調和のとれた活力のある人間の育成を目指している。生徒・保護者ともに進学意識が強く、国公立大学への進学を志望する生徒がほとんどである。部活動も盛んであり、昨年度は弓道部が東海大会まで勝ち進み、多くの部活動が県大会へ出場するなど文武両道を実践している。

(1) 生徒の学びの現状

真面目な生徒が多く、与えられた予習は期日までにしっかり行うことができる。しかし自ら課題を見つけ、それに計画的に取り組むことのできる生徒は少ない。多くの生徒が英語でのコミュニケーション活動には積極的に参加するが、そこから意見交換や議論にまで活動の質を高めることは難しいと感じている。

(2) 指導と評価における課題

毎回の授業で行うペア・ワークやプレゼンテーションなどのコミュニケーション活動を評価する際に「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」に重点が偏ってしまう傾向にあり、「外国語表現の能力」や「外国語理解の能力」の観点の評価へと結びつけにくい状況がある。日頃のコミュニケーション活動を4観点の評価につなげる工夫をする必要がある。

(3) 身に付けさせたい力

自発的に課題を見つけ、自らの意見を持ち、解決しようとするところのできる生徒は少ない。しかしながら、そのような力は今後の社会生活でますます求められるようになっていくと考えられる。

本実践では、特に単元のメインの言語活動であるディスカッションに焦点を当て、生徒が「論点」と「根拠」を明確にして自分の意見を発表する能力を育成する指導と評価の在り方を探っていく。

2 実践の計画

(1) 学習指導計画

ア 言語活動の工夫

教科書本文の各パートの内容に関する質問のうち、答えが一つに限定されず、自分の意見が求められるものを幾つか取り上げ、ペアで即興の議論をさせる。その際、相手の意見に賛成ならばその理由を述べ、反対であればその理由と対案を述べるようにする。プレゼンテーションとは異なり、互いの意見を尊重することと互いが意見を積み上げて結論を出すことが大切であることを理解させる。各パートでこの活動を繰り返し、単元の最後に行う「論点」と「根拠」を重視したディスカッションにつなげていく。

また、単元のCAN-DOリストとともにディスカッションの評価をするためのルーブリックを生徒に事前に示すことで、生徒たちが目的意識をもって学習できるよう工夫をする。

イ タスクシートの工夫

単元のメインの言語活動であるディスカッションにつながるように、毎時間ペアで即興の議論をさせたり、コミュニケーションをする上で相手に分かりやすい英語を使うという観点から、教科書本文の幾つかの英文を易しい表現にパラフレーズする練習を行ったりしている。これらの活動は、全てタスクシートを利用して行っており、生徒にとっては、タスクシートはポートフォリオ（学習記録）の役割を果たしている。

(2) 評価計画

ア パフォーマンス課題（ディスカッション）・ルーブリック

毎回の授業でペア・ワークを行う際に、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」の観点から、生徒の活動状況を評価し、「外国語表現の能力」と「外国語理解の能力」の観点については、授業後に回収したタスクシートで評価をする。

単元の最後に行うディスカッションにおいては、授業中にディスカッションの様子を観察して「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」の観点から評価するとともに、ディスカッションをまとめたタスクシートを用いて「外国語表現の能力」と「外国語理解の能力」の観点から評価する。なお、このディスカッションの評価はルーブリック【資料1】を使用し、評価の信頼性を高めるとともに、その結果を生徒に伝えることで今後の課題の発見と学習意欲の向上に活用させる。

【資料1 ディスカッションのルーブリック】

Lesson 6 ディスカッション評価基準表(ルーブリック)					
評価の観点	評価規準	採点基準			評価 (得点)
		A(3点)	B(2点)	C(1点)	
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	ディスカッションの意図を理解した上で、建設的な意見のやりとりをしている。(継続)	コミュニケーションを継続させ、意見をまとめようとしている。	コミュニケーションを継続させようとしている。	建設的な場を作ろうとしている。	
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	ディスカッションの意図を理解した上で、建設的な意見のやりとりをしている。(デリバリー)	声の大きさやアイコンタクトなどに注意をして、言いたいことを伝えようとしている。	相手のことを考えて発話している。	自分のペースで発話している。	
外国語表現の能力	本文の問いかけに対する自分の意見や考えを論理的に相手に伝えることができる。(分量)	自分の意見が5文以上であり、さらに内容にふさわしい分量である。	自分の意見が5文以上である。	自分の意見が5文に満たない分量である。	
外国語表現の能力	論点を明確にして自分の意見や考えを相手に分かりやすい英語で表現することができる。(構成)	相手に分かりやすく順序立てて構成されている。	順序立てて構成されている。	論理的な構成に欠ける。	
外国語理解の能力	相手の論点をしっかりと聞き取り、自分の意見との違いを理解することができる。(理解)	問いかけや相手の意見に対して適切な内容であり、相手の意図をよく読みとっている。	問いかけや相手の意見に対して適切な内容である。	問いかけや相手の意見に対する内容になっている。	
2年	組	番	名前	合計得点	

/15

イ タスクシート

ペア・ワークやグループ・ワークなどのコミュニケーション活動の内容やその要約等の記録を、タスクシートに記入して残しておくことで、活動についての評価を授業後に時間をかけて行うことができる(巻末資料を参照)。

ウ 活動の観察

コミュニケーションの視点から、生徒が相手の気持ちを考えながらやりとりができてきているかを評価する。例えば、相手が言葉に詰まったら発言を促すような声かけができてきているか、相手の英語が間違っていたとしても言いたいことを理解しようとしているか、また、相手が理解していないようだったら別の表現に言い換えて伝えようとしているか、などが考えられる。

(3) 単元構想

ア 教科書

PROMINENCE Communication English II (東京書籍)

Lesson 6 “Is the Internet Making Us Smarter?”

イ 単元の目標と言語活動

【単元の目標】

インターネットを取り巻く現状とインターネットが我々の認知機能に及ぼす影響について深く考察し、自分の意見を論理的に構成し、ディスカッションの形式で発表することができる。

【言語活動】

- ・教科書本文の内容についてペアで協力して話し合う。
- ・インターネットの利便性について、自分の意見をディスカッションの場で発表する。

ウ 単元のCAN-DO (4技能ごとの学習到達目標の設定)

話すこと		書くこと		聞くこと		読むこと	
学習到達目標	評価方法	学習到達目標	評価方法	学習到達目標	評価方法	学習到達目標	評価方法
・本文の問いかけに対する自分の意見や考えを論理的に相手に伝えることができる。	・活動の観察 ・タスクシート	・論点を明確にして自分の意見や考えを相手に分かりやすい英語で表現することができる。	・活動の観察 ・タスクシート	・相手の論点をしっかりと聞き取り、自分の意見との違いを理解することができる。	・タスクシート	・本文を読み大意を把握して、使われている英語表現を理解することができる。	・タスクシート ・定期考査

エ 単元の評価規準 (4観点ごとの評価規準の設定)

評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
評価規準	①聞き手のことを考えながらペア・ワークにて本文の音読をしっかりと行っている。 ②ディスカッションの意図を理解した上で、建設的な意見のやりとりをしている。	①本文の問いかけに対する自分の意見や考えを論理的に相手に伝えることができる。 ②論点を明確にして自分の意見や考えを相手に分かりやすい英語で表現することができる。	①相手の論点をしっかりと聞き取り、自分の意見との違いを理解することができる。 ②本文を読み大意を把握して、使われている英語表現を理解することができる。	①インターネットを取り巻く現状と認知機能への影響について考察している。 ②新出表現、独立分詞構文、動名詞の意味上の主語について、基本的な使い方を理解して、英語表現に取り入れている。
内容のまとめ	①話すこと ②聞くこと、話すこと	①話すこと ②書くこと	①聞くこと ②読むこと	①読むこと ②書くこと
評価方法	①②活動の観察	①②活動の観察 ①②タスクシート	①②タスクシート ②定期考査	①②定期考査

オ 指導と評価の計画

時間	ねらい, 学習活動, 指導上の留意点	評価の観点	評価方法
1～5	<p>[ねらい] 各パートを読み, 大意を把握するとともに論点について考察する。その上で意見交換や発表を行う。</p> <p>[学習活動] ※ [] 内の数字はタスクシートの項目番号を表す。 予習として, 本文を読み, 各パートのタスクシートを完成させることが課せられている。 (第1時から第5時の各時に1パートずつ扱うこととする) ([3]にまとめた予習の段階で理解できない表現などをペアの相手と話し合いをしながら授業開始までに解決しておく)</p> <p>1 タスクシートを使い内容把握の確認をする[1, 2]。[1]はペアで互いが英語で伝え合う形で進める。その後教師が生徒を指名して内容の確認をする。[2]については教師が生徒を指名する形で行う。</p> <p>2 タスクシートを使い, 相手に伝えやすいように本文中に出てくる英語表現を分かりやすい表現にパラフレーズする[4]。同じ内容をさまざまな表現で言い表すことができるようにする。</p> <p>3 コーラス・リーディングとペアでの音読を行う。</p> <p>4 [5]を使い, ペアで英問英答を行う。</p> <p>5 [6]を使い, 自分の意見を述べ, 相手はその意見に対して追加や補足または反論する。その後, ペア・ワークの内容をクラス全体に発表する。</p> <p>[指導上の留意点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(活動1) ペアで互いに質問しながら内容を確認させる。日本語を使わずに英語を使用させることに留意する。 ・(活動2) コミュニケーションの際に相手に理解させることを考えて, できるだけ簡単な表現を用いて書くように指導する。 ・(活動3) ペアでの音読は一行ずつ交互に読む。その際には自分の発話だけでなく, 相手の発話に耳を傾けることも重要であることを伝える。 ・(活動5) 自分の意見に対する相手の追加や補足または反論を自分の英語でまとめさせる。相手に伝えるためには簡単で分かりやすい英語を使い, ゆっくりと大きな声で丁寧に話すことが大切であることを強調する。 	<p>関・意・態 理解</p> <p>表現 理解</p> <p>関・意・態 関・意・態 関・意・態 表現 理解</p>	<p>活動の観察 定期考査</p> <p>タスクシート タスクシート</p> <p>活動の観察 活動の観察 活動の観察 タスクシート タスクシート</p>
6	<p>[ねらい] パート1からパート5までの本文全体の内容把握の確認と, 文法項目の確認をする。</p> <p>[学習活動] 予習として教科書のComprehension, Grammar, Exercisesを行うことが課せられている。</p>		

	<p>1 本文中に使われている語彙について、特に重要なものについて確認する。</p> <p>2 練習問題を活用して、教科書本文全体の内容を確認するとともに、論理的に読み解く力を身に付けさせる。</p> <p>3 本単元で新しく使われている文法事項について、例文を参考にしながら確認をし、コミュニケーション活動に使えるように指導する。</p> <p>[指導上の留意点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(活動3) 文法事項の説明については細かな部分まで説明せず、教科書本文の理解とコミュニケーションに必要な程度にとどめる。また、学んだ内容を次回以降のコミュニケーション活動に生かせるよう指導する。 	<p>知・理</p> <p>知・理</p> <p>知・理</p>	<p>定期考査</p> <p>定期考査</p> <p>定期考査</p>
7	<p>[ねらい]</p> <p>教科書の内容に関連したテーマを設定してディスカッションを行う。第1時から第5時で学習し、第6時で復習したことを踏まえ、自分の意見をまとめた英文にすることを通して論理的思考力を養う。また、できるだけ分かりやすい英語を使用して発表することでコミュニケーション能力を高める。</p> <p>[学習活動]</p> <p>予習としてタスクシート(まとめ)を使い、段階的にディスカッションの原稿作成の準備をしていくことが課せられている。</p> <p>1 課題として作成した原稿をペアで交換し、互いの原稿を読む。また、それに対する追加や補足または反論を考え、英語で質問をする。それに英語で返答する形式でペア・ワークを進める。</p> <p>2 互いのディスカッション原稿について話し合い、修正を加え、さらによいディスカッション原稿に仕上げる。</p> <p>3 4人のグループをつくり、その場で議長を決める。</p> <p>4 議長の指示により順番に発表する。各発表につきグループの一人一人が追加や補足または反論を必ず行う。発表者はタスクシートに自分の意見に対するグループ内の意見を英語で記入する。また他の発表者の発表内容についてもその要約を英語で記入する。</p> <p>5 各グループで代表者を一人決め、自分の意見と聞き手の追加や補足または反論を踏まえたまとめをクラス全体に発表する。</p> <p>[指導上の留意点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(活動1) 相手の英語が間違っているかもしれないことを前提に、細かなミスにとらわれず、相手の言いたいことをしっかりとつかむように指導する。 	<p>表現</p> <p>知・理</p> <p>関・意・態</p> <p>関・意・態</p> <p>表現</p> <p>理解</p> <p>表現</p>	<p>活動の観察</p> <p>定期考査</p> <p>活動の観察</p> <p>活動の観察</p> <p>タスクシート</p> <p>タスクシート</p> <p>活動の観察</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・(活動2) 自説にこだわることなく、相手の意見を自分の意見に取り入れることを指導する。 ・(活動4) 相手に伝わるような話し方を意識させる。また他の生徒の追加や補足または反論を聞き、さまざまな意見を受容するよう指導する。 		
--	--	--	--

3 実践と考察

(1) 授業における言語活動の取組状況

ア ペア・ワークを中心とした活動

教科書本文の内容についての問いに対して、自分の意見を持ち相手に分かりやすく伝えることができていたようだった。しかし、初めのうちはその意見に対して即興で賛成や反対とその理由を答えることのできない生徒も見られた。そのような生徒は相手の意見に対して一方的に自分の意見を言うにとどまっていた。しかし、さまざまなテーマを用いて練習を重ねるにつれて改善が見られた。

イ グループ・ワークを中心とした活動

単元のメインの言語活動であるディスカッションをグループ単位で行った。ペア・ワークで練習してきたこともあり、相手の意見に対して自分の考えを建設的に述べることのできる生徒が目立った。



【グループ・ワークの様子】

(2) 評価の実際

ア パフォーマンス課題とルーブリック

ディスカッションの評価にルーブリック【資料1】を使用することによって、より客観的で信頼性のある評価ができたと感じた。なお、ルーブリックにある「外国語表現の能力」の基準に「5文以上」とあるのは、本テーマにおいて論理的な文章を作るのに最低限必要な分量と考えたからである。

イ パフォーマンスの評価

ディスカッションは4人グループを11組つくり、それぞれ同時に実施した。「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」の観点については、授業中の活動を観察して評価し、「外国語表現の能力」と「外国語理解の能力」の観点については、タスクシート【巻末資料】を回収して授業後に評価した。

タスクシートを評価に利用することで、授業中は指導と活動の観察に専念できるため、パフォーマンスを評価する上での時間的な制約を解消できた。

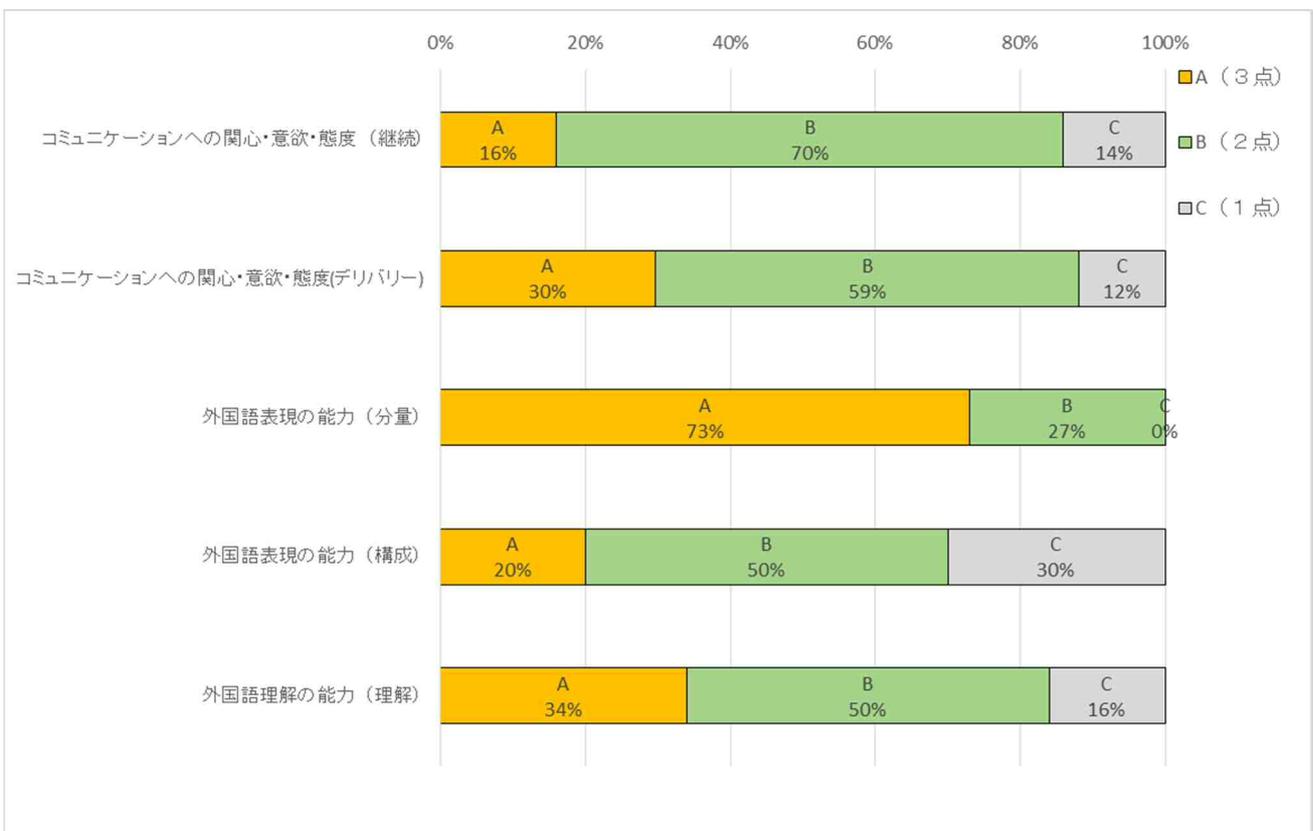
ウ 評価結果の分布

ディスカッションの評価を行った結果は以下のような分布になり、多くの生徒が評価規準に達した【資料2】。これは、単元のCAN-DOを生徒がよく理解して、タスクシートに基づいた練習を踏まえてディスカッションに臨むことができたからと思われる。

エ 生徒へのフィードバック

タスクシートとともにループリック形式の評価結果を返却したことで、生徒たちは学習上の課題や改善点を把握し、今後の学習に生かすことができていると考える。

【資料2 評価結果の分布】

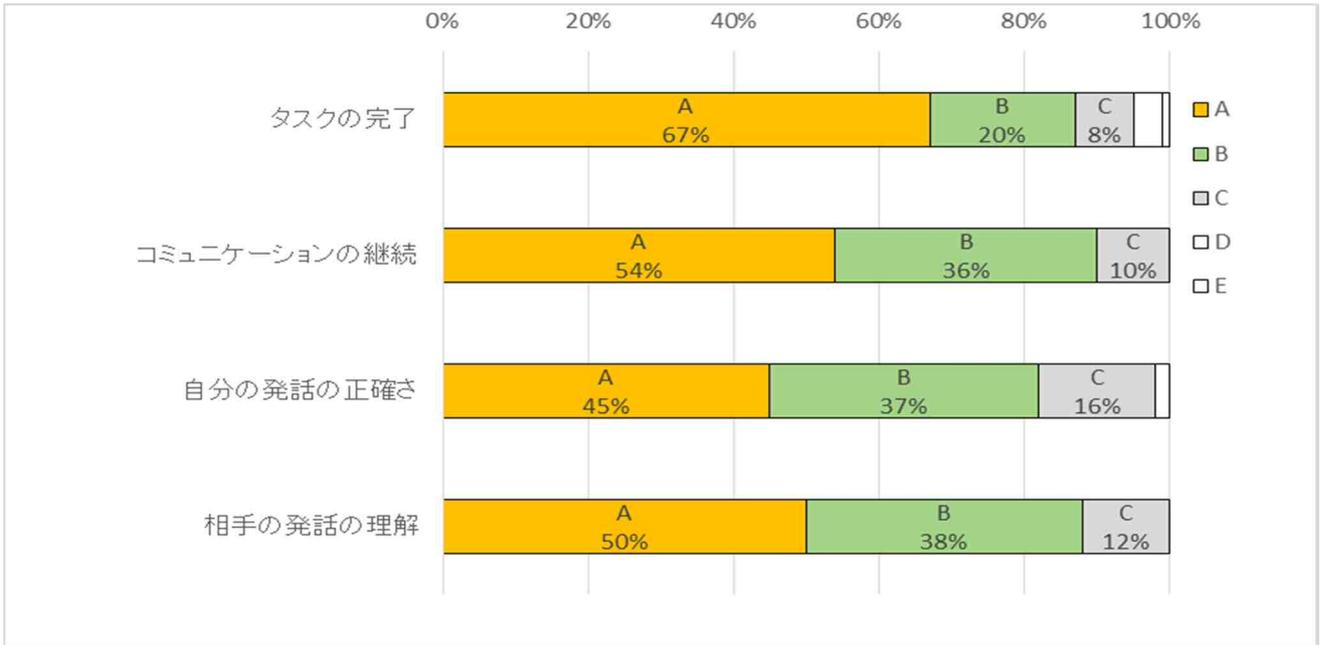


(3) 生徒による自己評価

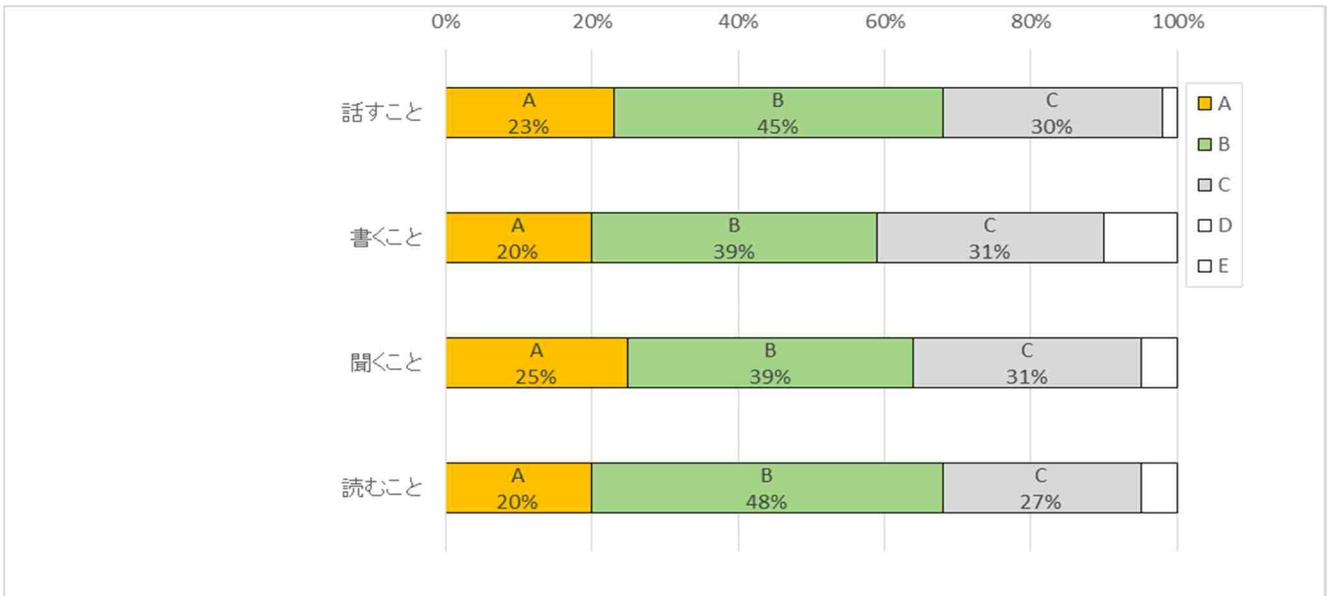
パート1からパート5までのタスクシートを用いて、生徒による自己評価（AからEまでの5段階評価）を行った。その結果、パート1からパート5まではおおむね8割の生徒がB以上の自己評価をしており、自分の取組に満足しているようだった【資料3】。

まとめの自己評価を単元終了時に行わせた。項目は単元の始めに生徒に提示したCAN-DOリストの項目と同じである。その結果、おおむね6、7割の生徒がB以上の自己評価をした。CAN-DOリストを前もって生徒に示し、到達目標をはっきりさせた上で、ディスカッションに向けて段階的に指導を行ったことがこの結果につながったと考える【資料4】。

【資料3 生徒の自己評価（パート1からパート5までの合計）】



【資料4 生徒の自己評価（まとめ）】



(4) 考察

ア ねらいの達成状況

単元を通して、与えられた課題やテーマを踏まえ、そこから発展した会話を続けることができる生徒が増えた。相手の意見に対して即興で自分の考えを伝える練習を繰り返すことで、単元のメインの活動であるディスカッションもスムーズに行うことができた。また、タスクシートを利用することにより、生徒が効率よく学習を進めるだけでなく、「外国語表現の能力」と「外国語理解の能力」の評価にも活用することができた。

イ 指導手順について

最終目標であるディスカッションに向けた段階的な指導として、ペア・ワークを何度も繰り返し、論理的な意見交換の場を多く設けた。ペア・ワークに慣れるに従い、話す内容の質が徐々に高まり、建設的なコミュニケーション活動ができるようになった。

ウ 評価方法について

ディスカッションの評価については、ルーブリックを用いることで評価者によって評価がぶれることなく、客観性を保つことができた。また、評価に迷うことも少なく、時間も縮減することができた。さらに、評価した後は、ルーブリックを生徒に返却することで、事後の学習上の課題や改善点を明確に把握させることができた。

4 成果と課題

(1) 実践の成果

単元の目標を示したCAN-DOリストとルーブリックを前もって生徒に提示し、生徒に学習の指針を与えた。また、タスクシートを用いて段階的に学習できるようにした結果、生徒たちは次に何をすべきか、最終的に何ができるようになるかをはっきり自覚した状態で授業に臨むことができた。

本実践においては、生徒たちは毎時間のペア・ワークを経て、単元のメインの活動であるディスカッションを、「論点」と「根拠」を明確にして活発に行うことができた。

コミュニケーション活動の評価については、授業内で生徒の活動を観察して評価する内容とタスクシートで授業後に評価する内容に分けたことにより、総合的に評価することができた。さらに、授業内での生徒への指導をより充実させることができた。

(2) 今後の課題

パフォーマンスを評価する上で、評価の信頼性を高めるためにルーブリックを使用した。今回のルーブリックを基に、次の単元以降のルーブリックについても評価規準に継続性をもたせたい。単元を終えるごとに、ルーブリックを用いた評価結果をタスクシートとともにファイルに綴じていくことで、ポートフォリオとしての活用もできるのではないかと考えている。

評価を効率的に行うため、一部の評価を授業後に生徒のタスクシートを点検することで行った。このことにより、パフォーマンス評価の問題点の一つである時間的な制約を解消することができた。その一方、授業中の活動状況が良好であったにもかかわらず、タスクシートに記入する時間が足りなかったために、タスクシートに活動内容をまとめきれなかった生徒がいた。生徒の努力を適切に評価するためには、タスクシートに簡略に記入させることや、タスクシートをまとめる時間の確保をすることなどの工夫が必要だと考えられる。

今後の課題として、タスクシートによって授業後にパフォーマンスの一部を評価するためには、生徒の活動をタスクシートにしっかりと反映させる工夫が必要だと感じた。また、教師が授業後に評価にかかる時間や負担を減らせるように、効率のよい評価方法を考案することも必要である。

参考文献等

- 愛知県総合教育センター（2013）『平成25年度「多様な学習成果の評価手法に関する調査研究」成果報告書』愛知県総合教育センター
- 国立教育政策研究所（2012）「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（外国語）」国立教育政策研究所
- 文部科学省（2009）『高等学校学習指導要領』文部科学省

Lesson 6 part 1 タスクシート

2年 組 番 名前

- 1 Fill in the blanks to make the outline of this part.
 Adults in () were spending more time online than adults in () in 2009. A survey in 2008, about 27,500 adults were spending () percent of their free time online. According to the statistics, Internet use has () and television viewing has held () or gone up.
 → The Internet has become something we () in our ().
- 2 Answer true or false for the following sentences.
 a. In 2005, adults in North America spent an average of 6 hours a week online. []
 b. European adults used the Internet for about 6 hours in 2005. []
 c. The Chinese are the heaviest users of the Internet. []
 d. The result of the survey shows that we have a tendency to use the Internet as a means of killing time. []

3 Discuss the expressions from the text that you find difficult or don't understand.

4 Put the English phrases in this part into easier expressions.
 (1) The amount of time we spend on the medium has grown rapidly.

→ _____

→ _____

→ _____

(2) These figures didn't include the time people spent using their smartphones.

→ _____

→ _____

→ _____

(3) The Internet as well as TV has become something we cannot live without.

→ _____

→ _____

→ _____

5 Answer the questions about the story.
 (1) How many hours a week did adults in North America spend online in 2005?

Your answer _____

Your partner's answer _____

Answer _____

(2) What kind of thing has the Internet become?

Your answer _____ line _____

Your partner's answer _____

Answer _____ line _____

(3) What do most studies of media activity find about Internet use and television viewing?

Your answer _____

Your partner's answer _____

Answer _____ line _____

6 Answer the questions below. (Your argument)

(1) Do you think the Internet has become "something we cannot live without"?

Your argument _____

Your partner's response _____

(2) Which type of media do you think the most useful?

Your argument _____

Your partner's response _____

7 自己評価

(1) タスクの完了	タスクを時間内に完了することができたか。	A・B・C・D・E
(2) コミュニケーションの継続	相手のことを理解しようとし、自分のことを理解してもらおうとした。	A・B・C・D・E
(3) 自分の発話の正確さ	英語の間違いいとらわれず、自分の伝えたいことを相手に理解してもらえたか。	A・B・C・D・E
(4) 相手の発話の理解	英語の間違いいとらわれず、相手の伝えたいことを理解することができたか。	A・B・C・D・E

Lesson 6 part 2 タスクシート

2年 組 番 名前 _____

1 Fill in the blanks to make the outline of this part.

People can get information () with the (), and sometimes it can be a crucial device for people. A researcher at a university tried to conduct a survey to know how the () works when given much information. The subjects started making stupid () and wrong decisions. The result of the survey suggests that too much information has a () effect on our decisions.
 → With too () information, people tend to make () decisions.

2 Answer true or false for the following sentences.

- a. According to the text, situations of some countries have grown more serious than it used to be by the power of the Internet. []
- b. The Internet decreases the opportunities to communicate and exchange opinions with opposition groups, which causes revolutions. []
- c. "The Net is mightier than the sword" may be the right words for this day and age. []
- d. We don't know what effects the Internet has on the brain at all. []

3 Discuss the expressions from the text that you find difficult or don't understand.

4 Put the English phrases in this part into easier expressions.

- (1) The Internet has enabled us to get the information we need in a moment.
- _____
- _____
- _____

- (2) Its power has literally revolutionized some nations.
- _____
- _____
- _____

- (3) People's decisions make less and less sense.
- _____
- _____
- _____

5 Answer the questions about the story.

- (1) How has the power of the Net revolutionized Egypt and Libya?

Your answer _____

Your partner's answer _____

Answer _____ line _____

- (2) What happens to people's decisions when too much information is given?

Your answer _____

Your partner's answer _____

Answer _____ line _____

- (3) In Libya many lives were saved thanks to the Internet. How did this happen?

Your answer _____

Your partner's answer _____

Answer _____ line _____

6 Answer the questions below. (Your argument)

- (1) Do you think that we will never have to have face-to-face discussions to reach decisions?

Your argument _____

Your partner's response _____

- (2) Explain why people's decisions make less and less sense with too much information.

Your argument _____

Your partner's response _____

7 自己評価

(5) タスクの完了	タスクを時間内に完了することができたか。	A・B・C・D・E
(6) コミュニケーションの継続	相手のことを理解しようとし、自分のことを理解してもらおうとした。	A・B・C・D・E
(7) 自分の発話の正確さ	英語の間違いにとらわれず、自分の伝えたいことを相手に理解してもらえたか。	A・B・C・D・E
(8) 相手の発話の理解	英語の間違いにとらわれずに、相手の伝えたいことを理解することができたか。	A・B・C・D・E

Lesson 6 part 3 タスクシート

2年 組 番 名前

1 Fill in the blanks to make the outline of this part.

When we use the Internet, we are in the environment of hasty reading. () thinking, and superficial (). Two Canadian scholars gathered seventy people and asked them to read a () story. The subjects were divided into two groups and one group tried () reading while the other tried () reading. The differences between two groups showed which leads to better ().
 → In the study, people took a () time to read hypertexts and () the contents of them less.

2 Answer true or false for the following sentences.

- a. What influence the Internet has on our brain is a popular subject for the time being. []
- b. We can guess and know many things about the effects the Internet has on our brains. []
- c. According to the study, the Internet produces some good results, such as hasty reading and superficial learning and so on. []
- d. The hypertext readers took a lot of time to finish reading the story, so they could grasp the story deeply. []

3 Discuss the expressions from the text that you find difficult or don't understand.

4 Put the English phrases in this part into easier expressions.

- (1) This question will surely be the subject of a great deal of research in the years to come.

→ _____

→ _____

→ _____

- (2) Two Canadian scholars asked seventy people to read a short story.

→ _____

→ _____

→ _____

- (3) They showed more confusion about what they had read.

→ _____

→ _____

→ _____

5 Answer the questions about the story.

- (1) What do many studies by psychologists, educators, and web designers show?

Your answer _____

Your partner's answer _____

Answer _____ line _____

- (2) Which type of reading do people understand better, in traditional reading or hypertext reading?

Your answer _____

Your partner's answer _____

Answer _____ line _____

- (3) Which type of readers took longer to read the story, linear-text readers or hypertext readers?

Your answer _____

Your partner's answer _____

Answer _____ line _____

6 Answer the questions below. (Your argument)

- (1) Given the results in this part, how will you study online from now on?

Your argument _____

Your partner's response _____

- (2) Do you think electronic books will replace conventional books in the future?

Your argument _____

Your partner's response _____

7 自己評価

(9) タスクの完了	タスクを時間内に完了することができたか。	A・B・C・D・E
(10) コミュニケーションの継続	相手のことを理解しようとし、自分のことを理解してもらおうとした。	A・B・C・D・E
(11) 自分の発話の正確さ	英語の間違いにとらわれず、自分の伝えたいことを相手に理解してもらえたか。	A・B・C・D・E
(12) 相手の発話の理解	英語の間違いにとらわれずに、相手の伝えたいことを理解することができたか。	A・B・C・D・E

Lesson 6 part 4 タスクシート

2年 組 番 名前

1 Fill in the blanks to make the outline of this part.

Some researchers conducted experiments to see if the Internet caused () in brains. The web search task produced significant activity in the areas of the () that control decision-making and problem-solving. However, that brain activity was shown only in those who were experienced () users.

→ Web searching needs a lot of ()-making.

2 Answer true or false for the following sentences.

- a. A professor says, "The Net changed our brains as well as the way we use information." []
- b. According to the result of the study, when we use the Internet every day, it makes our new neural pathways weak and old ones strong in our brains. []
- c. When people are reading, the regions connected with language and memory are active. []
- d. The use of the Net has an active effect on the prefrontal regions connected with decision-making and problem-solving. []

3 Discuss the expressions from the text that you find difficult or don't understand.

4 Put the English phrases in this part into easier expressions.

(1) Net causes extensive changes in the brain.

→ _____

→ _____

→ _____

(2) if there was any change in the brain in response to Internet use.

→ _____

→ _____

→ _____

(3) when they read book-like texts.

→ _____

→ _____

→ _____

5 Answer the questions about the story.

(1) What did Gary Small find about the effect of the Internet on our brains?

Your answer _____

Your partner's answer _____

Answer _____ line _____

(2) What did his team discover after the series of experiments?

Your answer _____

Your partner's answer _____

Answer _____ line _____

(3) Why did experienced web users show significant additional activity in separate areas on the brain?

Your answer _____

Your partner's answer _____

Answer _____ line _____

6 Answer the questions below. (Your argument)

(1) Why do experienced web users show better performance than book readers?

Your argument _____

Your partner's response _____

(2) What kind of skills do you think experienced web users have?

Your argument _____

Your partner's response _____

7 自己評価

(13)タスクの完了	タスクを時間内に完了することができたか。	A・B・C・D・E
(14)コミュニケーションの継続	相手のことを理解しようとし、自分のことを理解してもらおうとした。	A・B・C・D・E
(15)自分の発話の正確さ	英語の間違いにとらわれず、自分の伝えたいことを相手に理解してもらえたか。	A・B・C・D・E
(16)相手の発話の理解	英語の間違いにとらわれずに、相手の伝えたいことを理解することができたか。	A・B・C・D・E

Lesson 6 part 5 タスクシート

2年 組 番 名前 _____

- 1 Fill in the blanks to make the outline of this part.
 A famous psychologist reexamined previous studies on human intelligence and () ability. Our growing use of the Internet sophisticated our ()-spatial skills. However, considering the () of our thought, the Internet is not making us smarter. It is up to us whether we can become well-balanced people or not.
 → We should be aware of the () of the Internet on us and keep the () of visual-spatial and deep processing skills.
- 2 Answer true or false for the following sentences.
 a. Patricia found that the Internet develops our deep processing skills. []
 b. The visual-spatial skills enable us to see objects in our minds from different sides. []
 c. The development of visual-spatial skills reduces our abilities to process something deeply. []
 d. The Internet is making us brighter, unless we define intelligence by the Internet standards. []

- 3 Discuss the expressions from the text that you find difficult or don't understand.

- 4 Put the English phrases in this part into easier expressions.
 (1) Our growing use of the Internet
 → _____
 → _____
 → _____
- (2) We have to come to a different and greatly gloomy conclusion.
 → _____
 → _____
 → _____
- (3) Our brain will possibly be different from the ones of our ancestors.
 → _____
 → _____
 → _____

- 5 Answer the questions about the story.
 (1) How do different types of media affect people's intelligence and learning ability?
 Your answer _____
 Your partner's answer _____
 Answer _____ line _____
- (2) Is the Internet making us smarter when it comes to the depth of our thought?
 Your answer _____
 Your partner's answer _____
 Answer _____ line _____
- (3) Find an example of "sophisticated development of visual-spatial skills."
 Your answer _____
 Your partner's answer _____
 Answer _____ line _____
- 6 Answer the questions below. (Your argument)
 (1) What will be important for us to continue to be well-balanced humans in the age of the Internet?
 Your argument _____

 Your partner's response _____

- (2) Do you think people who have good visual-spatial skills are good at reading maps??
 Your argument _____

 Your partner's response _____

7 自己評価

(17)タスクの完了	タスクを時間内に完了することができたか。	A・B・C・D・E
(18)コミュニケーションの継続	相手のことを理解しようとし、自分のことを理解してもらおうとした。	A・B・C・D・E
(19)自分の発話の正確さ	英語の間違いにとらわれず、自分の伝えたいことを相手に理解してもらえたか。	A・B・C・D・E
(20)相手の発話の理解	英語の間違いにとらわれずに、相手の伝えたいことを理解することができたか。	A・B・C・D・E

Lesson 6(まとめ) タスクシート

2年 組 番 名前

1 If you were allowed to use a smartphone in school, what do you think you would use it for?

(1) 構成を考えて、英語または日本語を使って箇条書きで書いてみよう。
スマートフォン の 便利 な 機能 について:

学校で便利に使える機能:

どのように使うとよいか:

(2) 構成を見ながら5文の英語で自分の意見を作り上げてみよう。

2 ディスカッションの中で自分の意見に対する相手の反論・追加・補足を書く。

A: _____

B: _____

C: _____

3 ディスカッションの中で他のメンバーの意見を英語で要約する。

A: _____

B: _____

C: _____

4 単元の自己評価

(21) 話すこと	教科書の問いかけに対して自分の意見や考えを論理的に相手に伝えることができる。	A・B・C・D・E
(22) 書くこと	論点を明確にして、自分の意見や考えを相手に分かりやすい英語で表現することができる。	A・B・C・D・E
(23) 聞くこと	相手の論点をしっかりと聞き取り、自分の意見との違いを理解することができる。	A・B・C・D・E
(24) 読むこと	本文を読み、大意を把握して、使われている英語表現を理解することができる。	A・B・C・D・E

実践報告 3

英語表現 I におけるライティングの評価と指導

－パフォーマンス課題とその評価－

愛知県立豊丘高等学校 教諭 白井 敬子

1 実践のねらい

本校は各学年全日制普通科6クラスと生活文化科2クラスがある。「自主・創造，敬愛・連帯，健康・安全」を教育目標として，家庭や地域から信頼される学校づくりと生徒の夢を実現できる学校づくりを目指している。普通科はほぼ全員が4年制大学に進学し，生活文化科も4年制大学を含め，およそ9割の生徒が進学している。47分7限授業を毎日実施し，授業時間の確保と指導の充実に努めている。

(1) 生徒の学びの現状

ペア・ワーク，表現活動や音読などに活発に取り組む生徒が多い。さまざまな活動を取り入れ，英語力の向上を目指しているが，即興性のある活動やクラス全体への発表となると，まだまだ慎重な生徒も多い。

(2) 指導と評価における課題

「英語で伝える能力」を育成するために，英語による口頭発表やライティング活動を授業に多く取り入れている。評価については，活動当日や活動後に教員からのフィードバックや生徒同士の相互評価を行い，ライティングの評価は定期考査の中で点数化して行っている。生徒による言語活動のいっそうの充実を図るとともに，身に付けさせたい英語力を生徒に明確に提示し，生徒の活動を適切に評価した上で，その結果を生徒に還元することができるような体制を構築することが大きな課題となっている。

(3) 身に付けさせたい力

本実践では，特に「書くこと」に焦点を当て，言語や文化についての興味・関心を高め，積極的に英語を使って表現する態度を身に付けさせるとともに，日本や地元の伝統的なものや文化について，キーワードを基に書いて説明する力を育成する指導と評価の在り方を探っていく。

2 実践の計画

(1) 学習指導計画

ア 言語活動の工夫

日本の伝統的なものや文化についての説明を聞き，その内容を口頭で他の生徒に伝える活動を取り入れる。さらに，ものの説明に使うのに効果的な表現をキーワードとし，それを基にして，各自が選んだ話題について紹介文を英語で書かせる。

イ ワークシートの工夫

2時間の授業の展開に応じて効果的に利用できるように，ワークシートの構成を工夫した。キーワードや伝えたい内容を書き込めるようにするとともに，紹介文についての評価規準や自己評価等の内容も盛り込んだ。さらに，受動態に関する解説や問題演習部分についても，最終目標である紹介文の

作成に必要な言語材料を定着させるための指導と位置付けて、ワークシート内に取り入れた【巻末資料】。

(2) 評価計画（パフォーマンス課題・ルーブリック）

2限目の学習活動において、制限時間を設け、事前に考えさせたキーワードを基に、「日本や地元の伝統的なものや文化についての紹介文」を即興で書かせる。「伝統・文化の説明をキーワードを用いて書くことができる」、「文法、綴りなどに気を付けて書くことができる」の2項目を評価規準として設定し、ルーブリックを用いて評価する【資料1】。その際、本実践では内容面に特に指導の重点を置いていることから、前者の評価に重みを付ける。評価規準は今回限りのものとはせず、別の単元においても「書くこと」の評価に継続的に使用できるようにする。また、生徒に到達目標を意識させるために、この評価規準を事前に生徒に提示する。生徒が書いた紹介文は、評価した後に評価結果とともに生徒に返却する。

【資料1 日本や地元の伝統的なものや文化についての紹介文のルーブリック】

観点	評価規準	採点基準 ()内は点数
外国語表現の能力	伝統・文化の説明をキーワードを用いて書くことができる	A(7) キーワードを使い、具体的な項目を三つ以上含めて説明している B(5) キーワードを使い、具体的な項目を三つ入れて説明している C(3) キーワードを使い、具体的な項目を入れて説明している
て 言語や文化についての知識・理解	文法、綴りなどに気を付けて書くことができる	A(3) 誤りはほとんどなく、説明内容が十分伝わる B(2) 誤りは多少あるが、説明内容は伝わる C(1) 誤りが多く、内容理解を妨げる

(3) 単元構想

ア 使用教材

教科書：MY WAY English Expression I (三省堂)

Lesson 8 興福寺の阿修羅像

イ 単元の目標と言語活動

【単元の目標】

- ・日本の伝統的なものの説明を聞いて、その内容を口頭で伝えることができる。
- ・日本や地元の伝統的なものや文化に目を向け、キーワードを用いて英語で書いて説明できる。
- ・受動態の使い方が理解できる。

【言語活動】

- ・日本の伝統的なものについて、聞き取った内容についてメモを取り、ペアで伝え合う。
- ・日本や地元の伝統的なものや文化について英語で紹介文を書き、口頭で説明する。

ウ 単元のCAN-DO（4技能ごとの学習到達目標の設定）

話すこと		書くこと		聞くこと		読むこと	
学習到達目標	評価方法	学習到達目標	評価方法	学習到達目標	評価方法	学習到達目標	評価方法
・英語を聞いて、その内容を伝えることができる。	・活動の観察	・日本や地元の伝統的なものや文化について、キーワードを用いて英語で書くことができる。	・ワークシート	・相手の発表を聞いて内容を理解し、適切にメモを取ることができる。	・活動の観察		

エ 単元の評価規準（4観点ごとの評価規準の設定）

評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
評価規準	①相手の話を聞きながら、メモを取ったり、うなずいたり、聞き返したりしている。 ②コミュニケーションを図ろうとしている。	①英語を聞いて、その内容を伝えることができる。 ②日本や地元の伝統的なものや文化について、キーワードを用いて英語で書くことができる。	①相手の発表を聞いて内容を理解し、適切にメモを取ることができる。	①受動態について、基本的な使い方を理解している。
内容のまとめ	①②話すこと 聞くこと	①話すこと ②書くこと	①聞くこと	①書くこと 話すこと
評価方法	①②活動の観察	①活動の観察 ②ワークシート	①活動の観察	①活動の観察 定期テスト

オ 指導と評価の計画

時間	ねらい、学習活動、指導上の留意点	評価の観点	評価方法
1	<p>[ねらい] 日本に古くから伝わる伝統的なものや習慣に目を向けさせ、物事の説明を聞いたり、説明したりできる。</p> <p>[学習活動] 英文（写真の説明）を聞いてメモを取り、説明を再現したり、キーワードを使って日本に関することを説明したりする。説明の際に、受動態が有効であることも理解する。</p> <p>[指導上の留意点] ・活動1では、ワークシート①を使う。教科書の写真の説明を聞かせ、必要に応じてメモを取り、ペアで説明の再現をさせる。また、キーワードを使って、日本に関することを説明させる。</p>	関・意・態 表現 理解	活動の観察

2	<p>[ねらい]</p> <p>日本や地元の伝統的なものや文化について、キーワードを基に紹介文を書き、相手に伝えることができる。</p> <p>[学習活動]</p> <p>1 受動態の基本表現を確認する。(教科書の例文と問題の確認)</p> <p>2 日本や地元の伝統的なものや文化について、あらかじめ考えたキーワードを基に説明する英文を書く。書いた内容をペア、グループ及びクラス全体に伝える。</p> <p>[指導上の留意点]</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動1では、物事の説明に使われる受動態を理解させ、表現活動で活用させる。 活動2では、ワークシート①、②を使い、各生徒が選んだ話題について、キーワードを使用して英語で説明させる。 	<p>表現 理解 関・意・態 知識・理解</p>	<p>活動の観察 ワークシート 活動の観察 定期テスト (後日)</p>
---	--	--------------------------------------	--

カ 言語活動の充実の工夫

【授業の流れ】

第1次＝興福寺の阿修羅像の説明を聞き、説明に使われる受動態の表現を理解する。また、キーワードを使って、日本のことを説明する。

→

第2次＝学んだ内容をもとに、日本や地元の伝統的なものを説明する際に必要なキーワードを考え、それを使って紹介文を書く。

本単元では、日本や地元の伝統的なものや文化に目を向けさせ、それらを英語で伝えることができるようにさせる。また、受動態の基本形や受動態が使われるさまざまな表現についての理解を深め、活動を通して定着を図る。

<第1次>

受動態を含む英文を理解することで、物事を説明する際に効果的に活用できるようにする。

具体的手順：

- ①受動態が何を表現するのに有効かということを理解させる。
- 教科書の写真（興福寺の阿修羅像）を見ながら、説明を2回聞く。聞きながらキーワードをメモする。
 - 説明に必要なキーワードを確認する。(黒板に板書)
 - 興福寺の阿修羅像についての別の説明を聞いて、ワークシート①の穴埋めをする。
 - 聞いた説明内容とキーワードを基に、阿修羅像の説明をする。
- ②受動態を使って物事を説明する。
- キーワードを使って、日本に関すること（ワークシート①の写真）の説明を考える。
- ③物事の詳しい説明をする。
- ここまでの学習活動を基に、富岡製糸場の説明を考える。
 - 写真（日本語新聞記事）を見ながら、必要となる複数のキーワードをペアで考え、更にクラス全体で確認する。
 - 生徒各自でキーワードを使って、富岡製糸場の説明文を書く。
 - 書いた説明文をグループで読み合う。

- ・生徒各自で日本に関する話題（伝統・文化等）を一つ選び、キーワードを考える。（家庭学習）
- ④教科書の演習問題に取り組む。（家庭学習）

<第2次>

日本や地元の伝統的なものや文化に目を向け、学んだ表現を活用しながら、物事の説明ができるようにする。

具体的手順：

- ①受動態が物事の説明をする際に有効であることを確認する。
 - ・前時の復習として、日本に関することについて口頭で説明する。
 - ・教科書の演習問題の確認をする。
- ②ワークシート①、②を使って日本や地元の伝統的なものや文化を紹介する。
 - ・ペアでキーワードの確認や追加をする。
 - ・制限時間内に英語で紹介文を書く。（8分+予備2分=10分）
 - ・書いた紹介文をペアで交換して読み合い、互いに内容の確認や修正をする。
 - ・4人1組のグループで組んで、互いに発表する。
- ③本実践における活動内容について自己評価をする。ワークシート②は教員が評価してから返却する。
 - ・教員が添削して返却した紹介文を、次の授業時に数名を指名し、全体の前で説明をさせる。その際、発表を聞いている生徒はキーワード等をメモする。さらに、メモを基に同じ物事についての説明をさせる。

3 実践と考察

(1) 授業における言語活動の取組状況（グループ・ワークを中心とした活動）

日本や地元の伝統的なものや文化についての紹介文を書かせた後で、4人1組のグループを組んで、一人ずつ発表させ、聞いている生徒にはキーワードを書き取らせた。適切にキーワードを書き取っている生徒が多かった。グループ発表後、各グループから代表一人を選び、クラス全体の前で発表を行った。



【グループ・ワークの様子】

(2) 評価の実際

ア パフォーマンス課題とルーブリック

2限目の学習活動において、制限時間を8分とし、事前に考えさせておいたキーワードを基に、日本や地元の伝統的なものや文化についての紹介文を即興で書かせた。さらに、ペアで読み合って推敲したものを提出させ、ルーブリックを用いて評価した（2(2)を参照）。

イ パフォーマンスの評価

「外国語表現の能力」及び「言語や文化についての知識・理解」の二つの観点から、「伝統・文化の説明をキーワードを用いて書くことができる」「文法、綴りなどに気を付けて書くことができる」の2項目を評価規準として評価し、合計点は10点満点とした。本実践では内容面に特に指導の重点を置いていることから、「外国語表現の能力」を7点満点、「言語や文化についての知識・理解」を3点満点とし、それぞれA, B, Cの3段階で評価した【資料2】。

【資料2 生徒によるエッセイ：外国語表現の能力評価A＋知識・理解評価Bの例】

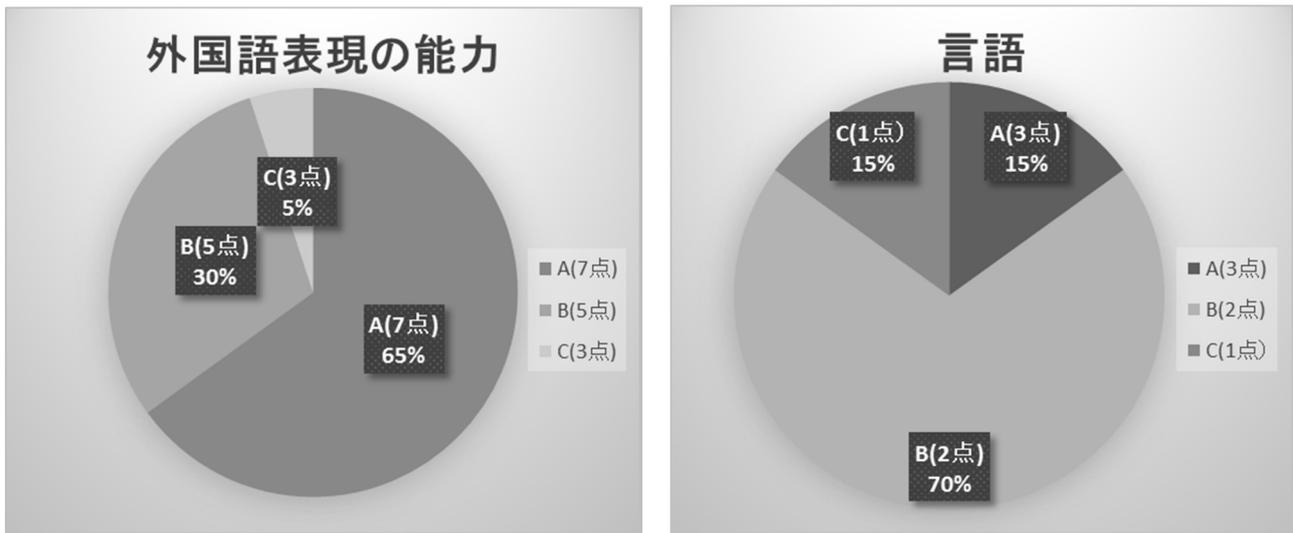
A: Can you tell me something about traditional Japanese culture?

B: I will tell you about Sushi. It is food. It is law fish on rice. We eat this with soysause and we sometimes eat this with Wasabi. It has many kinds. I like “sarmon” and “Inarizushi” very much. Inarizushi is famous in my city. Because my city has the Toyokawa Inari shrine. It has many statues of fox. In a new year, It is full of many people. Why don't you go there in a new year? (原文のまま)

ウ 評価結果の分布

日本や地元の伝統的なものや文化という身近なテーマであったため、大半の生徒が三つ以上の具体的な内容を書くことができおり、生徒にとっては比較的書きやすい課題であったと思われる。一方、文法や綴りなどについては、多くの生徒が評価B以上であったものの、発音や単語の意味は分かっているが正しい綴りで書けない、伝えたい内容が複雑になると文構造が不正確になりがちであるなどの傾向が見られた【資料3】。

【資料3 評価分布グラフ】



エ 生徒へのフィードバック

生徒が書いた紹介文は、ルーブリックに基づいて評価するとともに、添削した上で生徒に返却した。また、グループの代表の生徒が発表した際には、発表内容のよかった点についてのコメントを教員からクラス全体に口頭で伝えた。また、今後の改善が必要な生徒には、英文の書き方のポイント等を個別に伝えた。

(3) 定期考査による評価

各定期考査では、考査範囲に相当する単元で生徒に書かせた英文のテーマの中から1題を選び、書き方や指定語数等の条件を設定して、ライティング問題として出題している【資料4】。

【資料4 2学期中間考査問題例】

助動詞を使い、豊丘高校で守らなければならないこと（学校生活、行事等の中でした方がよいこと、守った方がよいこと）について、転校生に教えるつもりで英文を書きなさい。また、その理由も書きなさい。（9点）

I would like to tell you two rules you should follow here at Yutakagaoka high school.

First, you _____

because _____

Second, you _____

The reason is that _____

I hope you enjoy your school life at Yutakagaoka high school.

(4) 事後アンケート

生徒に紹介文を書かせた後で、自己評価を行わせるとともに、感想を書かせたが、自己評価の結果は総じて高かった。「キーワードを指定して日本文化の写真を口頭で説明する」→「富岡製糸場について説明する」→「日本や地元の伝統的なものや文化を説明する」と、順序立てて段階的に指導を行った結果、多くの生徒が、「自分で書けるようになった」と手ごたえを感じ、自信を高めたと思われる。生徒の感想の中には、「みんなの考える日本の伝えたい文化を知ることができてよかった」「きちんとした英文になったかは分からないけど、自分の力でできてよかった」「もっと単語とかを覚えてたくさんの文を書けたら楽しくなるなと思った」「難しい文章も簡単な日本語に考え直してから英文を作るようにしたい」などが見られた。また、クラスメートがどんな日本文化を大切に思っているのかを知って興味をもった生徒や、自ら選んだテーマについて制限時間内に辞書に頼らずに英文を書くことの難しさを知ること、さらなる向上心を抱いた生徒も見られた。

(5) 考察

ア ねらいの達成状況

日本の伝統的なものに生徒の目を向けさせ、キーワードを用いて説明を書かせる言語活動を単元構想の中心に据えて、「英語で伝える能力」の育成を図った。評価結果から分かるように、「外国語表現の能力」については、評価Aの生徒が全体の約3分の2を占めた【資料3】。地元の食べ物から日本の伝統行事に至るさまざまな内容について、大半の生徒が自ら考えたキーワードを用いて、工夫を加えながら具体的に書くことができおり、当初のねらいをおおむね達成できたと言える。

イ 指導手順について

導入として行ったキーワードを指定して日本文化の写真を口頭で説明する活動を通じて、生徒はキーワードを使いながら順序立てて物事を説明する方法を学ぶことができた。また、富岡製糸場を説明するためのキーワードをクラス全員で考えた上で説明文を書く活動を行ったことで、説明文を書くために必要なキーワードを適切に選び、それをうまく英文に利用するコツを習得できた。日本や地元の伝統的なものや文化についての紹介文を書くという最終目標を達成するために、このような段階的な指導を実施したことが功を奏し、つながりのある指導となったと考える。

ウ 評価方法について

評価規準をあらかじめ生徒に示し、到達目標を意識させることで、生徒は書き方や内容にいつもの注意を払って活動に臨むことができたと思う。また、内容面（キーワードを用いての説明）と言語

面（文法・綴りなど）の二つの観点から、ルーブリックを用いて生徒が書いた紹介文を評価したことで、担当者間で評価の差異が小さくなり、評価の信頼性が高まったと実感している。

4 成果と課題

本実践では、日本の文化についての紹介文を生徒に英語で書かせ、ルーブリックを用いて評価したが、活動としては、生徒にとっては取り組みやすい課題であった。語彙や文法等の誤りがあっても、英文の内容理解を妨げない軽微なものが多く、推測しながら読み進めることのできる英文が大半であった。ルーブリックの「外国語表現の能力」についての評価規準は、生徒にとって目指すべき英語力の指標を与えるものとなり、生徒の学習意欲の向上につながった。一方、「言語や文化についての知識・理解」については、高校2年生の段階として、誤りをどこまで許容するかについての判断基準の設定の難しさを痛感させられた。今後、生徒の英語によるコミュニケーション能力を総合的かつ統合的に高めるために、言語活動のさらなる質的向上を目指してパフォーマンス課題を工夫するとともに、生徒の達成状況に応じて評価規準とルーブリックを改善していく必要がある。

参考文献等

- 国立教育政策研究所教育課程研究センター（2012）『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 外国語）～新しい学習指導要領を踏まえた生徒一人一人の学習の確実な定着に向けて～』国立教育政策研究所
- 新潟県立教育センター（2013）『英語授業でのパフォーマンス評価について（パフォーマンス評価様式）』<<http://www.nipec.nein.ed.jp/sc/gaikokugo/index.html>>
- 文部科学省（2009）『高等学校学習指導要領』文部科学省

ワークシート① **Lesson 8** 興福寺の阿修羅像【受動態1】

Listening & Speaking Listen to the explanation and write down keywords below.

Grammar in Use

Listen and fill in the blanks.

The Kofukuji () () () the Fujiwara in 669. It is famous for the statue of Ashura. The statue () () () wood, linen, and Japanese lacquer. Ashura has () () and () () and is very beautiful.

Practice Describe the following things using keywords.

- | | | | | |
|-----------------|-----------------|--------------------|--------------------------------------|----------------|
| <i>natto</i> | <i>tofu</i> | <i>kabuki</i> | <i>shichigosan</i> | <i>Mt.Fuji</i> |
| make / soybeans | make / soybeans | play / male actors | celebrate / November 5 th | cover / snow |

USE! Introduce traditional Japanese cultures!! 受動態を使って、日本の伝統的なもの(習慣・文化)について紹介しよう。
Example: 興福寺の阿修羅像

I will tell you about the statue of Ashura. The statue is in the Kofukuji. The temple was built by the Fujiwara in 669. The statue of Ashura was made by the order of Empress Komyo in the eighth century. It is made of wood, linen, and Japanese lacquer. It has three faces and six arms. The statue is admired by people all over Japan. (7文)

Practice

Original

①紹介するもの 【富岡製糸場 _____ 】	①紹介するもの。伝えたい日本のものは？
②説明に必要なキーワード(単語・熟語)	②説明に必要なキーワード(単語・熟語)は？

Practice

I will tell you about Tomioka Silk Mill. _____

USE! ★具体的な説明項目を入れて書く。使ったキーワードには下線を引く。辞書は使わない。

A: Can you tell me something about traditional Japanese culture?

B: I will tell you about _____

Teacher's evaluation (教員評価)

観点	評価規準	採点基準 (Bが標準)	
外国語表現の能力	伝統・文化の説明をキーワードを用いて書くことができる	(A) キーワードを使い、具体的な項目を3つ以上含めて説明している (7点) (B) キーワードを使い、具体的な項目を3つ入れて説明している (5点) (C) キーワードを使い、具体的な項目を入れて説明している (3点)	/ 10
言語	文法、綴りなどに気を付けて書くことができる	(A) 誤りはほとんどなく、説明内容が十分伝わる (3点) (B) 誤りは多少あるが、説明内容は伝わる (2点) (C) 誤りが多く、内容理解を妨げる (1点)	

Listen to your classmates' short speeches and write some keywords below.

聞きながらメモ欄

Self-Evaluation(自己評価)

- ① キーワードをもとに、物事の説明を英語で相手に口頭で伝えることができた
- よくできた まあまあできた あまりできなかった できなかった
- ② キーワードを適切に選び、身近にある日本の伝統や習慣のことを書いて伝えることができた
- よくできた まあまあできた あまりできなかった できなかった
- ③ 受動態の使い方が理解できた
- よくできた まあまあできた あまりできなかった できなかった
- ④ 英語で説明を書いてみて、大変だったことや出来上りを読んでの感想・その他のコメント

実践報告 4

英語表現Ⅱにおける即興議論の指導と評価

一言語活動の「活動の観察」による評価

愛知県立豊田西高等学校 教諭 今田 祐之

1 実践のねらい

本校の全日制課程は各学年8～9学級の普通科で、「躬行実践」(自ら求めて自ら学ぶ)の校訓の下、教育目標を「人間として立派であれ」と定め、自己の能力を最大に伸ばすとともに、他者の幸福のために尽力できるリーダーの育成を目指している。ほぼ全ての生徒が4年制国公立大学への進学を志望しており、その実現のための手厚い進路指導を行っている。また、平成25年度には文部科学省より「スーパーサイエンスハイスクール」の指定を受け、理数系教育及びグローバル人材の育成に力を注いでいる。

(1) 生徒の学びの現状

学びに前向きで活発な生徒が多い。積極的にペア・ワークや自己表現活動に取り組むが、英語による表現力はまだ不足している。さまざまな活動を通じて、自己表現をするための英語力を伸ばしていく必要がある。

(2) 指導と評価における課題

授業ではさまざまな言語活動を行っているが、その場限りのものとなってしまうことが多く、生徒のパフォーマンスを正確に評価してその結果をフィードバックし、次の学習につなげるというサイクルが出来上がっていない。目標とする力が身に付いたか、身に付いていなければ何をどのように改善すべきかをきちんと示すことができるような「指導と評価の一体化」を実現させる必要がある。

(3) 身に付けさせたい力

グローバル社会の進展によって、英語を用いて論理的に意見を主張したり、議論したりしながら、問題を解決する能力は、今後ますます求められるようになる。

本実践では、特に単元の冒頭で行うペア・ワークに焦点を当て、生徒が英語で論理的に議論する力を育成する指導と評価の在り方を探っていく。

2 実践の計画

(1) 学習指導計画

ア 言語活動の工夫

授業の導入として、スマートフォンの功罪について、即興で議論する活動を設けた。この実践における「即興議論」とは、台本などを用いずに、互いに相手の意見に対して反論しながら、自分の意見を述べ合う議論のことである。しかし、いきなりテーマを与えて「さあ話し合いなさい」と切り出してしまっただけでは、生徒はアイデアをまとめることと、英語での表現方法を考えることを同時に行わなければならないとなり、負担が大きい。そこで、事前にテーマを与え、スマートフォンのよい点・悪い点を考え、英語で表現する方法も調べてくるという課題を課した。こうすることで、相手との議論に集

中しやすい環境を整えた。

イ ワークシートの工夫

家庭学習から授業中の言語活動に至るまでの一連の内容を盛り込んだワークシート【巻末資料】を作成した。例えば、スマートフォンのよい点・悪い点を事前に調べて記入する欄や、議論の過程における相手の意見をメモする欄を設けたりしている。また、議論を円滑に進めることができるように、議論の手順もワークシートに明示している。

(2) 評価計画（活動の観察・ルーブリック）

「スマートフォンの功罪について、即興で議論できる」（外国語表現の能力）と「ペア・ワークにおいて互いに協力しながら会話を続けることができる」（コミュニケーションへの関心・意欲・態度）の2点について、ルーブリック【資料1】に基づき、授業中の活動を観察して評価する。外国語表現の能力をより重点的に評価したいと考え、配点を高めに設定してある。生徒には、事前学習の内容を提示する段階で、議論の様子を評価する旨を伝える。教師は1ペアにつき約2分30秒間議論を聞いて評価する。今回は、1回5分間の議論が計4回行われるので、8ペア16人を評価する。

今回の言語活動においては、回を重ねるごとに生徒のパフォーマンスは向上すると考えられる。特に、新しい表現を学んだ後では、その前と著しい差が生まれることが予想される。そこで、今回の評価は、成績に反映させることはせず、生徒の達成状況を把握することと、生徒にフィードバックを与えることを目的として行う。

【資料1 活動の観察のルーブリック】

観点	評価規準	採点基準（ ）内は点数	Score	Total
外国語表現の能力	スマートフォンの功罪について、即興で議論できる。	A(5): 自分の意見を、理由を含めて効果的に主張している。また、相手の意見を踏まえて自分の意見を伝えることができる。 B(3): 相手の意見を踏まえて自分の意見を伝えることができ、議論が成り立っている。 C(1): 相手の意見を踏まえて自分の意見を伝えることに難があり、議論がうまく成り立っていない。	/5	
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	ペア・ワークにおいて互いに協力しながら会話を続けることができる。	A(3): アイコンタクトや音量に工夫を凝らしたり、相手が言葉に詰まったときに援助するなど、協力して話し合いを進めている。 B(2): アイコンタクト、音量は適切であり、コミュニケーションを続けようと努力している。 C(1): アイコンタクト、音量が十分ではなく、沈黙の時間が長いなど、コミュニケーションを続けようと努力していない。	/3	/8

(3) 単元構想

ア 使用教科書・単元名

Departure English Expression II (大修館)
Lesson 7 Mobile Devices

イ 単元の目標と言語活動

【単元の目標】

情報化社会に関する表現を学び、関連するテーマについて自分の意見を表現することができる。

【言語活動】

- ・スマートフォンの功罪について、即興で議論する。
- ・連絡方法として、メールと電話のどちらがよいかについて、論理的な文章を書き、発表する。

ウ 単元のCAN-DO（4技能ごとの学習到達目標の設定）

話すこと		書くこと		聞くこと		読むこと	
学習到達目標	評価方法	学習到達目標	評価方法	学習到達目標	評価方法	学習到達目標	評価方法
・スマートフォンの功罪について、即興で議論することができる。 ・連絡方法として、メールと電話のどちらがよいかについて、発表することができる。	・活動の観察 ・発表	・連絡方法として、メールと電話のどちらがよいかについて、論理的な文章を書くことができる。	・エッセイライティング	（本単元では設定しない）		（本単元では設定しない）	

エ 単元の評価規準（4観点ごとの評価規準の設定）

評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
評価規準	①ペア・ワークにおいて互いに協力しながら会話を続けている。	①スマートフォンの功罪について、即興で議論することができる。 ②連絡方法として、メールと電話のどちらがよいかについて、論理的な文章を書き、発表することができる。	（本単元では設定しない）	①論理的な文章の書き方を理解している。
内容のまとめ	①話すこと	①話すこと ②書くこと、話すこと		①書くこと
評価方法	①活動の観察	①活動の観察 ②エッセイライティング、発表		①定期テスト、ワークシート

オ 指導と評価の計画

時間	ねらい、学習活動、指導上の留意点	評価の観点	評価方法
1	<p>[ねらい] スマートフォンの功罪について、即興で議論する。情報化社会に関する表現及び自分の意見を言う場合に役に立つ表現を学習する。</p> <p>[学習活動]</p> <ol style="list-style-type: none"> 事前学習で調べてきた表現をペアで共有する。 一方がスマートフォンは有用であるとする立場、もう一方がスマートフォンは害の方が大きいとする立場をとり、5分間議論する。（議論①1回目） 終了後、どちらの意見の方がよりpersuasiveだったかを決める。 同じペアで役割を交代して、同じ活動を行う。（議論①2回目） 1回目の議論で言えなかった表現を教師に質問する。 ペアを組み換えて、同じ手順で議論を2回行う。（議論②1, 2回目） 配付されたgood points, bad pointsの模範解答例を読み、自分のプリントにないものを確認し補足する。また、模範解答例以外の表現があれば発表する。 	<p>表現、関心・意・態</p> <p>表現、関心・意・態</p>	<p>活動の観察</p> <p>活動の観察</p>

この後、上記と同様の活動を、ペアを組み換えて再度行った。生徒は、英語で言える表現が増えたこともあり、1回目よりも活発に議論を行っていた。

(2) 評価の実際

ア 活動の観察

議論の様子を観察し、評価を行った。以下に評価の具体例を示す【資料2】。

【資料2 活動の観察の評価例】

「外国語表現の能力」の評価例：生徒①の主張に対する生徒②の応答の評価

生徒①： I think smartphones are very good for us because we can play various kinds of games online wherever we are.

・評価Bの例

生徒②： That's not good. I don't think smartphones are good because some people, especially small children, get into trouble when they play those games too much.

・評価Aの例

生徒②： That may be good for adults, but not for children. I've heard that many children got into trouble because they continued to play games even after they were not free anymore. Smartphones can cause such troubles, so I don't think they are good.

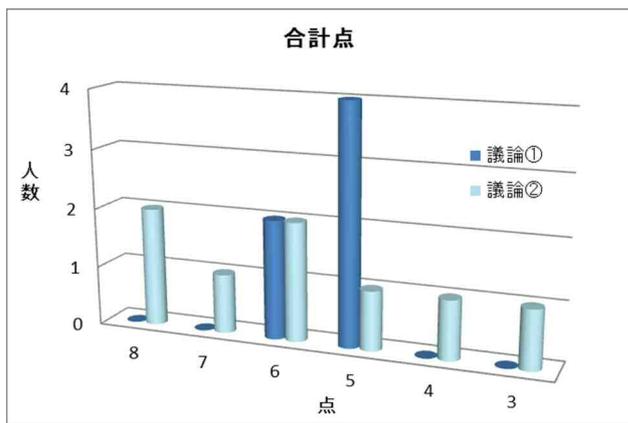
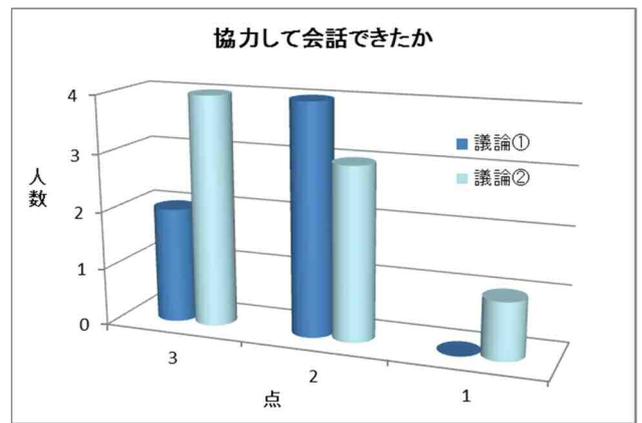
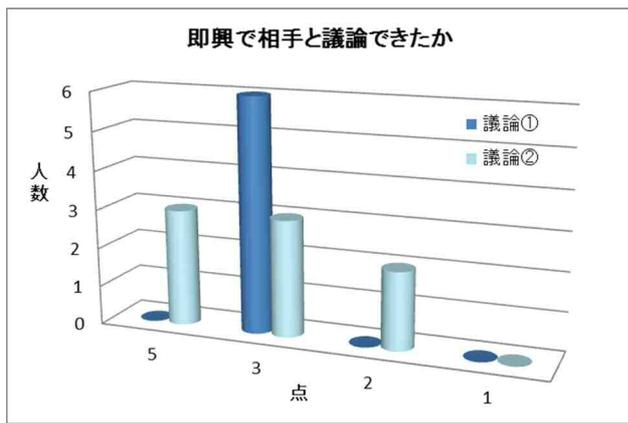
イ 評価結果とその分布

以下に評価の結果と分布を示す【資料3】。議論①の2回目で、議論の最中に言葉がなかなか出でこず、2分30秒間では評価することができないペアがあった。その際、評価ができるまで議論を聞いていたため、予定より2名少ない14名の評価となった。また、「即興で議論」の項目では、「3は与えられないが、1ほど悪くない」生徒がおり、その生徒にはルーブリックにはなかったものの、評点2を与えた。

【資料3 評価の結果と分布】

議論①	即興で議論(5)	協力して会話(3)	合計(8)
生徒A	3	2	5
生徒B	3	2	5
生徒C	3	3	6
生徒D	3	3	6
生徒E	3	2	5
生徒F	3	2	5

議論②	即興で議論(5)	協力して会話(3)	合計(8)
生徒G	5	2	7
生徒H	3	3	6
生徒I	3	2	5
生徒J	3	3	6
生徒K	5	3	8
生徒L	5	3	8
生徒M	2	1	3
生徒N	2	2	4



議論①では、相手の主張に対する直接の反論が出づらかったため、議論②の前に、議論の仕方について例を示した。また、前述のとおり、言えなかった表現を質問する時間を議論①と議論②の間に設けた。このため全体的な印象では、議論②のペアの方が総じて高い評価となった。

今回のような「活動の観察」による評価は、教師にとっても生徒にとっても初めてのことであった。そのため、生徒への事前準備の指示は行ったが、中には十分な準備をしてこなかった生徒もおり、その生徒への評価はかなり低くなってしまった。しかし、このような評価を継続的に行っていけば、生徒に緊張感も生まれ、しっかりと準備をして臨むようになると思われる。

ウ 生徒へのフィードバック

上述のように、十分な事前学習ができなかった生徒の評価は低くなり、そのままの評価を生徒に伝えることはモチベーションの向上にはつながらないと考え、今回は個々の生徒へ評価を提示することを見合わせた。しかし、議論終了後に全体に対して肯定的なコメントを与えるとともに、事前準備の重要性を訴えた。特に、評価が低かった生徒には、次回はしっかりと準備するよう伝えた。

(3) 考察

ア 実践のねらいの達成状況

「指導と評価の一体化」という視点から反省すべき点は、「活動の観察」で生徒の達成状況がある程度把握することができたものの、個々の生徒へのフィードバックを十分に行うことができなかったことである。生徒には活動を評価することは事前に伝えていたが、評価方法や内容、そしてその評価結果がどのように自分に還元されるかまで明確に伝えておく必要があった。それらを伝えないまま、十分なパフォーマンスを示すことができなかった生徒に低い評価を与え、その点数だけを提示したとし

でも、生徒のモチベーションの向上にはつながらない。指導を始める前に、教師がルーブリックを用いた評価の全体像を設定し、その内容を生徒に伝えることの重要性を改めて認識した。

次に生徒の学習状況について述べる。即興で議論する言語活動を単元の冒頭で行うために、事前学習をさせた上で活動に取り組みさせたところ、生徒は回数を重ねるにつれ、議論をうまく進められるようになった。最後の議論②の2回目では、議論の仕方や英語での表現方法も習得していたため、互いの議論がかみ合った形での話し合いが行われていた。

議論①と議論②とで同じ生徒を観察して評価していないため、あくまでも教師の印象ではあるが、議論①で評価をしている際に気付いたことを議論②の前にクラス全体に伝えたことにより、議論②の活動状況が議論①よりも改善され、生徒の成長を感じることができた。

イ 指導手順について

表現方法や議論の進め方を理解すれば、生徒はある程度上手に議論を進められることが分かったので、1回目の議論を始める前にそれらを生徒に指導する方法も考えられる。しかし、それでは生徒の学びが受け身になってしまうという側面もある。1回目の議論で生徒に「うまくいかない」という体験をさせることで、もっとうまく議論するために必要な表現や議論の進め方を学ぼうという意欲が高まり、自ら質問したり注意事項をよく聞いたりするなど、積極的な学習姿勢が生まれてくることが考えられる。そのため、時間はかかるものの、一度「失敗」させる意味でも今回の指導手順は有効であると考えられる。

ウ 評価方法について

今回の評価方法に関しては、以下のような成果と反省点が挙げられる。

(ア) 活動の観察による評価の実用性

ルーブリックを用いて評価を行うことで、生徒の目標達成状況が把握できた。また、その結果から議論を重ねる度に上達する傾向が見られた。ルーブリックをうまく活用すれば、生徒自身が自分の力の向上を具体的に知ることができるため、さらなる学習の動機付けにもなることが分かった。

(イ) ルーブリックについて

表現の能力の項目では、B・C間の差は予想以上に大きかったため、その中間レベルの生徒の評価には苦労した。当初は4と2の評価をすることは想定していなかったが、ちょうど中間に位置すると判断した場合は、それらの評価を与えた。ルーブリックは、初めから完全なものを作成しようとはせず、生徒のパフォーマンスに応じて適宜修正を加えていく方法で作成することがよいと感じた。

(ウ) 総括的評価への反映

1回の活動でなるべく多くの生徒を評価したいと考えて、1組を2分30秒間で評価する計画を立てたが、上述のとおりその時間では評価できないペアもあった。また、何回目の議論を評価するかでその結果は大きく異なるため、ここでの評価を直接成績に反映させることはしなかった。

今回の活動では議論①と②の両方で評価を行ったが、条件面での差がそれほど大きくない議論②の計8名だけの評価を成績に組み込むことも考えられる。40人学級の場合でも同様の活動を5回行えば、全員分の評価をほぼ平等な条件で行うことができる。年間、学期という長期的な計画の下、別の単元でも「活動の観察」による評価を継続し、記録を積み重ねることにより、総括的評価に反映させることは可能と考える。

(エ) 生徒へのフィードバック

後日、別の単元で、環境問題をテーマとした同様の活動と評価を行い、評価結果のフィードバックを行った。そしてそれについてのアンケート調査を実施した。この活動を行った授業は、中学校の先

生方 20 数名に参観していただくものであったため、その先生方にルーブリックを基に生徒の活動を評価していただいた。前回の反省を踏まえて、留意した点は以下のとおりである。

- ・生徒には事前にルーブリックを配付し、それを基に中学校の先生方に評価をしていただくことを伝えた。
- ・事前学習をきちんと行ってくるよう伝えた。また、どのように活動を進めるかも事前に伝えた。
- ・先生方には、1回の活動全体を観察して評価していただいた。
- ・よかった点や改善すべき点を具体的に記入して生徒に渡していただいた。

ルーブリックの内容については、入念な打ち合わせができなかったため、評価結果にはかなりのばらつきが出てしまったが、よかった点や改善すべき点については、具体的に記入していただいた。授業後に行った生徒アンケートの結果は以下のとおりである【資料4】。

質問項目 2, 3 についてはなぜそう思うのか、理由も記入させたところ、2 については、「更に上に行くために必要なことを教えてもらったから」「自分が気付いていない点(抑揚がない, 前を見る etc.)などの指摘があったから」「今まで英語で話すことが苦手だったけれど、褒めていただけたので自信につながったから」など、生徒がアドバイスを前向きに捉えている様子がうかがえた。また、3 については、「評価されることで客観的に見た自分の力が分かるから」「自分で発表するだけだと、どこがどのくらいできたのか分かりにくいから」「緊張感をもって英語を話したいから」など、今後の評価に期待している生徒が多かった。この結果から、大部分の生徒が教師からのフィードバック、特に言葉による具体的なアドバイスを役に立つものであると感じており、今後も英語で発表する力を評価される機会が必要であると考えていることが分かった。

【資料4 生徒アンケート結果】

※回答生徒数：42名			
1 事前学習をきちんとしてから授業に臨むことができた。			
よくできた	24 (57.1%)	あまりできなかった	0 (0%)
まあまあできた	18 (42.9%)	できなかった	0 (0%)
2 先生方からの評価点・コメントは今後の学習に役立った。			
大変役立った	11 (26.2%)	あまり役立たなかった	4 (9.5%)
まあまあ役立った	25 (59.5%)	役立たなかった	0 (0%)
		無回答	2 (4.8%)
3 今回のように、英語で発表する力を評価される機会は必要だと思う。			
大いに思う	20 (47.6%)	あまり思わない	0 (0%)
まあまあ思う	22 (52.4%)	まったく思わない	0 (0%)

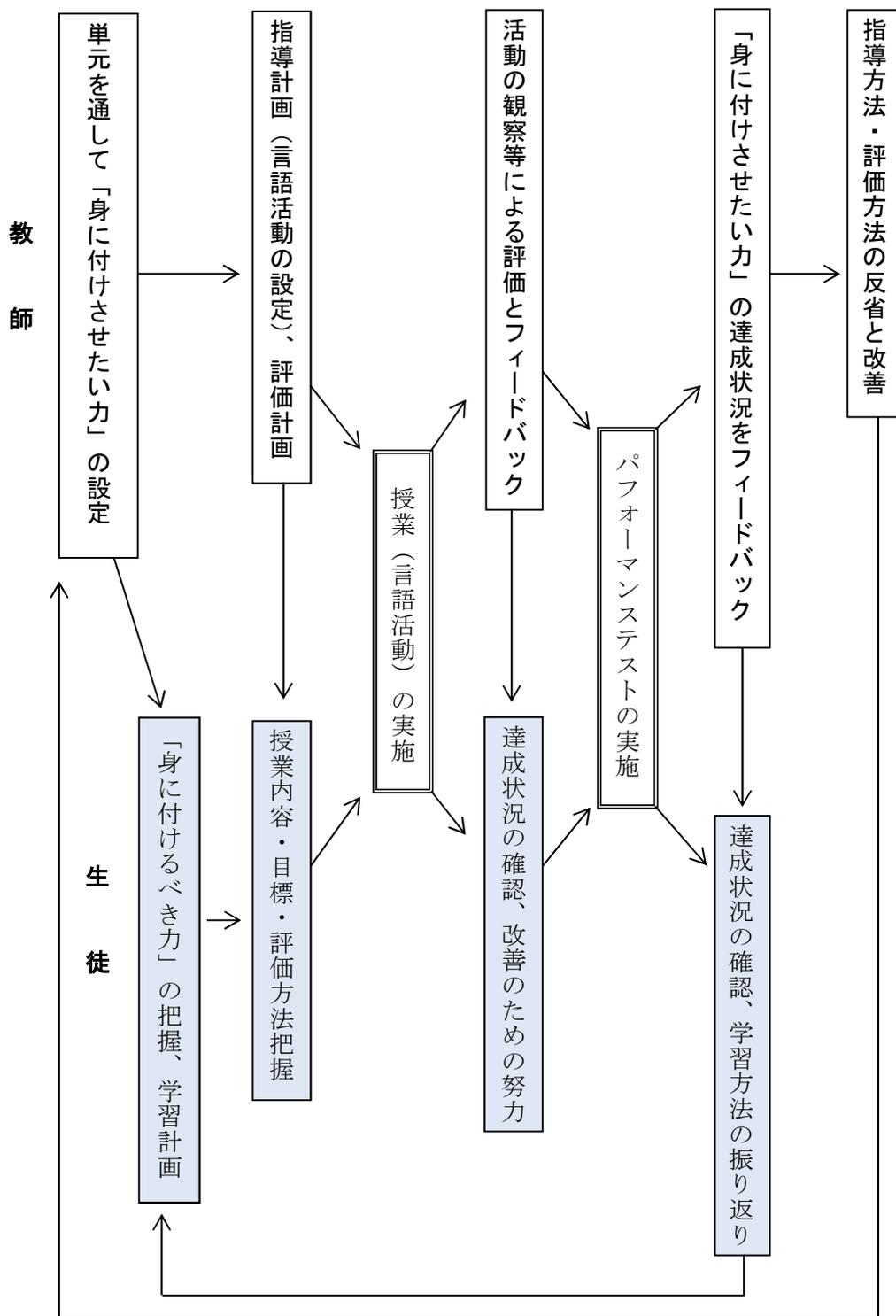
4 今後の課題

本実践を通して、「活動の観察」による評価を行う際の留意点と、その評価をアドバイスとともに生徒にフィードバックすることの有用性を確認できた。また、このような「活動の観察」の評価を積み重ねながら、集大成としてのパフォーマンステストを実施することの必要性を強く感じた。各単元の活動の観察等による評価を通して、改善すべき点を教師から生徒にフィードバックする。生徒は、自分に足りない部分を認識してそれを補うために学習する。そして、パフォーマンステストでその成果を発揮し、更に改善が必要な点があるかを指摘してもらおう。このようなサイクルが出来上がれば、生

徒は英語を用いた言語活動にもっと意欲的に取り組むはずである。

「活動の観察」による評価の特徴は、1回のテストでは測れない力や態度を継続的に見取ることができる点にある。そこで、「活動の観察」とパフォーマンステストを有機的に結びつけた「指導と評価の一体化」が重要になってくる【資料5】。今後は、このようなサイクルを構築できるよう、同僚の英語科教員とともにチームで研究・実践を続けていく。

【資料5 「指導と評価の一体化」のサイクルのイメージ】



参考文献等

- 阿部邦彦他（2010）『高等学校外国語科におけるコミュニケーション能力の育成を目指した単元設計の在り方ー明確な Learning Outcomes を出発点にしてー』山梨県総合教育センター
<<http://www.ypec.ed.jp/center/kenkyukaihatu/22/kiyou/h22kiyoucd/22kiyoupdf/abe.pdf>>
- 石川絵梨子（2013）『パフォーマンス評価シートを使用した実践報告』新潟県CAN-DOプロジェクト <http://www.nipec.nein.ed.jp/sc/gaikokugo/nagaoka_ishikawa.pdf>
- 国立教育政策研究所教育課程研究センター（2012）『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 外国語）～新しい学習指導要領を踏まえた生徒一人一人の学習の確実な定着に向けて～』国立教育政策研究所
- 佐藤一嘉（2014）『ワーク&評価表ですぐに使える！英語授業を変えるパフォーマンス・テスト高校』明治図書
- 投野由紀夫（2013）『CAN-DOリスト作成・活用 英語到達度指標CEFR-Jガイドブック』大修館書店
- 文部科学省（2009）『高等学校学習指導要領』文部科学省
- 文部科学省（2013）『各中・高等学校の外国語教育における「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標設定のための手引き』文部科学省
- 横山千晴（2014）『パフォーマンス課題とルーブリックで発信力を問う英語授業～1年英語科 SP2 道案内「留学生に佐賀大学周辺マップを作って紹介しよう」を通して～』
<http://ten.tokyo-shoseki.co.jp/toshosyo/no29/29_jh_p46-63_yokoyama.pdf>

Lesson 7 Mobile Devices ①

<CAN-DOs>

- (配当時間：理型2、5時間)
 ① smart phonesの功罪について、筋道を立てて議論することができる。
 ② 連絡方法としてmailと電話のどちらがいいかについて、論理的に述べることができる。
 ③ 相手の発言を聞いて、内容を理解し、適切に対応することができる。

Task 1: Discussion (即興で話す練習)

～事前学習～ smart phonesの good points, bad pointsを最低5つずつ英語で書き出してみよう。(もっと書ける人はなるべくたくさん書くこと。)

※教科書の例文などを参考にするとよい。

①good points

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

②bad points

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

～ペア活動(授業)～ smart phones について、肯定的立場と否定的立場に分かれて議論する

- 肯定的立場の生徒が、"I think smart phones are very good for us because S+V"で始める。
- 否定的立場の生徒が、"I don't agree with you"と言って、相手が示した理由に反論し、その後、自分の立場を support する理由を述べる。
- 5分間会話を続ける。
- ペアを変え、計3回行う。

<メモ欄>

議論の内容について、必要があれば以下にメモしておくこと。

生徒配付用 解答例 (別刷りで配付)

①good points

.....

..... You can use the Internet anywhere.....

..... You can contact your friends more easily.....

..... You can use various useful applications which make your life easier.....

..... You can play various interesting games on them so you'll never get bored.....

..... You can download your favorite songs and videos on your smartphone.....

.....

.....

②bad points

.....

..... You can be contacted even when you want to be alone.....

..... If you use it too much, it costs you a lot.....

..... Children can visit bad sites on the Internet.....

..... Some people are so dependent on them that they don't have time to do other things.....

..... Children use SNSs too much and have trouble with their friends.....

.....

実践報告 5

英語表現Ⅱにおける発表活動とその評価

－伝える力の育成を目指して－

愛知県立西尾高等学校 教諭 筒井 彩

1 実践のねらい

本校は全日制普通科で各学年9クラスを有する西尾地区の伝統校である。知性高く、情操豊かで、進取の気質、自主な精神、強固な克己心を備えた生徒育成を教育目標とし、日頃から甘えのない文武両道・自主性という言葉が重んじられている。また、平成25年度より「あいちスーパーイングリッシュハブスクール」として国際理解教育の充実を図っており、理数教育とともに将来の夢につながる質の高い刺激を与えることに全校を挙げて取り組んでいる。

(1) 生徒の学びの現状

生徒は概して、熱心に学習に取り組んでいる。授業中の活動にも活発に参加し、楽しみながら学びを進め、家庭学習にも計画的に取り組むことができる生徒が多い。その一方で、週末課題やテスト前の勉強だけに終始する生徒もおり、学力差は広がる傾向にある。

(2) 指導と評価における課題

現2年生に対しては、1年次より各学期末にコミュニケーション英語Ⅰと英語表現Ⅰの授業でパフォーマンステストを行ってきた。1年次は音読や簡単な会話といった基礎的な力を測っていたが、2年生ではまとまった量で自己表現することに重きを置いたテストを実施することとした。また、定期考査や、教員と1対1で行うパフォーマンステストに加え、授業内の活動についても適切に評価する必要がある。

(3) 身に付けさせたい力

「勉強ができる」「大学入試を突破できる」という視点からの知識中心の英語力ではなく、4技能をバランスよく使えるコミュニケーション能力を身に付けさせたい。特に、言葉として「伝える」ということを意識した英語力を育成することが大切であると考えます。

本実践では、特に発表活動に焦点を当て、生徒が自分自身の大切なものについて相手に伝える力を育成する指導と評価の在り方を探っていく。

2 実践の計画

(1) 学習指導計画

ア 言語活動の工夫

今回の発表活動は、自分自身が大切にしている物を持参し、聴衆にスピーチをするという Show and Tell を行う。発表に至るまでの段階的な指導として、ブレインストーミングやアウトライニングを取り入れ、時間をかけ慎重にアイデアを練ることから始める。その際に、モデル文を参考にして書くべき内容についてペアで議論するとともに、効果的に相手に伝えるために構成も意識させる。そして、構成を段階的に考えながら文章を構築し、スクリプトを完成させる。最終的に、書いたスクリプトを

基にクラス全体で Show and Tell を実施する。

イ ワークシートの工夫

「ブレインストーミング → アウトライニング → エッセイライティング」という指導手順に従い、生徒が自分の考えやアイデアを書き込んだり、整理したりすることができるワークシート【巻末資料①】を準備した。発表を聞く際の聞き手用のコメントシート【巻末資料②】を用意して、記入後にそれを発表者に渡すことで、発表者が聞き手の率直な感想を知ることができるようにした。

(2) 評価計画

ア パフォーマンス課題・ルーブリック

Show and Tell の活動を以下のルーブリック【資料 1】を使って評価する。生徒一人当たりの持ち時間は1～2分とし、教壇の上でクラス全員に向けて発表する。担当教員6名がこのルーブリックを共有し、第2学年全18クラス（少人数展開）の生徒を評価することで成績に反映させる。

【資料 1 パフォーマンス課題のルーブリック（評価の観点：外国語表現の能力）】

評価規準	採点基準（ ）は点数	Score	Total
自分が大切にしているものについて、論理的で説得力のある文章を書くことができる。（内容）	A（4）：その物の紹介から、それにまつわる話を自分なりに深めており、説得力がある。 B（2）：展開や論が浅く、説得力に少し欠けるが、話の筋は通っており、その物の紹介やそれにまつわる話がされている。 C（0）：話の展開があちらこちらに行っており、論理的でない。あるいは情報量が少なく、その物の紹介やそれにまつわる話が言及されていない。	/4	
書いた文章を、効果的に聴衆に伝えることができる。（英語）	A（4）：言いたいことが十分分かり、間違いが少しある程度で、聞きやすい。 B（2）：間違いや分かりづらい箇所がいくつかあるが、言いたいことがおおむね分かる。 C（0）：言っている英語が理解できない。言いたいことはなんとなく分かるが、語順や単語の使い方などで間違いが多く、理解するのに苦労し、確認をしないと難しい。	/4	
書いた文章を、効果的に聴衆に伝えることができる。（デリバリー）	A（4）：しっかりと聴衆の目を見ながら、適度な声量で話し、聴衆に対して伝えようとする態度を感じる。 B（2）：原稿を頼ることも多く、伝えようとする態度が十分ではないものの、原稿から時折目を離して聴衆を見ており、適度な声量で話そうとしている。 C（0）：ほとんど目を見ることもできず、原稿を読み上げるだけになってしまっている。声が小さかったり、表情が暗かったり、間の置き方も不十分で、聴衆に対して伝えようとする態度が見受けられない。	/4	/12
	その他：加点・減点 ・1分に満たない場合、もしくは2分以上の場合はマイナス5点。 ・原稿を持たずに発表台に立つとプラス2点。		

(3) 単元構想

ア 使用教科書・単元名

Departure English Expression II (大修館)

Part 4 Lesson 1 Show and Tell “Something I cherish”

イ 単元の目標と言語活動

【単元の目標】

自分が大切にしているものについて、聞き手に分かりやすく説明することができる。

【言語活動】

・「ブレインストーミング → アウトライニング → エッセイライティング」のように段階的に構成を考えて、論理的な文章を書く。

・書いた文章を基にして、聴衆を意識して効果的に1分～2分程度で発表する。

ウ 単元のCAN-DO（4技能ごとの学習到達目標の設定）

話すこと		書くこと		聞くこと		読むこと	
学習到達目標	評価方法	学習到達目標	評価方法	学習到達目標	評価方法	学習到達目標	評価方法
・書いた文章を効果的に聴衆に伝えることができる。	・活動の観察	・自分が大切にしているものについて、論理的で説得力のある文章を書くことができる。	・ワークシート	・クラスの発表を聞いて内容を理解することができる。	・コメントシート ・活動の観察	・モデル文を読み、Show and Tellに必要な構成や内容を理解することができる。	・活動の観察

エ 単元の評価規準（4観点ごとの評価規準の設定）

評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
評価規準	①ペアで協力して、積極的に議論している。 ②クラスの発表に積極的に耳を傾け、適切にコメントしている。	①自分が大切にしているものについて、論理的で説得力のある文章を書くことができる。 ②それを効果的に聴衆に伝えることができる。	①クラスの発表を聞いて内容を理解することができる。 ②モデル文を読み、Show and Tellに必要な構成や内容を理解することができる。	①論理的な文章を書くために必要な文章構成や考えの整理の方法を理解している。
内容のまとめ	①話すこと ②聞くこと	①書くこと ②話すこと	①聞くこと ②読むこと	①書くこと ①話すこと
評価方法	①②活動の観察 ②コメントシート	①ワークシート ②パフォーマンスシート (Show and Tell)	①コメントシート ②活動の観察	①ワークシート ①活動の観察

オ 指導と評価の計画

時間	ねらい, 学習活動, 指導上の留意点	評価の観点	評価方法
1	<p>[ねらい] 自分が大切にしているものについてモデル文を読み, Show and Tell に必要となる構成や内容を理解した上で, 自分のアイデアを列挙し, 関連付け, 簡単なアウトラインを作ることができる。</p> <p>[学習活動]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 モデル文を読み, どんな構成であるか, どのような内容を伝える必要があるかペアで考える。 2 自分が大切にしているものについて, 思いつく限りの語彙や表現を書き出す。 3 ブレインストーミングで考えたアイデアをマインドマップの形式で関連付ける。 4 マインドマップから, 簡単な導入・本論・結論をつくる。 <p>[指導上の留意点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動1では, 辞書を使わず, 自分の知っている英語で話すよう指示する。また, 一方的なスピーチではなく, 意味のあるやりとりとなるように, 聞き手に手助けや質問をさせる。 ・活動2では, スピーチに必要かどうか取捨選択をせず, できる限り書き出すよう促す。 ・活動3では, 関連付けしながら, 取捨選択し, 必要であれば追加していくことを, 適宜伝える。 	関・意・態, 理解 表現, 知・理	活動の観察 ワークシート 活動の観察
2	<p>[ねらい] 前時で書いたアウトラインに肉付けをし, パラグラフ・ライティングをする。</p> <p>[学習活動]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 簡単なアウトラインに補助となる文章を補って肉付けをする。 2 アウトラインに基づき, 3段落のスキプトを書く。 3 チェックリストに基づき, 推敲する。 <p>[指導上の留意点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単なる事実の羅列にならないように注意する。 ・書き終わったら, 必ず推敲するよう促す。 	表現, 知・理	ワークシート 活動の観察
3	<p>[ねらい] 前時で書いたスキプトを基に, Show and Tell を行う。</p> <p>[学習活動]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 発表時に注意すべきことについてペアで考える。 2 それに基づき, ペアで練習する。 3 全員が全体の前で発表する。聞き手はコメントシートに記入する。 	関・意・態 表現, 関・意・態	活動の観察 パフォーマンス ステスト

<p>[指導上の留意点]</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手に伝わるような発表の仕方，話し手が話しやすいような聞き手の態度について指導する。 		<p>コメントシート</p>
--	--	----------------

(4) アンケート調査

Show and Tell を実施後（3時間目）に調査用紙【巻末資料③】に回答させる。対象は第2学年全18クラス（少人数展開）とする。調査項目（1）から（6）までは5段階での回答とし，項目（7）及び（8）は自由記述とする。

3 実践と考察

(1) 授業における言語活動の取組状況

初めのモデル文の構成の理解，アウトラインとスクリプトの作成，そして Show and Tell まで，生徒は終始集中して取り組んでいた。段階的にスクリプトを書く際には，アイデアを練り何度も変更を加えながらよりよいものに改善しようとする生徒もいれば，アイデアが深まらず苦戦する生徒も見られた。

Show and Tell を通してクラスメイト自身についての発表を聞くことは生徒にとって興味深いものであり，普段目立たない生徒が派手なギターやスパイクを見せた時には自然に歓声上がるなど，大半の生徒が発表を聞くことを楽しんでいった。発表をする際は，普段から人前に立つ機会が少ないこともあり，全体的に緊張した様子が見られた。原稿を見ながら発表する生徒も多かった。

(2) 評価の実際

ア パフォーマンスの評価

計画どおり，単元の終わりに Show and Tell を行った。内容に関しては，ほぼ全ての生徒が B（2点）に相当する「物の紹介やそれにまつわる話」をしっかりと構成できていた。しかし，スピーチの深め方がまだ十分とはいえず，A（4点）に達する生徒は多くなかった。【資料2】に評価の例を示す。

【資料2 生徒によるスクリプト：内容の評価A（4点）とB（2点）の例】

評価 A（4点）

Please look at these pictures. These are the things I treasure the most. I visited the United States last year throughout the project called KAKEHASHI Project. These pictures were taken during the trip. That was the first time in my life to have an opportunity to meet so many people in a foreign country. (中略) I won't forget these people and the experience forever. I want you to think about the importance of meeting new people and that they may give you a new way of thinking. (原文のまま)

評価 B（2点）

Please look at this pictures. I went to America last year and bought it. It was the first time to go abroad for me. This experience is my treasure. (中略) I could learn only few things but I had really good time in America. I'll never forget this experience. I want to return to America someday. (原文のまま)

英語に関しても，おおむね理解できる英語で Show and Tell を行う生徒がほとんどであった。一方，

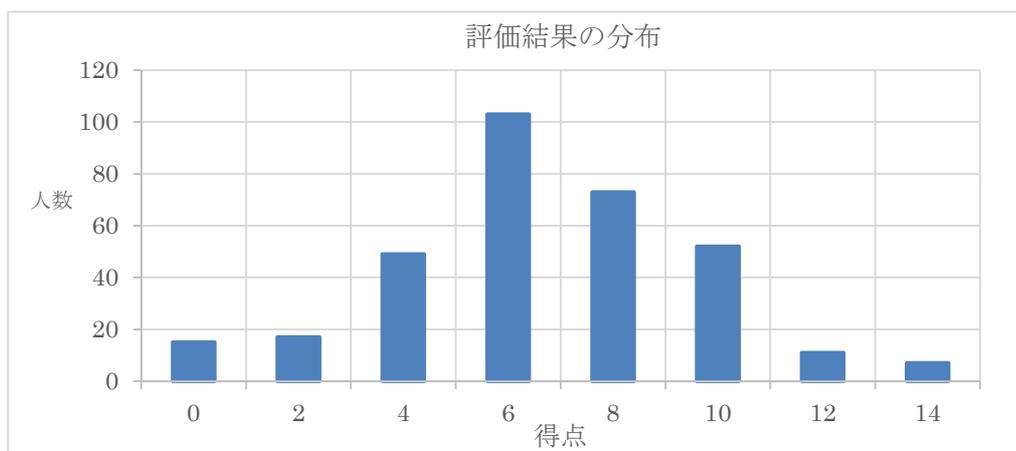
推敲が十分になされていない生徒や発音練習が十分できていない生徒も一部見られた。

デリバリーについては、Aに達する生徒からBに達しない生徒までさまざまであった。生徒の中には、原稿を持たずに発表台に立ち、自信をもって堂々と伝えようとする者もいた。この生徒にはA（4点）評価を与え、更に加点した。

イ 評価結果の分布

評価結果は、最高14点、最低0点であり、平均点は6.5点、分布は【資料3】のようになった。0点や2点の生徒はあまり多くならないと予想していたが、制限時間内に発表をまとめることができず大きく減点された生徒が少なからずおり、これらの生徒は発表自体の質も決して高くなかったため、0点となってしまった。

【資料3 評価分布表】



ウ 生徒へのフィードバック

Show and Tell についての評価は成績に反映させるとともに、生徒の発表に対するフィードバックとして、各生徒が記入したコメントシート（内容・デリバリーは5段階、コメントは自由記述）【巻末資料②】及び教員が記入した同様のコメントシートを裁断して発表者ごとにまとめ、発表者に渡した。コメントは、実際に見せた物やその話についての感想が多く、生徒同士が互いのことを知るきっかけとなったことが分かった。

(3) 事後アンケート結果

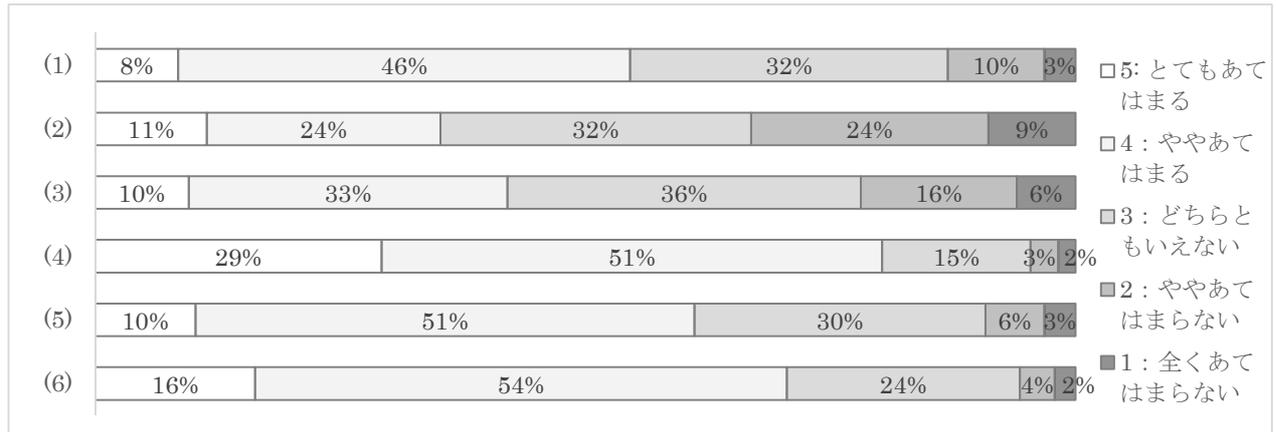
アンケートは284名の生徒に対して行った【資料4】。

項目(1)「原稿作成：構成に気を付けて、論理的に書くことができた」では、54%の生徒が「とても／ややあてはまる」と肯定的な回答をしており、過半数の生徒が単元の「書くこと」の目標に到達したと感じている。

項目(2)「練習：書いた文章を何度も読む練習をした」では、「とても／ややあてはまる」と回答をした生徒が35%、「やや／全くあてはまらない」と否定的な回答をした生徒が33%であったことから、練習に対する意識付けや練習時間の確保が十分ではなかったと考えられる。

項目(3)「発表：クラスメイトとアイコンタクトをとるなどして、聴衆を意識して発表できた」では「とても／ややあてはまる」と回答をした生徒が43%、「やや／全くあてはまらない」と回答した生徒が22%であったことから、練習を十分にさせて自信をもたせたり、聴衆をもっと意識させたりする指導が必要であったと考えられる。

【資料4 事後アンケート結果】



項目(4)「発表：クラスメイトの発表をしっかりと聞くことができた」では、80%の生徒が「とても／ややあてはまる」と回答しており、Show and Tellを通して、生徒のコミュニケーションへの関心・意欲・態度が高まったと考えられる。

項目(5)「発表：クラスメイトの発表を理解することができた」では、61%の生徒が「とても／ややあてはまる」と回答しており、多くの生徒が単元の「聞くこと」の目標に到達したと感じている。

項目(6)以降に関しては、生徒の評価に対する意識調査を目的とした。項目(6)「評価：今回のように英語で発表する力を評価される機会は必要だ」では、70%の生徒が「とても／ややあてはまる」と回答している。

項目(7)「上記6の回答に対して、なぜそのように思いましたか」という自由記述では、「将来発表することがあるから」「人前で話す機会は大切だから」という回答が最も多く、続いて、「英語を話すことに対して意識が高まるから」「英語力(スピーキング力)が付くから」という回答が多かった【巻末資料④】。

また、項目(8)「今後このような発表があると想定すると、それに向けてあなたがすべきことは何ですか」という自由記述では、「練習をしておく」という回答が最も多く、次に「アイコンタクトや自然なデリバリーに気をつける」といった発表の仕方、そして「文法」「発音」「語彙」などに関する回答が続いた。

以上の結果から、クラス全体で発表活動を行うことに対しても、また評価されることに対しても、生徒は前向きであり、今回の反省を次に生かそうとしていることが分かった。

(4) 考察

ア ねらいの達成状況

Show and Tellを単元構想の中心として、構成を意識したスクリプト作成に取り組みさせた上でクラス全体での発表活動を行ったところ、生徒は時間をかけてアイデアを練り、推敲をしながら、言いたいことをうまくまとめて伝えられるようにと努力していた。発表においては、原稿を持たずに発表に臨む生徒も見られ、また、聞き手であるクラスメイトは一生懸命理解しようと発表に耳を傾け、その上でコメントを書くなど、デリバリーへの意識を根付かせることはできた。

授業後にクラスメイトからのコメントシートを受け取り、熱心に読んでいた生徒の姿も印象的である。友人からの評価に喜ぶと同時に、次への改善点についても気付かされることとなり、学習意欲や表現力の向上につながることを期待できる。また、Show and Tellを行った後の休み時間には、発表内容を話題にしている姿も見受けられ、発表がさらなるコミュニケーションのきっかけになったと確

信している。

イ 指導手順について

1時間目に自分が大切にしているものについてモデル文を読み、Show and Tellに必要となる構成を理解した上で、自分の文章を書き始めたのはとても効果的であったと考える。型にはまってしまうかもしれないが、伝えたい内容を整理する上での手助けとなっていた。一方、自分のアイデアを列挙し、マインドマップの形式で関連付ける段階を苦手とした生徒も多く、「アウトラインから始めたい」という意見も見られたので、今後の指導の参考にしたい。

スクリプト作成については、1・2時間目に書くことに時間を多く費やしたものの、なかなか書き終えることができず、3時間目への持ち越しとなってしまった。そのため、3時間目には練習時間を十分に確保することもできないまま、発表を行うクラスも多々あった。事後アンケートでは、生徒は「練習が十分にできていなかった」「次回は練習をしておきたい」と考えていることが分かった。ペアによる推敲や練習の時間をもう1時間確保するなど、余裕をもった指導計画が必要だったと言える。

ウ 評価方法について

評価はルーブリックに基づいて、各クラスの担当教員によって行われた。評価結果を比較すると、教員Bは習熟度によるクラス分けで上位のクラスを担当しているために平均点が高かったものの、それ以外は教員間での大きな差は見られなかった【資料5】。ルーブリックのおかげで評価の信頼性が確保できたと言える。

【資料5 教員別の平均点】

教員	A	B	C	D	E	F
平均点	6.2	8.4	6.5	5.7	6.5	5.8

ルーブリックに挙げた構成、英語、そしてデリバリーの三つの評価項目は、本単元で身に付けさせたい外国語表現の能力を測るのに適切であったと考えている。担当教員からは、「メッセージを的確に伝えるためには、『英文の論理的な構成』『間違いの少ない英語』『声の明瞭さやアイコンタクト』が欠かせない。その意味で、今回のルーブリックでは『聞き手に分かりやすく説明することができる』という漠然とした表現である単元の目標を、分かりやすく項目化することができた」という意見や、「発表者の点数と聴衆の理解度は比例していたようであった」という声もあった。このことから、担当教員の実感として、ルーブリックの評価項目や採点基準も適切であったと考えられる。

発表を時間内に収めることができない場合には5点を減点するというルールを設定した意図は、生徒が書く分量や話すスピードなどに注意して準備し、練習を重ねた上で発表に臨むようにすることであった。このことは生徒に予告していたのだが、1分に満たない、もしくは2分をオーバーしてしまう減点対象者が予想以上に多く、意図に反する結果となった。生徒が努力してスクリプトを作成し、発表した結果が、減点により0点または0点に近い評価になることは適切とは言えない。よって、意図をしっかりと伝えた上で十分に練習させるとともに、発表時間を含めた評価項目をルーブリックに組み込むべきであったと考える。

一方、原稿を持たずに発表すれば2点を加点するというルールに関しては、対象者が予想より大幅に少なかった。しかし、原稿を持たずに発表した生徒は総じて発表内容もよく高得点となっていたことから、今後は、無条件に加点するのではなく、ルーブリックのデリバリーの評価項目に含めていきたい。

4 今後の課題

本実践では Show and Tell という具体的な活動を扱ったが、今後、スピーチ、プレゼンテーション、そしてディベートと、難易度の高いものへ移行していく予定である。いずれにしても、内容の論理性や説得力がより重要になるだけでなく、いかに効果的に聴衆に伝えるかが鍵になる。本校では各単元でテーマに基づいたエッセイライティングとペアでの発表活動を行っているが、指導法に変化を付け、少しずつ到達目標のレベルを上げていく必要がある。

また、「効果的に伝える」というねらいをもった指導を行うのであれば、生徒の活動を筆記テストやエッセイライティング以外の方法でも評価していく必要がある。英語表現Ⅱでは少人数授業を行っているため、非常勤講師を含め6名の教員が担当しており、授業の進め方や評価方法、評価規準を揃えることは容易ではない。しかし、高等学校学習指導要領の外国語の目標及び各科目の目標に「伝える」という語が多く見られるとおり、私たち英語科教員には、情報や自分の考えなどを論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える力を身に付けさせる責務がある。今後も、単元構想に基づく指導と評価の一体化を進め、長期的な視点で「伝える力」の育成と評価の在り方についての研究に取り組んでいく。

参考文献等

- 文部科学省（2009）『高等学校学習指導要領』文部科学省
- 文部科学省（2012）『言語活動の充実に関する指導事例集～思考力・判断力・表現力等の育成に向けて～【高等学校版】』文部科学省
- 国立教育政策研究所教育課程研究センター（2012）『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 外国語）～新しい学習指導要領を踏まえた生徒一人一人の学習の確実な定着に向けて～』国立教育政策研究所

Part 4 Lesson 1 Show & Tell – “Something I cherish”

Step 1 ブレインストーミング

My treasure

Step 2 関連付け

My treasure

Step 3 構成

Introduction (Topic sentence) _____

Body (Topic sentence) _____

Conclusion (Topic sentence) _____

Step 4 肉付け

Introduction (T) _____

(S) _____

Body (T) _____

(S1) _____

(S2) _____

(S3) _____

(S4) _____

Conclusion (T) _____

(S) _____

English Expression II Show and Tell 評価表 (生徒用) 2年 組 (前半・後半)

No	名前	紹介物	内容	デリバリー
1			1 2 3 4 5	1 2 3 4 5
2			1 2 3 4 5	1 2 3 4 5
3			1 2 3 4 5	1 2 3 4 5
4			1 2 3 4 5	1 2 3 4 5
5			1 2 3 4 5	1 2 3 4 5
6			1 2 3 4 5	1 2 3 4 5
7			1 2 3 4 5	1 2 3 4 5
8			1 2 3 4 5	1 2 3 4 5
9			1 2 3 4 5	1 2 3 4 5
10			1 2 3 4 5	1 2 3 4 5
11			1 2 3 4 5	1 2 3 4 5

Name()

No	名前	紹介物	内容	デリバリー
12			1 2 3 4 5	1 2 3 4 5

13			1 2 3 4 5	1 2 3 4 5

14			1 2 3 4 5	1 2 3 4 5

15			1 2 3 4 5	1 2 3 4 5

16			1 2 3 4 5	1 2 3 4 5

17			1 2 3 4 5	1 2 3 4 5

18			1 2 3 4 5	1 2 3 4 5

19			1 2 3 4 5	1 2 3 4 5

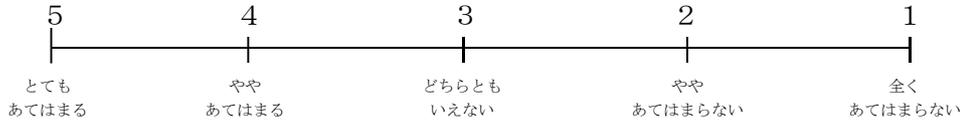
20			1 2 3 4 5	1 2 3 4 5

21			1 2 3 4 5	1 2 3 4 5

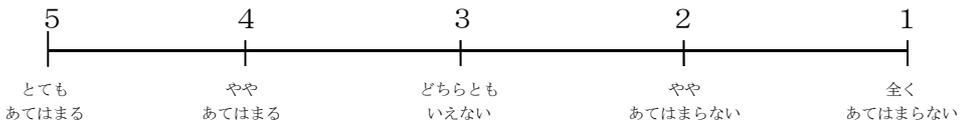
22			1 2 3 4 5	1 2 3 4 5

※このアンケートは、教員が今後の参考にするためのものであり、みなさんを評価するためのものではありません。正直に教えてください。

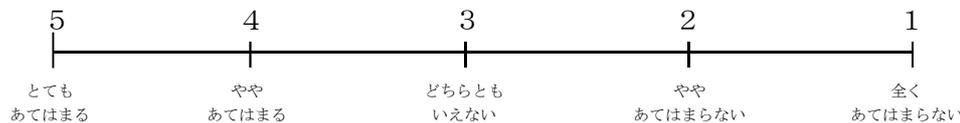
1. 原稿作成：構成に気をつけて、論理的に書くことができた。



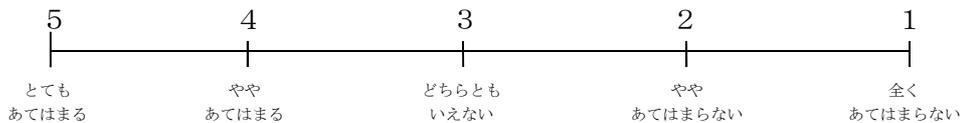
2. 練習：書いた文章を何度も読む練習をした。



3. 発表：クラスメイトとアイコンタクトをとるなどして、聴衆を意識して発表できた。



4. 発表：クラスメイトの発表をしっかりと聞くことができた。



5. 発表：クラスメイトの発表を理解することができた。



6. 評価：今回のように英語で発表する力を評価される機会は必要だ。



7. 上記6の回答に対して、なぜそのように思いましたか。

[]

8. 今後このような発表があると想定すると、それに向けてあなたがすべきことは何ですか。

[]

- 事後アンケート（7）「6の回答に対して、なぜそのように思いましたか」の自由記述回答の一部
 ※ アンケート（6）への回答別、原文のまま

(6)「今回のように英語で発表する力を評価される機会は必要だ」に対し、

5（とてもあてはまる）と回答した生徒の記述

- ・英語に関わらず、人前で発表することはこれからたくさん経験すると思うから、その練習になる。
- ・自分の意見や考えについて正しく明瞭な英語で発表・説明できることは大事。
- ・これからの国際社会でも日本の会社での英語プレゼンテーションの練習になるから。
- ・大人になった時に英語でスピーチをする機会があると思うから。
- ・これからの社会で生きていくには必要な Skill だから。
- ・これからはプレゼンテーションが大切な時代だから。
- ・英語でスピーチすることに意義を感じるから。
- ・外国でプレゼンテーションをする可能性があるから。
- ・英語を「話す」という意識が高まるから。
- ・話せないと意味がないから。
- ・将来に役立つと思ったから。
- ・グローバル社会だから。
- ・やる気がでるから。

4（ややあてはまる）と回答した生徒の記述

- ・ただ文を読んだり書いたりするだけより、このような機会がある方が英語に対する考えも変わると思うから。
- ・発表やプレゼンは社会に出てからも必要とされるから。
- ・人前で話す機会を体験した方がいいと思ったから。
- ・将来的に必要だと思ったから。
- ・今後社会で必要だから。
- ・そのような機会はこれから必要だから。
- ・人前に立つという行いは、将来必要と思うから。
- ・書くだけでは英語力はつかないから。
- ・話すことができるとう将来いい。
- ・みんなの前でも落ち着いて、自信をもって話す練習になるから。
- ・力がついているのかいないのかわかるから。
- ・英語で言いたいことを言える力を身につける必要があるから。
- ・話せてこそその英語だと思うから。
- ・Show and Tell は人によって違うので楽しいです。
- ・皆の前で発表する力をつけた方が良いから。
- ・テスト以外でも実力を測る機会はいる。
- ・自分の悪いところがわかる。
- ・英語力がつくから。
- ・がんばれるから。
- ・まだ慣れないから。

3（どちらともいえない）と回答した生徒の自由記述

- ・発表した方が英語の力がつくと思うから。
- ・人の前で話す能力が必要だと思うから。
- ・発表した方が力が高まると思うけど、やりたいとは思わないから。
- ・必要かもしれないけど、やりたくはない。
- ・あってもなくてもいい。
- ・なんとなく。

2（ややあてはまらない）と回答した生徒の自由記述

- ・苦手だから成績悪くなる。

実践報告 6

英語表現Ⅱにおける表現力の育成と評価

ープレゼンテーションによる発信ー

愛知県立横須賀高等学校 教諭 小畠 裕美

1 実践のねらい

本校は各学年8学級をもつ全日制普通科の高校である。「質実剛健」「親切奉仕」「勤勉努力」の校訓のもと、勉学に励み、心身を鍛え、人格を陶冶し、国家・社会の発展に寄与する有為な青年の育成を目指している。ほぼ全ての生徒が4年制大学への進学を志望し、その半数以上は国公立大学進学を目指している。

(1) 生徒の学びの現状

向上心のある生徒が多い。教師の指示に素直に従って活動をするが、英語に対しては受動的で、表現力も不足している。英語で発信する場面を増やし、より積極的な英語学習への態度を育成していく必要がある。

(2) 指導と評価における課題

授業では、できる限り言語活動を取り入れているが、自分の意見を発信することはできても、意見交換までには至らず、一方的な活動になることが多い。生徒の言語活動に対する適切なフィードバックと、明確な評価規準を設定していくことが必要である。

(3) 身に付けさせたい力

今後、コミュニケーション能力がよりいっそう求められていく中で、本校はまだまだ英語に対して受動的な生徒が多い。学習したことを理解するだけではなく、それを使って表現していく積極性を身に付けさせていきたい。

本実践では、特に発表に焦点を当て、生徒が英語で発信していく力を育成する指導と評価の在り方を探っていく。

2 実践の計画

(1) 学習指導計画

ア 言語活動の工夫

教科書のモデル文を参考に、行ってみたい場所についてペアで話をさせる。その際、有名な国内外の世界遺産の写真などを提示することで、より円滑な会話が行える環境を整える。その後、ワークシートを用いて発表用原稿を書かせ、最後にプレゼンテーションを行わせる。一人1分程度のプレゼンテーションを4～5人のグループ内で練習し、その後、生徒それぞれが全体の場でプレゼンテーションを行う。

イ ワークシートの工夫

日本や外国で行ってみたい場所について、何を書くべきかの内容を示した。また、発表する際に評価の観点となる項目を明示した【巻末資料1】。

(2) 評価計画

「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」については、授業中のペア・ワークやグループ・ワークにおいて評価する。また、「日本や外国で行ってみたい場所を一つ挙げ、プレゼンテーションすることができる」（外国語表現の能力）、「行ってみたい日本や外国の場所についての発表用原稿を作成することができる」（外国語表現の能力）、及び「相手の発表を聞いて内容を理解し、適切に質問・評価することができる」（外国語理解の能力）の3点について、ルーブリックに基づき、プレゼンテーションにおいて評価する。

一人1分程度のプレゼンテーションを4～5人のグループ内で練習し、その後生徒それぞれが全体の場でプレゼンテーションを行う。

【資料1 プレゼンテーションのルーブリック(外国語表現の能力)】

評価規準	項目	採点基準：()内は点数	score	total
日本や外国で行ってみたい場所を一つ取り上げ、プレゼンテーションを行うことができる。	Voice	A(2) 大きな声で、明確に話している。 B(1) 声が小さく、聴き取れない。	/2	/8
	Speed	A(2) 聴き取りやすい、適切な速さである。 B(1) 速すぎて(遅すぎて)、聴き取りにくい部分がある。	/2	
	Posture	A(2) 姿勢よく立って話している。 B(1) 姿勢がよくない。	/2	
	Eye contact	A(2) 観客を見て話している。 B(1) 下を向いて話している。	/2	

(3) 単元構想

ア 使用教科書・単元名

Vision Quest English Expression II (啓林館)

Lesson 14 ローマの魅力

イ 単元の目標と言語活動

【単元の目標】

自分が行ってみたい場所について、英語で原稿を書き、プレゼンテーションを行うことができる。

【言語活動】

日本や外国で行ってみたい場所を一つ取り上げ、その理由も含めた文章を書き、プレゼンテーションを行う。

ウ 単元のCAN-DO (4技能ごとの学習到達目標の設定)

話すこと		書くこと		聞くこと		読むこと	
学習到達目標	評価方法	学習到達目標	評価方法	学習到達目標	評価方法	学習到達目標	評価方法
・日本や外国で行ってみたい場所を一つ取り上げ、プレゼンテーションを行うことができる。	・活動の観察 ・プレゼンテーション	・行ってみたい日本や外国の場所についての、発表用の原稿を作成することができる。	・エッセイ・ライティング	・相手の発表を聞いて内容を理解し、適切に質問・評価をすることができる。	・評価シート ・活動の観察	(本単元では設定しない)	

エ 単元の評価規準（4観点ごとの評価規準の設定）

評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
評価規準	①ペア・ワークにおいて互いに協力しながら会話を続けている。 ②大きな声ではっきりと話す。	①日本や外国で行ってみたい場所の一つ取り上げ、プレゼンテーションを行うことができる。 ②行ってみたい日本や外国の場所についての、発表用の原稿を作成することができる。	①相手の発表を聞いて内容を理解し、適切に質問・評価することができる。	①形容詞の基本的な使い方を理解している。
内容のまとめ	①話すこと	①話すこと ②書くこと	①聞くこと	①書くこと ②話すこと
評価方法	①活動の観察	①活動の観察 パフォーマンステスト (プレゼンテーション) ②エッセイ・ライティング	①評価シート 活動の観察	①定期テスト ②ワークシート

オ 指導と評価の計画

時間	ねらい, 学習活動, 指導上の留意点	評価の観点	評価方法
1	<p>[ねらい] 行ってみたい場所について、互いに話し合う。名詞の修飾の仕方の基本的な表現を学習する。</p> <p>[学習活動] 1 教科書に掲載されている Model Conversation をペアで読み合い、ローマのコロッセオについての内容理解をする。 2 黒板に貼ったその他の世界遺産の写真を参考にしながら、行ってみたいと思うかなどペアで話し合う。 3 名詞の修飾表現がどのように使用されているか確認する。</p> <p>[指導上の留意点] ・活動1では、分からない単語を調べることはさせず、話の流れで、内容を判断させるように促す。 ・活動2では世界遺産の写真を黒板に貼ることで、会話を円滑に行えるような雰囲気をつくる。また、多少の間違いは気にせず、会話を行えるようにする。 ・活動3では、詳しい文法事項の説明は避け、使用場面を意識させる。</p>	<p>表現, 理解</p> <p>表現, 関・意・態</p> <p>知・理</p>	<p>活動の観察</p> <p>活動の観察</p> <p>定期テスト (後日)</p>

2	<p>[ねらい]</p> <p>行ってみたい国内外の場所についての発表用の原稿を作成する。</p> <p>[学習活動]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「行ってみたい国内外の場所とその理由」について 60 語程度で書く。 2 ペアで読み合って、添削をする。 3 プレゼンテーション用の原稿に仕上げる。 <p>[指導上の留意点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動 1 では、行きたい場所を列挙するような単調な文章にならないよう生徒に指導する。 ・活動 2 では、気付いた箇所は積極的に指摘するよう促す。 ・活動 3 では、プレゼンテーションの原稿の書き方を提示する。 	表現, 関・意・態	エッセイ・ライティング 活動の観察
3	<p>[ねらい]</p> <p>自分が行ってみたい場所について、作成した原稿を基に効果的に聴衆に話すことができる。</p> <p>[学習活動]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 プレゼンテーションを行う際の諸注意を聞く。 2 プレゼンテーションを行う。 <p>[指導上の留意点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動 1 では、プレゼンテーションにおいて注意すべき点を示す。 ・活動 2 では、プレゼンテーションが円滑に行える雰囲気づくりを行う。また、評価シートの記入をする時間を取り、生徒同士でもフィードバックし合えるようにする。 	表現, 関・意・態, 理解	活動の観察 評価シート

3 実践と考察

(1) 授業における言語活動の取組状況

ア ペア・ワークを中心とした活動

最初の授業でモデル文を読み、ローマに行きたくなくなったかどうかをペアで話し合わせた。モデル文を更に興味深い文章にするために何が必要かを話し合わせた。

次に、行ってみたい国内外の場所についてエッセイ・ライティングをしたのち、ペアで読み合って、添削をし、ペアを替えて発表をし合った。ほとんどの生徒は、終始、活発に活動を行っていた。

イ グループ・ワークを中心とした活動

まずは、1分間のプレゼンテーションを5人一組のグループで練習した。発表の機会が少ないため、最初は原稿を読みながら恥ずかしそうに発表する生徒もいたが、練習を重ねることでよくなった。全体

の場では多くの生徒が自分の気持ちを伝えようと一生懸命発表していた。聴く態度もよく、よい雰囲気の中で発表ができた。

(2) 評価の実際

ア パフォーマンス課題とルーブリック

単元の終わりに、プレゼンテーションを行った。評価の際にはルーブリックを用いた【資料1】。

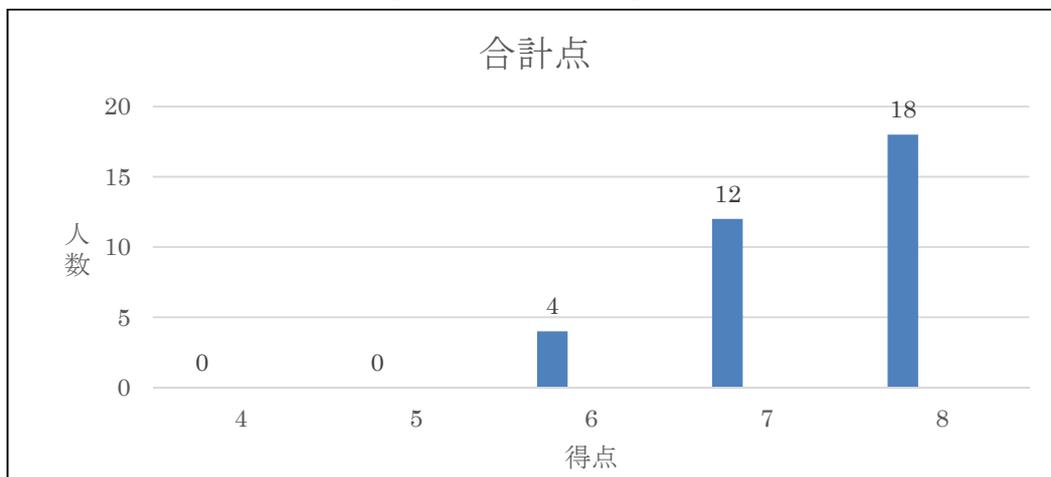


【グループ・ワークの様子】

イ 評価結果とその分布

以下に評価の分布を示す【資料2】。Voice, Posture, Speed においては、多くの生徒が評価2であった。一方で、Eye contact の部分で評価1となった生徒が何名かいた。理由としては、発表に慣れていないこともあり、うつむいて発表してしまったことが要因と考えられる。

【資料2 評価結果】



平均 7.4 点

ウ 生徒へのフィードバック

生徒一人一人にあらかじめ全員分の Evaluation Sheet を渡し、それぞれのプレゼンテーションを評価させた。全てのプレゼンテーションが終わった後、全員分を回収し、発表者に渡した。教員から個々の生徒へのフィードバックは行わなかったが、終了後に全体に対して、声の大きさがよかったということと、一方でアイコンタクトがもっと必要であることなどを講評した。

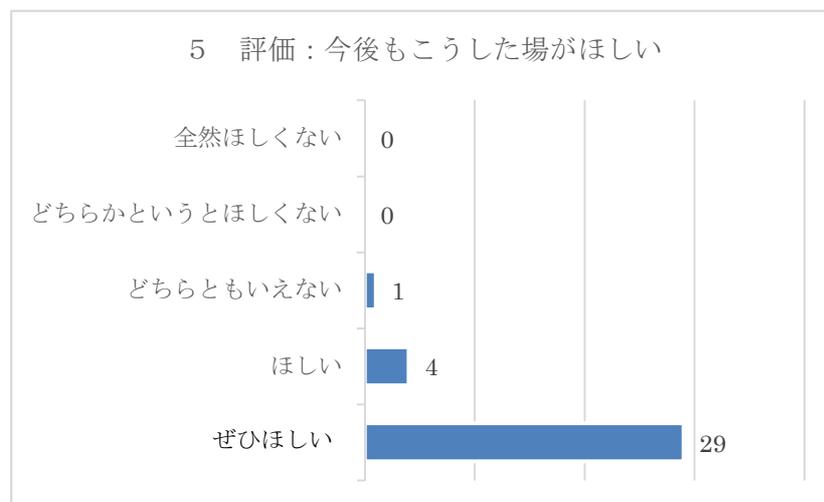
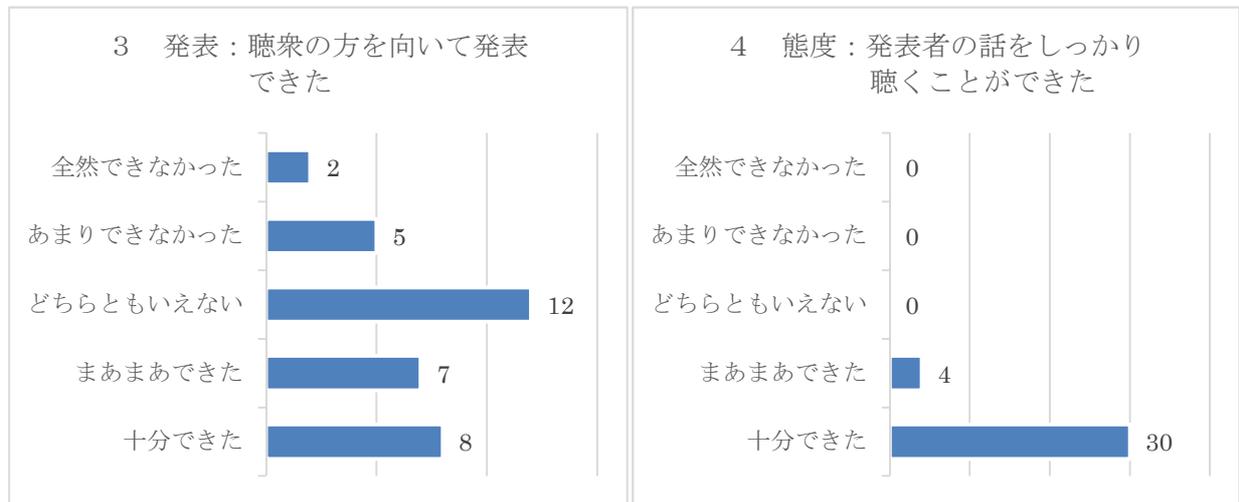
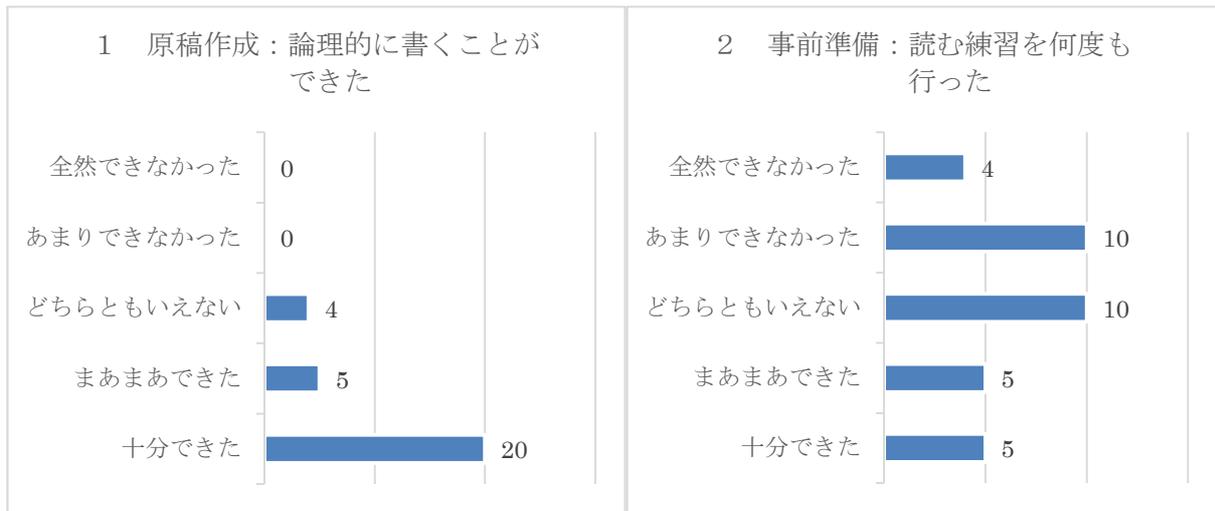
(3) 事後アンケート

アンケートはプレゼンテーションを行ったクラス 34 名を対象に行った。項目は以下のとおりとし、回答は全て 5 段階評価とした（「全然できなかった」～「十分できた」）【巻末資料2】。

- 1 原稿作成：論理的に書くことができた。
- 2 事前準備：読む練習を何度も行った。
- 3 発表：聴衆の方を向いて発表できた。
- 4 態度：発表者の話をしっかり聴くことができた。
- 5 評価：今後もこうした発表の場がほしい。

回答の分布は以下に示す【資料3】。

【資料3 アンケート結果】



項目1，4では、「十分できた」「まあまあできた」という回答がほぼ全員から得られた。一方で，項目2，3では、「あまりできなかった」「全然できなかった」が3割程度をしめた。家での練習をいかに

やる気にさせるかが課題である。また、項目5では、8割近くの生徒が「ぜひほしい」との回答であったのはよい傾向である。発表は恥ずかしい面もある一方、こうした活動が今後大切だということを生徒自身が分かっているようであった。

(4) 考察

ア ねらいの達成状況

プレゼンテーションを目標に、単元構想を基にして、導入から原稿作成へつながりをもって授業を行うことができた。プレゼンテーションを行うというゴールが明確であったので、いつものエッセイ・ライティングよりも聴衆を意識し、興味深いものに仕上がったように思う。聴く態度も良好であり、この活動を行うことで生徒が積極的に取り組むようになってきたと感じられたので、当初のねらいはおおむね達成できた。

イ 指導の手順について

1時間目に、モデル文を参考にして、自分の行きたい国内外の場所を具体的に考えさせたことが、その後の原稿作成をスムーズにしたように思う。一人一人が書き方を工夫し、興味ある内容となったので、モデル文が最も理想的な文章というわけでもないという学びもあった。

2時間目にペアで添削を行う時間を設けたが、添削の仕方が曖昧であったため、添削の基準を明確に指示する必要があった。

ウ 評価方法について

評価はルーブリックに基づいて、生徒と教員双方で行った。発表の評価規準は明確ではあったが、しっかり練習してきた生徒の評価とそうでない生徒の評価にあまり差が表れない結果となってしまった。その結果、ほとんどの生徒が高得点であった。生徒の意欲をよりよく反映させるため、今後は、採点項目や採点基準の見直しが必要であると感じた。

4 成果と課題

本実践を通して、プレゼンテーションが生徒たちの英語に対する意識を変えるきっかけとなったことを実感できた。それと同時に、評価の問題点も浮き彫りとなった。一つには、採点基準がある。今回はABの2段階基準であったが、ABCの3段階の基準であれば、準備をしっかりとってきた生徒たちによりよい評価ができるので、基準を精査していきたい。

次に、その評価と成績との相関関係も考えていく必要がある。今回は英語学習に意欲的な習熟度別の上位クラスで実践した。そのため、実際の成績に反映されないとしても生徒たちは大変前向きにプレゼンテーションに取り組んだ。実際、生徒たちのプレゼンテーション実施後のアンケートにも、「発表は恥ずかしかったが、楽しかった」「準備は大変だが、これから必要な力なので今後も挑戦したい」などの肯定的な意見が多かった。こうした、生徒たちの意欲を生かして、プレゼンテーションの質を高めていくには、学年の英語科、さらには英語科全体で連携を取っていく必要がある。

今回のようなプレゼンテーションは、毎回の授業で行えるものではない。しかし、継続して行っていかなければ、生徒の発信力の向上に結び付かない。決して、単なるイベントで終わってしまわないように、年間指導計画に組み込みながら、年度当初から計画していかなければならない。

【巻末資料 1】 Lesson 14 提出用シート

Write about a site you want to visit in Japan / a foreign country. In your paragraph, include the three points shown below. Try to use about 60 words for the paragraph.

1. the site
2. when and with whom
3. the reasons for your answer to 1 and 2

Evaluation Sheet

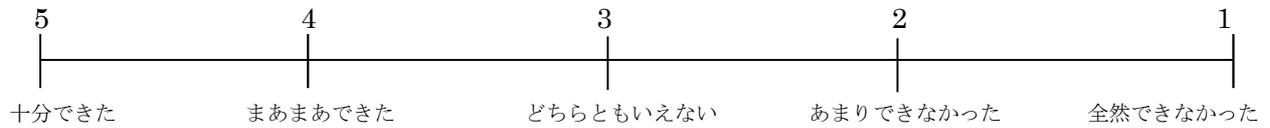
Presenter: _____ **Place :** _____

Voice	(2) 大きな声で、明確に話している	(1) 声が小さく、聞き取れない
Speed	(2) 聞き取りやすく、適切な速さである	(1) 速すぎて (遅すぎて)、聞き取りにくい部分がある
Posture	(2) 姿勢がよく立って話している	(1) 姿勢がよくない
Eye contact	(2) 観客を見て話している	(1) 下を向いて話している

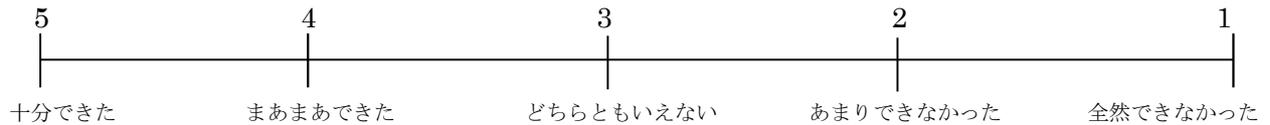
Total _____

【巻末資料2】プレゼンテーション 実施後アンケート

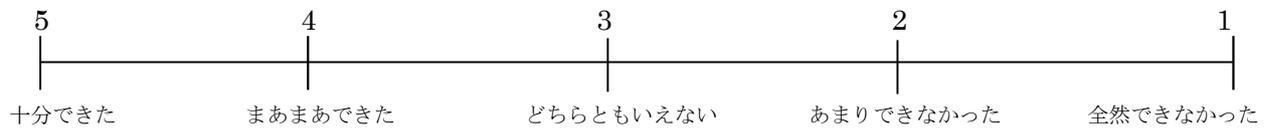
1 原稿作成：論理的に書くことができた。



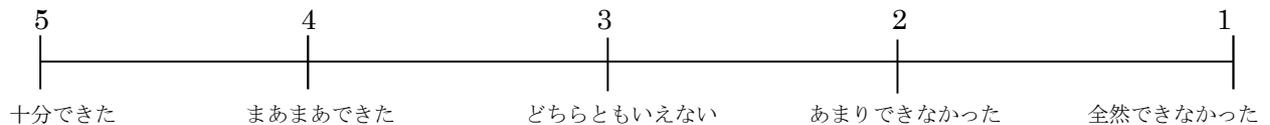
2 事前準備：読む練習を何度も行った。



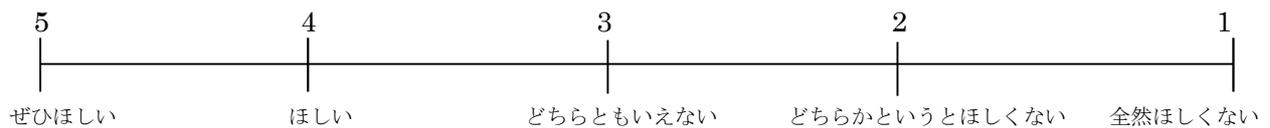
3 発表：聴衆の方を向いて発表できた。



4 態度：発表者の話をしっかり聴くことができた。



5 評価：今後もこうした発表の場がほしい。



6 その他：発表をしてみてどう思いましたか。

実践報告 7

ライティングにおけるエッセイ・ライティングと プレゼンテーションの指導と評価 －生徒の活動中心の授業による発信力の育成を目指して－

愛知県立瀬戸北総合高等学校 教諭 箕浦 麻里

1 実践のねらい

本校は各学年6クラスからなる全日制総合学科の高校である。7つの系列があり、生徒たちは各分野の知識を深めることができる。各系列に分かれての授業は少人数で行われることが多く、生徒の活動中心の授業を行うには大変適している。日頃から、活動から自分が得た情報や自分の意見を、ペアやグループのメンバーに「きちんと伝える活動」を盛り込んだ授業展開を心がけている。また、総括的活動として、エッセイを書かせることで、学んだことを書きながら整理をさせ、最終的には全体の場で効果的なプレゼンテーションができるよう指導をしている。

(1) 生徒の学びの現状

生徒たちの英語力は決して高くないが、元気がよく活動的であるため、活動を中心とした授業が適している。知識を事前に与えれば、それを使って発表しようとする意欲はあるので、まずは英語を使いたいと思わせる動機付けが重要である。総合学科では英語の授業以外にもプレゼンテーションを行う機会が多く、生徒は発表をすることに慣れているため、英語での発表にも抵抗感は少ない。発表をさせることで、更に自信をもつ生徒も多い。

(2) 指導と評価における課題

活動中心の授業は社交的な生徒にとってはよいのだが、友人と関わるのが苦手な生徒にとっては不利な状況も考えられる。そのため、ペア・ワークでの評価、グループ・ワークでの評価、個人としての活動の評価、全体の場での発表の評価、というように細かな評価の場面をつくり、さまざまな生徒の活動を評価し、全ての生徒の意欲を高めていく必要がある。

(3) 身に付けさせたい力

授業のどの過程においても、一人一人が英語を使う機会を多くつくり、自信をもって話す態度と発信する力を身に付けさせることを目指している。伝えたいことを論理的に書く力、プレゼンテーションにおいては、ジェスチャー、アイ・コンタクトを含めたデリバリーを考えながら効果的に話す力を身に付けさせたい。

本実践では、エッセイ・ライティング（今回はトラベル・ジャーナル）とプレゼンテーションに焦点を当て、発信する力を育成する指導と評価の在り方を探っていく。

2 実践の計画

(1) 学習指導計画（対象学年：第3学年、科目：ライティング）

ア 言語活動の工夫

世界のさまざまな名所の写真を示し、世界への関心をもたせる。その後、それらの名所がどこの国

にあるのか、自分はどこに行ってみたいのかをペアで話させる。次に、グループで「世界一周すごろくゲーム」(以下「すごろくゲーム」と表記)をしながら、それぞれの国についてのさらなる知識を得る。多くの情報の中から自分が関心のある情報を選び、それをグループ内の仲間に伝える活動をすごろくゲームの中で自然に行わせる。その後、自分がすごろくゲーム内で訪れた国とそこで行ったことを、トラベル・ジャーナルにまとめる。最終段階として、それを全体場で発表させる。

この一連の活動では、すごろくゲームを行いながら、各国の情報を得ることにより、楽しみながら世界への関心を高めさせる。さらに、すごろくゲームの中での自分の経験を基にトラベル・ジャーナルを書き、発表させる。どの過程においても生徒が楽しめる要素が含まれるように、授業を構想する。

イ ワークシートの工夫

以下の①～③のワークシートを用意する【巻末資料1～3】。

- ①本単元の導入時に使用する。世界の名所の写真を載せて、興味をもたせるよう工夫する。
- ②すごろくゲームを行う際に使用する。ゲームのルールとゲーム内で使う表現を載せており、生徒が表現を選んで使えるようにする。
- ③トラベル・ジャーナルを書かせる際に使用する。内容を時系列にまとめさせるためのヒントとして、Tool Box に表現例を示す。

上記3種のワークシートの他に、各グループに「世界一周すごろくゲーム」【巻末資料4】を配付する。また、プレゼンテーションの際に、評価シート(相互評価用は【巻末資料5】、教員用は【巻末資料6】)を使用する。

(2) 評価計画

ア 活動の観察

ワークシート①のペア・ワーク、すごろくゲームの際のグループ・ワークの活動を観察し、評価する(ルーブリックは作成していない)。活動に意欲的に参加しているか、英語を積極的に使っているか、相手の話すことにきちんと耳を傾け理解しようとしているか、の三つを「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」と「外国語理解の能力」の観点から評価する。

イ ワークシート

ワークシート①と③を評価対象とし、次の観点で評価する。

ワークシート①…1) ワークシートを効果的に使って、ペア・ワークに取り組むことができる。

(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)

2) ワークシートにきちんと書いている。(外国語表現の能力)

ワークシート③…1) 時系列を表す語句を効果的に使い、分かりやすくまとめている。【資料1】

(外国語表現の能力、言語や文化についての知識・理解)

2) 関係副詞の基本的な使い方を理解し、使うことができる。

(外国語表現の能力、言語の文化についての知識・理解)

【資料1】 トラベル・ジャーナルのルーブリック (外国語表現の能力)

評価規準	項目	採点基準 (内は点数)	Score
相手に伝える時に順序を表す言葉を効果的に使い発表できる。	内容	A (5) 時系列がよく分かり、よく言いたいことが伝わった	/5
		B (3) 時系列がだいたい分かり、ほぼ言いたいことは伝わった	
		C (1) 時系列が分からず、内容があまり伝わらなかった	

ウ パフォーマンス課題・ルーブリック【資料2】

クラス全体の前で行うトラベル・ジャーナルのプレゼンテーションを評価する。一人1分間で発表し、聞いている生徒たちは評価シートで発表者の発表を評価する。聞き手に伝わるように話しているかというデリバリーの観点（声の大きさと抑揚、アイ・コンタクト、表情、姿勢、ジェスチャーなど）から評価する。暗記を目的としていないため、ワークシートやメモを見ながら発表してもよいが、単なる読み上げにならないようにし、あくまでも他の生徒に効果的に伝えることができているかを評価する。

【資料2 パフォーマンス課題のルーブリック（外国語表現の能力）】

評価規準	項目	採点基準（内は点数）	Score	Total
聞き手に伝わるよう、デリバリーに注意を払って話すことができる。	Pronunciation	A（5）はっきり聞き取れて理解できる B（3）部分的に聞き取れないが理解できる C（1）聞き取れず、内容が理解できない	/5	/15
	Voice	B（2）大きな声で、明確に話している C（1）声が小さく、聞き取れない	/2	
	Eye Contact	B（2）聴衆を見て話している C（1）下を向いて話している	/2	
	Facial Expression	B（2）表情豊かに、笑顔で話している C（1）表情があまりなく、笑顔がない	/2	
	Posture	B（2）姿勢よく立って話している C（1）姿勢がよくない	/2	
	Gesture	B（2）ジェスチャーを入れて話している C（1）ジェスチャーなしで話している	/2	

(3) 単元構想

ア 使用教科書・単元名

COSMOS Writing (三友社)

Lesson 15 Language is Culture

イ 単元の目標と言語活動

【単元の目標】

世界のさまざまな国々と、その国で楽しめることを学ぶ。さらに、すごろくゲームの中で行った場所について、関係副詞を使いながら順序立てて紹介することができる。

【言語活動】

- ・すごろくゲームをしながら、世界旅行の疑似体験をする。
- ・世界旅行の疑似体験についてトラベル・ジャーナルに順序立てて書き、発表する。

ウ 単元のCAN-DO（4技能ごとの学習到達目標の設定）

話すこと		書くこと		聞くこと		読むこと	
学習到達目標	評価方法	学習到達目標	評価方法	学習到達目標	評価方法	学習到達目標	評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・すごろくゲームで行った場所について、時系列に話すことができる。 ・相手に伝わるように効果的に話すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・プレゼンテーション ・活動の観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・すごろくゲームで行った場所について、時系列に書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の発表を聞いて内容を理解し、適切に質問ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価シート ・活動の観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまなモデルのジャーナルを読み、表現のヴァリエーションを理解しながら読むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・活動の観察

エ 単元の評価規準（4観点ごとの評価規準の設定）

評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
評価規準	①グループで互いの言うことを聞き、助け合い、ともに理解を深めようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ①自分がすごろくゲームで行った場所について、時系列に書き、話すことができる。 ②相手に伝わるように効果的に話すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①相手の発表を聞いて内容を理解し、適切に質問ができる。 ②さまざまなモデルのジャーナルを読み、表現のヴァリエーションを理解しながら読むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①関係副詞 where, when, why の基本的な使い方を理解している。 ②時や順序を表す Discourse Marker の使い方を理解している。
内容のまとめ	①②話すこと	①書くこと、話すこと ②話すこと	①聞くこと ②読むこと	①②書くこと、話すこと
評価方法	①②活動の観察	①②活動の観察 ワークシート プレゼンテーション	①②ワークシート 活動の観察 評価シート	①②活動の観察 スピーチ 定期テスト

オ 指導と評価の計画

時間	ねらい, 学習活動, 指導上の留意点	評価の観点	評価方法
1	<p>[ねらい] 世界の国々への知識と関心を深める。将来旅行をしてみたい国と、そこでやってみたいことを考える。</p> <p>[学習活動]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 単元内容の背景となる知識を活性化する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ペアまたはグループでの意見交換 ・クラス全体での意見交換 2 ワークシート①を使って、行きたい場所とその理由を尋ね合う。 <p>[指導上の留意点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポイントを相手に口頭で伝える練習をさせる。 ・相手と話す際には、相手の目を見て話すよう指導する。 ・ペアを数回替えて練習を繰り返した後、グループ、そしてクラス全体へと移行することによって、さまざまな表現を仲間から学び、自分の意見に加えていく。 ・表現に詰まっている場合には、教師が質問をしながら、生徒から英語を引き出す。 ・次の学習が進めやすいように、ワークシートにポイントを分かりやすくまとめさせる。 	<p>理解 関・意・態</p> <p>理解, 表現, 関・意・態</p>	<p>活動の観察</p> <p>ワークシート 活動の観察</p>
2	<p>[ねらい] グループですごろくゲームをしながら、世界旅行の疑似体験をする。さまざまな表現を使いながら、感情を込めて話す練習をする。</p> <p>[学習活動]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 4人のグループですごろくゲームをする。 2 あいづちを打ちながら、相手の発言を聞く。 3 さまざまな表現を使って、感情を込めて話す練習をする。 <p>[指導上の留意点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すごろくゲームの際には、次の3点に留意させる。 <ol style="list-style-type: none"> ①同じ表現を繰り返し使わない。 ②相手の発言を黙って聞かない。必ずあいづちを打つようにする。 ③ワークシート②では、自分が言った内容には、□にチェックを入れる。トラベル・ジャーナルを書く際には、チェックを入れた表現を使うようにする。 	<p>関・意・態</p>	<p>活動の観察</p>

3	<p>[ねらい] すぐろくゲームで訪れた場所について、トラベル・ジャーナルを書く。</p> <p>[学習活動] 時や順序を表す Discourse Marker 等を用いて、分かりやすいトラベル・ジャーナルを書く。</p> <p>[指導上の留意点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効果的に述べる表現を示し、時系列で書かせる。 ・同じ表現の多用を避けるよう指導する。 ・トラベル・ジャーナルは、授業終了後に回収し、スペリングや文法のミスがないかをチェックして返却する。 	理解, 表現	エッセイ・ライティング 定期考査
4	<p>[ねらい] トラベル・ジャーナルをペア及びグループの両方で発表する。</p> <p>[学習活動]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ペアで発表する。時系列で書けているか、多くの表現が使えるかを互いに指摘し合う。相手を替えて、複数回行う。 2 グループで発表する。一人が発表するごとに、質疑応答を行う。生徒は、評価シートにある項目に基づいて評価する。 <p>[指導上の留意点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デリバリーに配慮して発表させる。 ・あいづちを打ちながら発表を聞くように指導する。 ・全員が少なくとも一回は質問するようにする。 ・評価は、内容とデリバリーの観点で行う。よい点を褒め合えるように指導する。 	関・意・態, 理解, 表現	プレゼンテーション 評価シート 活動の観察
5	<p>[ねらい] プレゼンテーションを実施する。</p> <p>[学習活動]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 クラス全体の前で自分の書いたトラベル・ジャーナルを一人1分以内で発表する。 2 発表者以外の生徒は、評価シートを使って評価を行う。 <p>[指導上の留意点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・厳正な試験として実施するため、発表者以外の生徒は手元に評価シートのみを置き、聞くことに集中させる。 ・評価に使用するため、発表を録音することを生徒に伝える。 	関・意・態, 理解, 表現	定期考査 (プレゼンテーション) 評価シート

(4) アンケート調査

すぐろくゲームを使った一連のグループ活動について、下記の項目において調査を行う【資料3】。

【資料3 アンケート項目】

	a とても 思う	b まあま あ思う	c どちらと も言えない	d あまり 思わない	e そう思 わない
1 授業内では英語を多く使ったか。					
2 コミュニケーションをとることができたか。					
3 エッセイ・ライティング（トラベル・ジャーナル） を難しいと思ったか。					
4 プレゼンテーションに意欲的に取り組めたか。					
5 活動後、他のメンバーと以前より仲よくなれたか。					
6 世界への関心は深まったか。					

※ 英語とは直接関係はないが、活動を通して社会性を高め、コミュニケーション能力を身に付けることを目指しているため、5も調査項目に含めている。

3 実践と考察

(1) 授業における言語活動の取組状況

ア ペア・ワークを中心とした活動

ワークシート①を使用し、導入としての活動を行った。世界の名所の写真を見ながら、行きたい場所についてペアで話し合い、世界への関心を高めた。最初は、「日本国内から出たくない」と言う生徒がかなりいたが、活動後は世界の国々に行きたいという生徒が増え、行きたい場所を複数の相手に英語で伝える様子が多く見られた。



【グループ・ワークの様子】

イ グループ・ワークを中心とした活動

ワークシート②を使いながら、すごろくゲームを行い、それぞれの国で楽しめることを学んだ。すごろくゲームを楽しみながら英語を多く使うこと、相手の話を聞き、あいづちを打ちながら聞くこと、グループ内でコミュニケーションをとることを目標とした。生徒たちはすごろくゲームを楽しみながら、活発に英語を話す様子が見られた。

(2) 評価の実際

ア トラベル・ジャーナルの評価

単元の終わりに、まとめの活動としてトラベル・ジャーナルを書かせ、ループリック【資料1】により評価した。定期考査の一部とし実施し、時系列を明確にする語句を効果的に使ってまとめられているかという点を重視して評価を行った。資料4に評価例を示す。

【資料4 内容の評価Aの例】

内容評価A（5点）

First of all, I visited the Philippines. It's a country where I could enjoy visiting Cebu and Bohol. Second, I went to Australia. It's a country where I could enjoy cruising. Third, I was happy to go to Italy, because I wanted to visit Venice, Firenze and Rome. Next, the day came when I could visit France. I wanted to visit Louvre Museum. Then, I enjoyed Niagara Falls in Canada.

In conclusion, I really enjoyed seeing many places, shopping and eating various foods during this trip.

(原文のまま)

イ プレゼンテーションの評価

クラス全体の前で、一人1分以内で自分の世界旅行について発表させ、ルーブリック【資料2】により評価を行った。声の大きさや抑揚、アイ・コンタクト、表情、姿勢、ジェスチャーといった細かい点において、評価を実施した。

ウ 生徒へのフィードバック

定期考査 100 点満点中、ペーパーテストを 80 点、パフォーマンステストを 20 点とし、結果を生徒に伝えている。現在は、得点を示すにとどまっているが、不十分だった部分を改善点として生徒に示す方法を検討中である。

(3) 定期考査による評価

定期考査では、世界旅行に関する情報を改めて与え、その情報を基にしてトラベル・ジャーナルを書くという問題を出題した。授業で自分が書いたものを暗記させるのではなく、新しく与えられた情報に基づいて書かせるようにした【資料5】。

【資料5 考査問題例】

IV You visited some European countries last summer. Write your travel journal. You have to use the past tense.

Write as much as possible. (10)

*European : ヨーロッパの, travel journal : 旅行記, past tense : 過去形,

as much as possible : できるだけたくさん

Date	Country You Visited	What You Did There
August 3~5	Greece	enjoy the remains of an ancient city enjoy Aegean Sea Cruises
August 5~7	Italy	enjoy Italian food, such as spaghetti and pizza enjoy visiting Venice
August 7~10	France	enjoy Louvre Museum enjoy visiting Mont Saint-Michel

(4) 事後アンケートと分析

事後アンケートの結果は、下記のとおりである【資料6】。

【資料6 アンケート結果】

生徒への質問	生徒の回答				
	a とても 思う	b まあま あ思う	c どちらと も言えない	d あまり 思わない	e そう思 わない
1 授業内では英語を多く使ったか。	16%	51%	16%	11%	5%
2 コミュニケーションをとることができたか。	35%	49%	11%	0%	5%
3 エッセイ・ライティング（トラベル・ジャーナル） を難しいと思ったか。	13%	27%	22%	35%	3%
4 プレゼンテーションに意欲的に取り組めたか。	16%	27%	35%	14%	8%
5 活動後、他のメンバーと以前より仲よくなれたか。	24%	27%	30%	11%	8%
6 世界への関心は深まったか。	14%	41%	32%	5%	8%

[アンケート結果の分析]

1 授業内では英語を多く使ったか

a, bの回答から、英語を多く使った生徒は67%だった。このことは、授業中の活動を観察して感じたクラス全体の印象と合致する。多くの生徒が、活動の中で英語を使おうと努力していたことが分かる。

2 コミュニケーションをとることができたか

a, bの回答から、80%以上の生徒が仲間とコミュニケーションをとることができたと感じていた。ふだんからコミュニケーションが苦手な一部の生徒は、d, eと回答をしていた。

3 エッセイ・ライティング（トラベル・ジャーナル）を難しいと思ったか

d, eの回答から、半数以上の生徒は難しいとは思わずに取り組んでいたことが分かる。難易度が高いエッセイ・ライティングだが、段階的に指導したことにより、効果が上がったと考えられる。

4 プレゼンテーションに意欲的に取り組めたか

a, bの回答から、43%の生徒たちは、意欲的に取り組んだことが分かる。普段から人前で話すことを苦手とする生徒たちは、d, eと回答をしているようであった。

5 活動後、他のメンバーと以前より仲よくなれたか

3年生であるため、もう既にクラス内での人間関係が構築されている段階であったことを差し引いても、aとbで51%もの生徒が仲よくなれたと回答している点は、大変好ましい結果であると考えられる。言語活動が良好なクラスの雰囲気づくりに役立つことを今後も大いに期待する。

6 世界への関心は深まったか

a, bの回答から、半数を超える生徒が「関心が深まった」との回答をしている。ゲームであっても、世界旅行をしてさまざまな場所を訪れるということが、世界への関心を高めるのに役立つことは興味深いことである。

(5) 考察

ア ねらいの達成状況

すごろくゲームをグループで行い、ゲーム中に得た情報を基にトラベル・ジャーナルをまとめ、それを発表するという一連の活動を実施した。生徒一人一人が違った内容を話し、相手に情報を伝えるということ、自分だけのトラベル・ジャーナルを書くということ、オリジナリティあふれる発表をすること、の三つが、生徒たちを真剣に授業に取り組ませる原動力になった。興味が湧きやすい世界のことを題材にしており、仮想の世界旅行をするという点も、生徒の好奇心をくすぐったと思われる。日頃目立たない生徒も含め、どのクラスにおいても生徒たちの取組は極めて良好であった。

イ 指導手順について

当初の予定どおりに進めることができた。語数の多いトラベル・ジャーナルにも生徒たちは抵抗なく取り組めた様子だった。難易度が高い活動であったにもかかわらず、多くの生徒があまり難しいと思わずに取り組めた点は評価できる。

ウ 評価方法について

パフォーマンステスト（プレゼンテーション）に関しては、生徒用と教員用を分けて評価シートを準備した。教員用には、細かい評価基準と得点が記載してあるものにしたため、どのクラスにおいても、比較的混乱なく評価できた。また、録音することで、評価についての生徒の疑問にも答えることができるようにした。その点においても、評価の信頼性は高められたと考える。

また、評価に関しては、さまざまな観点、さまざまな場面から生徒を評価するようにした。ワークシート、ペア・ワークとグループ・ワークへの取組状況、トラベル・ジャーナル、パフォーマンステスト等、生徒の幅広い活動のあらゆる側面を評価して、評価が偏らないように留意した。

4 成果と課題

(1) 実践の成果

今回の一連の活動では、生徒に英語を使う機会を多く与えることに成功したと言える。文法項目としては関係副詞がターゲットではあったが、それに縛られず、ゲームの中で世界に関心を広げ、仲間と楽しくコミュニケーションをとりながら英語を使うことができた。かなり長い文章を時系列に沿って分かりやすく書かせた上、更に発表させるところまで指導でき、生徒にとっては、コミュニケーション能力を身に付けるよい活動になったと考える。

(2) 今後の課題

以下の3点を今後の課題と考える。

- ①本実践では、教科書に基づいた内容を発展的に広げたワークシート等を使って指導した。今後も、教科書からヒントを得て、生徒の活動を中心とした授業を組み立てていきたいと考える。しかし、どのレッスンも活動の幅が広げられる内容ばかりであるとは限らない。単元構想と到達目標を明確にして、授業を組み立てていきたい。
- ②パフォーマンステストにおいて、評価項目を細かく設けて評価をした。今後、クラス間、指導の教員間において評価の差が生じることを防ぐために、録音したものを複数の教員で評価するなど、公平性を保つ方法を検討していきたい。
- ③生徒たちが改善点を知り、次への指針となるようなフィードバックの機会を与えたい。定期考査の機会だけではなく、パフォーマンスに対するコメントシートをつくって、一人一人に渡せるようにすることなどを検討していきたい。

参考文献等

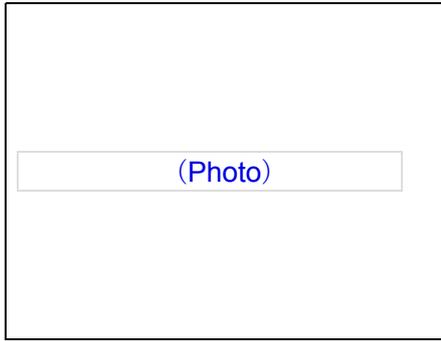
- 大下邦幸（2014）『意見・考え重視の視点からの英語授業改革』東京書籍
- 国立教育政策研究所教育課程研究センター（2012）『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 外国語）～新しい学習指導要領を踏まえた生徒一人一人の学習の確実な定着に向けて～』国立教育政策研究所
- 投野由紀夫（2013）『CAN-DOリスト作成・活用 英語到達度指標CEFR-Jガイドブック』大修館書店
- 文部科学省（2009）『高等学校学習指導要領』文部科学省
- 文部科学省（2013）『各中・高等学校の外国語教育における「Can-Do リスト」の形での学習到達目標設定のための手引き』文部科学省

Introduction of a Round-the-World Trip!

☆Where do you want to visit?

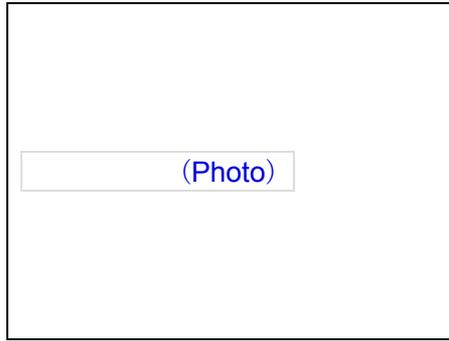
☆ Where is it?

Take a look at the photos below and write the names of the country.



Changdeokgung Palace

()



Great Wall

()



Forbidden City

()



Cebu

()



Bohol

()



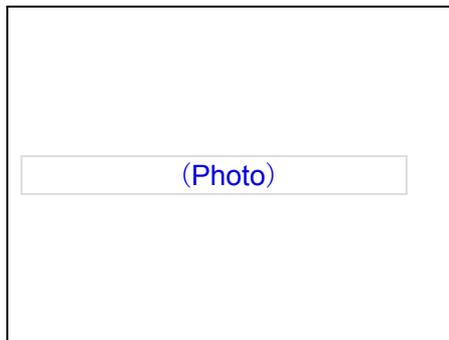
Ayers Rock

()



Marina Bay Sands

()



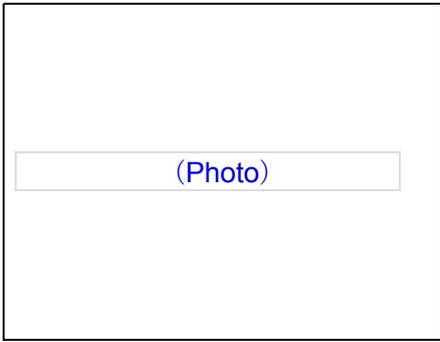
Ayutthaya Temples

()



Phuket

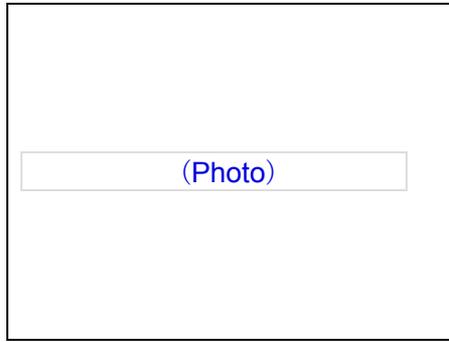
()



(Photo)

Taj Mahal

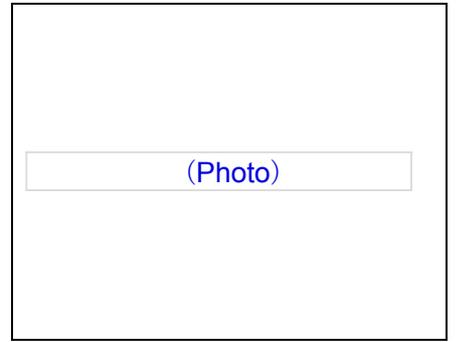
()



(Photo)

Dubai

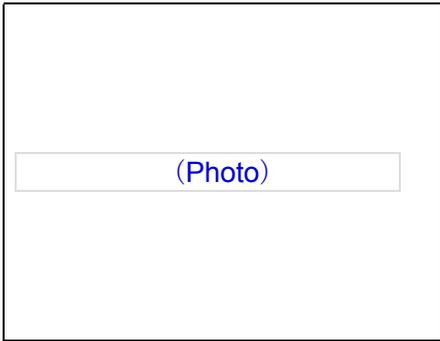
()



(Photo)

the pyramids of Giza

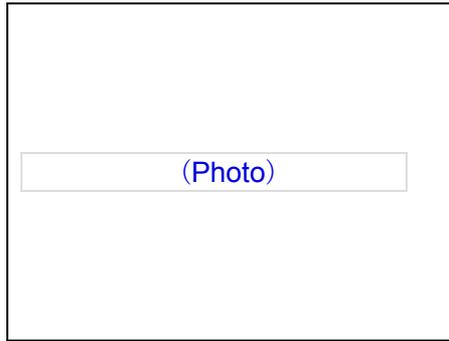
()



(Photo)

Egyptian Museum

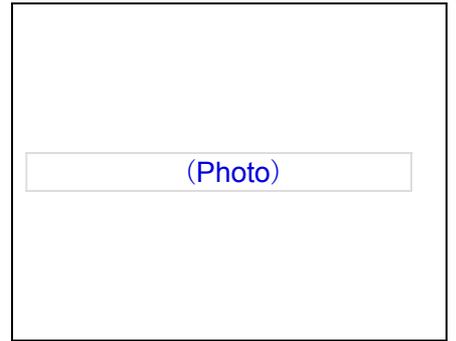
()



(Photo)

Luxor

()



(Photo)

Abu-simbel



(Photo)

Hagia Sophia

()



(Photo)

Istanbul

()



(Photo)

Parthenon

()



(Photo)

Venice

()



(Photo)

Firenze

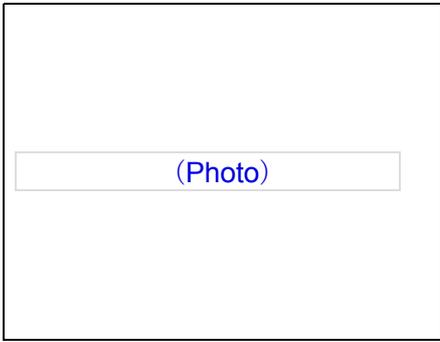
()



(Photo)

Rome

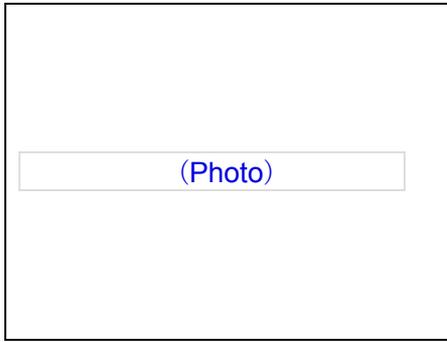
()



(Photo)

Neuschwanstein Castle

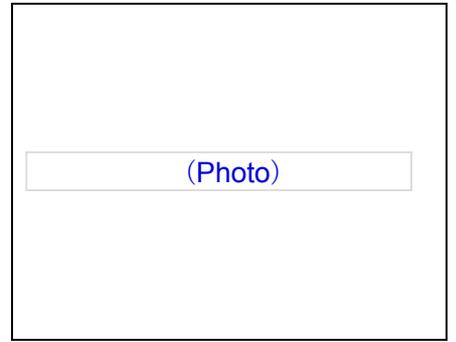
()



(Photo)

Berlin Wall

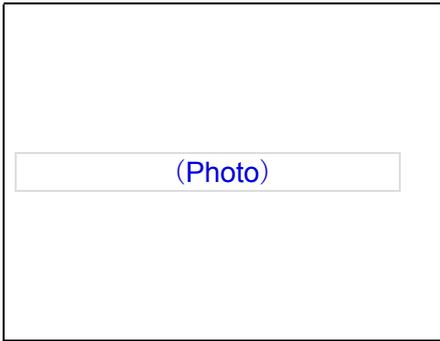
()



(Photo)

Louvre Museum

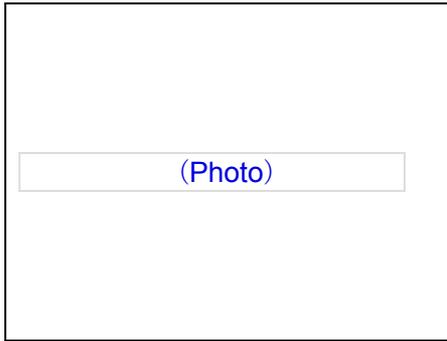
()



(Photo)

Versailles Palace

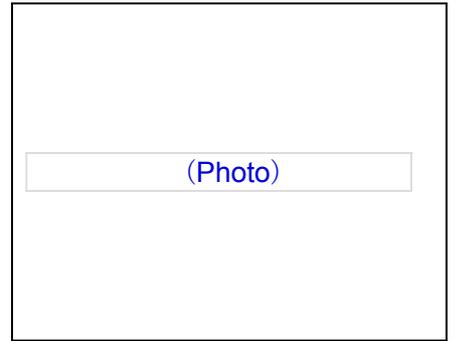
()



(Photo)

Mont Saint-Michel

()



(Photo)

Sagrada Familia

()



(Photo)

British Museum

()



(Photo)

Tower Bridge

()



(Photo)

British Castle

()



(Photo)

The Statue of Christ the Redeemer

()



(Photo)

Amazon River

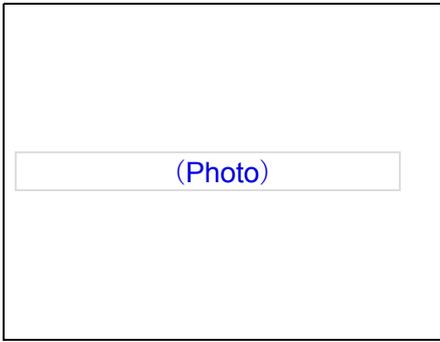
()



(Photo)

the Pyramid of the Sun

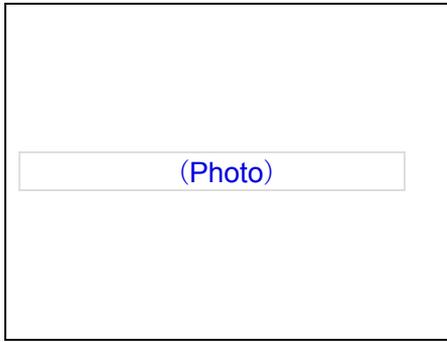
()



(Photo)

Grand Canyon

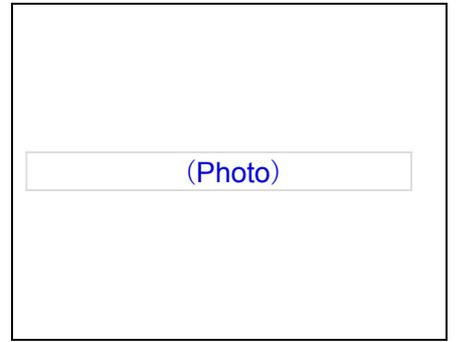
()



(Photo)

New York

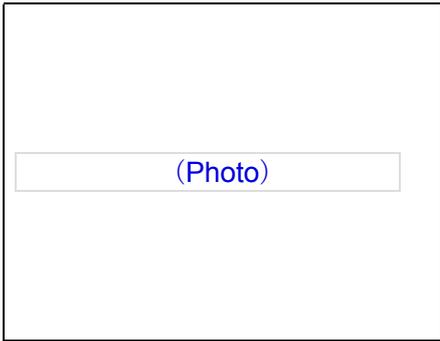
()



(Photo)

Disney World

()



(Photo)

Niagara Falls

()

Which photo fascinated you?

Class 3- () No. () Name ()

Let's Make a Round-the-World Trip!

[How to enjoy this game]

1. Make groups of four.
2. Make your own piece. * own 自分自身の piece コマ
3. Throw the dice and move your piece saying, *throw 投げる dice さいころ
- 4.

1. "Now I am in (). It's a country where I can ()."

Ex (例). Now I am in Egypt. It's a country where I can enjoy seeing the pyramids.

2. "Here in (), I can (). That's why I wanted to come here."

Ex (例). Here in Egypt, I can enjoy seeing the pyramids. That's why I wanted to come here.

3. "Here comes the day when I can ()! I wanted to come to ()!"

Ex (例). Here comes the day when I can enjoy seeing the pyramids!

I wanted to come to Egypt!

4. "I am very happy to be here in (), because I wanted to ()."

Ex (例). I am very happy to be here in Egypt, because I wanted to enjoy seeing the pyramids.

* You can choose to say any one of the four above. (上の1～4のどれを選んで言ってもOK!)
choose to ~ ~するのを選ぶ any one of the three 3つのうちのどれでも above 上の

* Fill in the blanks with the place name and what you can do there.

*fill in the blanks 空欄を埋める place name 地名 what you can do there そこでできること

* Check the places you went in the game.

5. The one who get to the goal first wins.
6. Write your travel journal.

Country (Capital city)	The things you can do
Korea (Seoul)	<input type="checkbox"/> enjoy shopping <input type="checkbox"/> enjoy Korean food, such as grilled beef and kimchi <input type="checkbox"/> enjoy visiting Changdeokgung Palace. *Changdeokgung Palace 王宮
China (Beijing)	<input type="checkbox"/> enjoy shopping <input type="checkbox"/> enjoy Chinese food, such as noodles and grilled rice. <input type="checkbox"/> enjoy visiting Great Wall of China and Forbidden City. *Great Wall of China 万里の長城 Forbidden City 紫禁城
Philippines (Manila)	<input type="checkbox"/> enjoy seeing the beautiful sea. <input type="checkbox"/> enjoy many kinds of fruit. <input type="checkbox"/> enjoy visiting Cebu and Bohol. *Cebu セブ島 Bohol ボホール島 j
New Zealand (Wellington)	<input type="checkbox"/> enjoy beautiful nature. <input type="checkbox"/> enjoy boats, sailing and kayak. *kayak カヤック <input type="checkbox"/> enjoy seeing some penguins. *penguin ペンギン
Australia (Canberra)	<input type="checkbox"/> enjoy seeing some animals, such as koalas and kangaroos. <input type="checkbox"/> enjoy visiting Ayers Rock. *Ayers Rock エアーズ・ロック <input type="checkbox"/> enjoy cruising.
Singapore (Kuala Lumpur)	<input type="checkbox"/> enjoy Night Safari. *Night Safari 夜の動物観察ツアー <input type="checkbox"/> enjoy staying at Marina Bay Sands. *Marina Bay Sands マリーナ・ベイ・サンズホテル (SMAP の Softbank の CM で有名になった高級ホテル) <input type="checkbox"/> enjoy a million dollar night view. * a million dollar night view 百万ドルの夜景
Thailand (Bangkok)	<input type="checkbox"/> enjoy an elephant ride. *an elephant ride ゾウに乗ること <input type="checkbox"/> enjoy visiting Ayutthaya Temples. *Ayutthaya Temples アユタヤ寺院 <input type="checkbox"/> enjoy visiting Phuket. *Phuket プーケット島
India (Delhi)	<input type="checkbox"/> enjoy Indian food. <input type="checkbox"/> enjoy visiting Taj Mahal. *Taj Mahal タージ・マハール <input type="checkbox"/> enjoy an elephant ride.
UAE / the United Arab Emirates (Abu Dhabi)	<input type="checkbox"/> enjoy visiting Dubai. *Dubai ドバイ <input type="checkbox"/> enjoy visiting the desert. *desert 砂漠 <input type="checkbox"/> enjoy the indoor skiing. *the indoor skiing 室内スキー
Egypt (Cairo)	<input type="checkbox"/> enjoy seeing the pyramids of Giza. *Giza ギザ (ピラミッドがある所) <input type="checkbox"/> enjoy visiting Egyptian Museum. *Egyptian Museum (通称) カイロ考古学博物館 (ツタンカーメンの黄金のマスクがある) <input type="checkbox"/> enjoy visiting Luxor and Abu-Simbel Temples. *Luxor and Abu-Simbel Temples ルクソールとアブシンベル神殿
Turkey (Ankara)	<input type="checkbox"/> enjoy visiting Hagia Sophia. *Hagia Sophia アヤ・ソフィア (イスラム教とキリスト教両方の寺院) <input type="checkbox"/> enjoy eating shish kabab. *shish kabab シシカバブ (羊肉の串焼き料理) <input type="checkbox"/> enjoy visiting Istanbul. *Istanbul イスタンブール (都市)

Greece (Athens)	<input type="checkbox"/> enjoy the remains of an ancient city. *remains 遺跡 an ancient city 古代都市 <input type="checkbox"/> enjoy Aegean Sea Cruises. *Aegean Sea Cruises エーゲ海クルーズ <input type="checkbox"/> enjoy visiting Parthenon *Parthenon パルテノン神殿
Italy (Rome)	<input type="checkbox"/> enjoy the remains of an ancient city *remains 遺跡 an ancient city 古代都市 <input type="checkbox"/> enjoy Italian food, such as spaghetti and pizza. <input type="checkbox"/> enjoy visiting Venice, Firenze and Rome. *Venice, Firenze, Rome ベニス、フィレンツェ、ローマ (イタリアの有名な観光都市)
Germany (Berlin)	<input type="checkbox"/> enjoy visiting Neuschwanstein Castle. *Neuschwanstein Castle ノイシュバンシュタイン城 (Disneyのお城のモデルになった美しいお城) <input type="checkbox"/> enjoy visiting Berlin Wall. *Berlin Wall ベルリンの壁 <input type="checkbox"/> enjoy German beer and Vienna sausages. *beer ビール Vienna Sausages ウインナー・ソーセージ
France (Paris)	<input type="checkbox"/> enjoy Louvre Museum. *Louvre Museum ルーブル美術館 <input type="checkbox"/> enjoy visiting Versailles Palace. *Versailles Palace ベルサイユ宮殿 <input type="checkbox"/> enjoy visiting Mont Saint-Michel. *Mont Saint-Michel モン・サン＝ミシェル (小島にある世界遺産の修道院)
Spain (Madrid)	<input type="checkbox"/> enjoy seeing flamenco dancing. *flamenco フラメンコ <input type="checkbox"/> enjoy seeing Sagrada Familia. *Sagrada Familia. サグラダ・ファミリア教会 (バルセロナにある未完成のガウディの代表作である教会) <input type="checkbox"/> enjoy eating Spanish food, such as paella. *paella パエリア (スペインの魚介類がいっぱい入った炊き込みご飯)
United Kingdom (London)	<input type="checkbox"/> enjoy British Museum. *British Museum 大英博物館 <input type="checkbox"/> enjoy seeing Tower Bridge. *Tower Bridge ロンドンを象徴する橋 <input type="checkbox"/> enjoy visiting British castles. *British castles イギリスにはお城が多くある
Brazil (Brasilia)	<input type="checkbox"/> enjoy seeing the Statue of Christ the Redeemer. *the Statue of Christ the Redeemer 救世主キリストの像 <input type="checkbox"/> enjoy seeing some soccer games. <input type="checkbox"/> enjoy visiting Amazon River. *Amazon River アマゾン川
Mexico (Mexico City)	<input type="checkbox"/> enjoy seeing the Pyramid of the Sun. *the Pyramid of the Sun 太陽のピラミッド <input type="checkbox"/> enjoy swimming in the beautiful sea. <input type="checkbox"/> enjoy scuba diving and snorkeling. *scuba diving and snorkeling スキューバ・ダイビングとシュノーケリング
United States of America (Washington D.C.)	<input type="checkbox"/> enjoy visiting Grand Canyon. *Grand Canyon グランド・キャニオン <input type="checkbox"/> enjoy visiting New York. <input type="checkbox"/> enjoy visiting Disney World.
Canada (Ottawa)	<input type="checkbox"/> enjoy seeing Niagara Falls. *Niagara Falls ナイアガラの滝 <input type="checkbox"/> enjoy whale watching. *whale watching くじらウォッチング <input type="checkbox"/> enjoy skiing and snowboarding. *snowboarding スノーボードをやること

Class 3-() No.() Name ()

Seto Kita Sogo English Revolution

The Round-the-World Sugoroku



For Students

2014 3rd graders'

Performance Test

Mid-Term Examination 【巻末資料5】

	Name	Voice 声の大きさ	Pronunciation 発音	Eye Contact アイ・コンタクト	Facial Expression 顔の表情	Posture 姿勢	Gesture ジェスチャー	Comments コメント
1								
2								
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								

Class _____ No. _____ Name _____

◎Very good! ○Good! △So so.

Writing用

2014 3rd graders' Performance Test Evaluation Form For Teachers 【巻末資料6】

	採点方法	Content 内容	Pronunciation 発音の正確さ	Voice 声の大きさ	Eye Contact アイコンタクト	Facial Expression 表情豊かか	Posture 姿勢	Gesture ジェスチャー	Total Score 得点	Notes
	Name	5・3・1	5・3・1	2・1	2・1	2・1	2・1	2・1	/20	
1										
2										
3										
4										
5										
6										
7										
8										
9										
10										
11										
12										
13										
14										

Teacher's Name _____